

こまきのけんこう

令和 6 年
(令和 5 年度実績)

小 牧 市



キミと一緒に、育っていきたい。
Komaki



市 章

左よりかたかなで「コマキ」を表し、
市章全体は、空港都市小牧の象徴で
ある航空機の機関部正面を表し、将
来への飛躍を物語っています。

（昭和30年4月1日制定）

小牧市民憲章 市制施行30周年

わたくしたち小牧市民は、小牧を

1. 健康で生きがいのある明るいまちにしましょう。
1. 感謝と思いやりのあるあたたかいまちにしましょう。
1. 緑とやすらぎのある美しいまちにしましょう。
1. 高い文化と教養のある豊かなまちにしましょう。
1. 希望と働く喜びのある活気あふれるまちにしましょう。

小牧市民憲章は、市民の道しるべとして、健康で明るい生活を送るため、また、市民一人ひとりの心構えや果たすべき役割を明確化し、心ふれあう豊かな社会を形成するため、小牧市制施行30周年を記念し、昭和60年5月15日に制定されました。

こども夢・チャレンジ No.1 都市宣言(要約)市制施行 60 周年

私たちは、こどもの夢への挑戦をまち全体で応援することで、こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、支え合う、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまちになっていくと確信します。

そこで、私たち小牧市民は、

- 一. こどもの夢への挑戦を応援することで元気になるまち
- 一. 世代を越えて市民のつながりが生まれるまち
- 一. 支え合うことでさらに住みよくなっていくまち

このようなまちの実現に向け、小牧市を「こども夢・チャレンジ No.1都市」とすることをここに宣言します。

こども夢・チャレンジNo.1都市宣言は、小牧市の特徴である「子育て支援が充実している」姿を一層高め、「こどもを中心に世代を越えて市民がつながり、支え合う、すべての市民が暮らしやすい、あたたかいまち」を小牧市全体で目指し、市内外に発信していくため、小牧市制施行60周年を記念し、平成27年5月17日に宣言しました。

目 次

第1	小 牧 市 の 概 要	1
第2	保健センターの機構及び事務分掌	2
第3	保 健 事 業 の 変 遷	3
第4	衛 生 統 計	17
第5	成 人 保 健 事 業	18
1	成人保健事業一覧	20
2	健 康 手 帳 交 付	21
3	人 間 ド ッ ク	21
4	健 康 診 査	21
5	肝炎ウイルス検診	22
6	が ん 検 診	23
7	骨粗しょう症検診	30
8	健 康 教 育 事 業	31
(1)	乳がん検診時健康教育	31
(2)	地区健康教育	31
(3)	職域健康教育	33
(4)	出前講座（国保協力事業）	33
(5)	自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）	35
9	健 康 相 談 事 業	37
(1)	医師健康相談	37
(2)	保健師等健康相談	37
(3)	保健師・管理栄養士による生活習慣病予防相談	38
(4)	精神保健福祉士による心の健康相談	39
10	訪 問 指 導	40
11	ヤ ン グ 健 診	44
12	地域支援事業 一般介護予防事業	49
13	第2次健康日本21こまき計画 健康こまきいきいきプランの推進	61
14	こまき健康いきいきポイント事業	65
15	ウォーキングアプリ「alko」	67
16	国民健康保険加入者における糖尿病性腎症重症化予防事業	69
第6	予防接種事業及び結核予防事業	71
1	予防接種事業	71
2	結核予防事業	72
3	愛知県広域予防接種	73
4	指定医療機関外定期予防接種	73

5	定期外予防接種	73
6	おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業	73
7	風しんワクチン予防接種費用助成事業	74
8	予防接種特別再接種費用助成事業	74
9	風しん対策事業	75
10	子宮頸がんワクチン任意接種補助金交付事業	75
11	小牧市帯状疱疹予防接種費用の助成事業	75
第7	母子保健事業	76
1	母子保健事業一覧	77
2	親子健康手帳（母子健康手帳）交付	78
3	妊婦・産婦・乳児個別健康診査	80
4	健康診査事業	82
(1)	4か月児健康診査	82
(2)	1歳6か月児健康診査	85
(3)	3歳児健康診査	88
(4)	乳幼児健診未受診者支援事業	91
5	健康教育事業	95
(1)	離乳食教室（初期：ごっくん教室、後期：かみかみ教室）	95
(2)	健康教育	96
(3)	生と性に関するカリキュラムの推進への取り組み	97
(4)	小牧市協働提案事業「摂食障害予防啓発協働事業」	98
6	相談事業	99
(1)	母乳相談	99
(2)	市内児童館巡回育児相談、妊産婦健康相談	100
(3)	2歳3か月児歯科健康診査時育児相談	102
(4)	栄養相談	103
(5)	母子電話相談	103
(6)	臨床心理士による相談	106
(7)	運動発達相談	107
(8)	なかよし教室	110
(9)	おひさまサロン	111
(10)	すくすく広場	113
7	訪問事業	114
(1)	保健センター保健師による妊婦・産婦・乳幼児訪問	114
(2)	助産師による妊婦・産婦・新生児・乳児訪問	115
(3)	管理栄養士による訪問	117
8	小牧市中学生ピロリ菌検査事業	118
9	外国人通訳の配置	119
10	産後ケア事業	120
11	1stアニバーサリー事業	123
12	利用者支援事業	124
13	小牧市すくすく子育て応援事業	125
14	こまき巡回バス「こまくる」マタニティフリーパス配布事業	126

第8 歯 科 保 健 事 業	127
1 歯科保健事業一覧	127
2 各事業の内容	128
(1) 妊婦個別歯科健診	128
(2) 4 か月児歯科指導及び母親歯科健診	129
(3) 1 歳 6 か月児歯科健康診査	130
(4) 2 歳 3 か月児歯科健康診査	132
(5) 3 歳児歯科健康診査	134
(6) 離乳食教室：後期かみかみ教室	136
(7) にこにこむし歯予防教室	137
(8) 保育園歯みがき教室	139
(9) 8 0 2 0 歯っぴースマイル！歯みがき教室	140
(10) 学校歯科健診	141
(11) 歯周病予防個別健診	142
(12) いきいき世代個別歯科健診	144
(13) ヤング健診・結果説明会	146
(14) 知って得するフレイル予防講座～おくち編～（介護予防事業）	147
(15) アクティブシニア応援セミナー	148
(16) 健康づくり応援隊☆認定講座	149
(17) 防ごう誤嚥性肺炎！これであなたも歯(し)あわせ講座(出前講座)	150
(18) フレイル改善個別相談	151
(19) 歯の健康相談	152
(20) 歯科電話相談	152
(21) 歯科健康教育	153
(22) 訪問口腔衛生指導	155
(23) 8 0 2 0 表彰	156
(24) 歯の健康センター（～歯ピカピック2 0 2 3～）	156
(25) 口腔がん検診	157
第9 地 区 組 織 活 動	158
1 保健連絡員活動	158
(1) 保健連絡員設置数	158
(2) 保健連絡員会議	158
(3) 個人活動	158
(4) 地区活動	160
(5) グループ活動	164
(6) がん死亡撲滅モデル地区活動	169
(7) 保健連絡員・保健連絡員OBによる赤ちゃん訪問	170
(8) 保健連絡員・保健連絡員OBによる訪問説明会および学習会 ..	174
(9) 地区懇談会	174
(10) 1 年目・終了者交流会	175
(11) 保健連絡員学習会	175
(12) 保健連絡員養成講座	176

(13) 保健連絡員役員会	177
2 小牧市食生活改善協議会	178
3 牧連体操クラブ	181
4 楽育相談	182
第10 救急医療活動	183
1 救急医療活動	183
(1) 救急医療情報システム	183
(2) 救急医療情報センター利用状況	183
(3) 小牧市休日急病診療所	184
第11 その他	186
1 各種協議会等開催状況	186
2 不妊治療等助成事業	190
3 不育症治療等助成事業	191
4 小牧市自殺対策計画の推進	192
5 骨髄提供者等助成事業	193
6 小牧市がん患者医療用補整具購入費助成金	194
7 小牧市若年がん患者在宅療養助成金	195

編集・発行

令和 6 年 11 月

小牧市常普請一丁目318番地

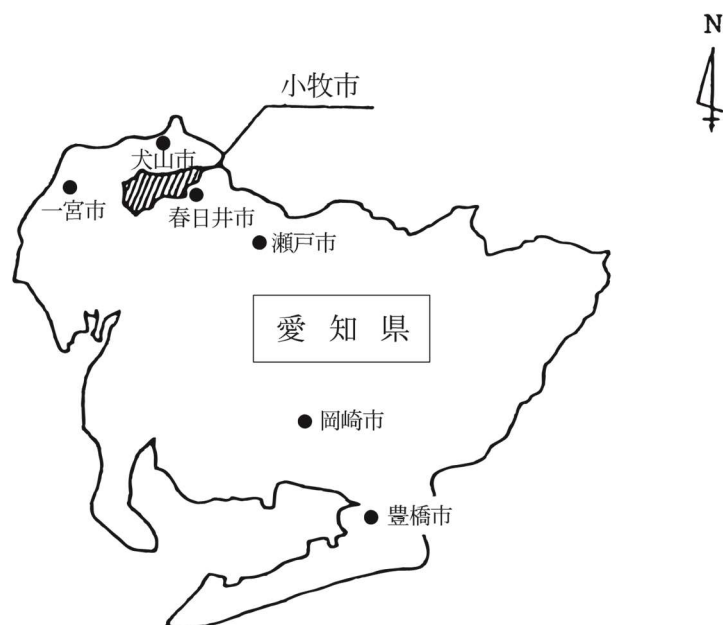
小牧市保健センター

☎ (0568) 75 - 6471

第1 小牧市の概要

第1 小牧市の概要

- (1) 市制施行 昭和30年1月1日
- (2) 市役所所在地 小牧市堀の内三丁目1番地
東経 136度54分
北緯 35度17分
- (3) 面積 62.81平方キロメートル
東西 14.82キロメートル
南北 9.22キロメートル



昭和30年1月、小牧町・味岡村・篠岡村の1町2村の合併により県下21番目の市として市制を施行し、その後昭和38年9月には北里村を編入して現在の市域を持つ小牧市は、愛知県の北西部、名古屋市の北約15kmに位置している。

市制施行後、東名・名神高速道路及び中央自動車道の結節点という陸上交通の要衝と空の玄関口・県営名古屋空港を併せ持つ地の利に恵まれ、田園都市から内陸工業都市・尾張北部の中核都市へと飛躍的な発展を続けている。

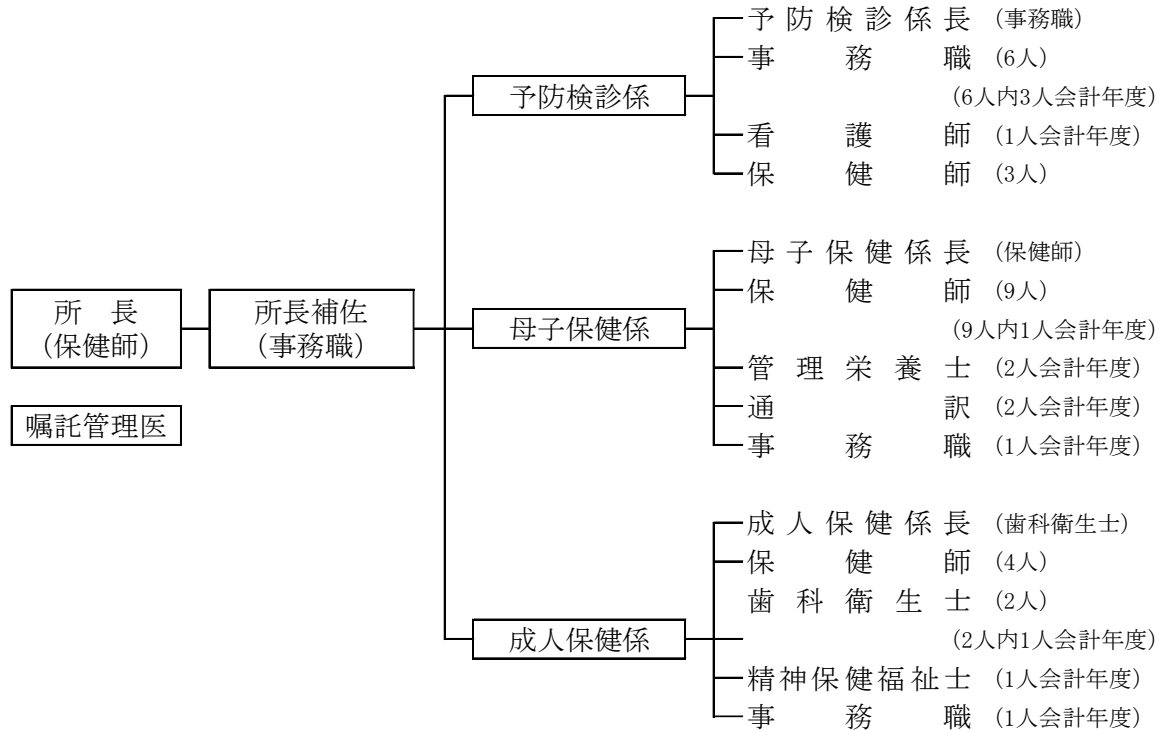
現在、小牧市は、「こども夢・チャレンジNo.1都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」をまちづくりの機軸として掲げ、更に“誰一人取り残さない”持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGsや、ダイバーシティの考えも取り入れて、まちづくりを進めているところであります。

第2 保健センターの機構及び事務分掌

第2 保健センターの機構及び事務分掌

1 構 成 （職員数35人内1人嘱託・13人会計年度）

※令和5年4月末現在



2 事務分掌

	予防検診係	母子保健係	成人保健係
成人保健	1 健康手帳交付 2 健康診査 3 がん検診 4 肝炎ウイルス検診 5 骨粗しょう症検診 6 結核検診 7 予防接種 8 休日急病診療所		1 健康教育 2 健康相談 3 訪問指導 4 ヤング健診 5 歯周病予防個別健診 6 いきいき世代個別歯科健診 7 口腔がん検診
母子保健	1 予防接種 2 小牧市中学生ピロリ菌検査事業	1 乳幼児健康診査 2 健康教育 3 保育・教育現場との連携事業 ①歯みがき教室 (保育園・幼稚園・こども園) ②園児対象う蝕対策普及啓発活動 ③8020歯っぴースマイル!歯みがき教室 (小学校) ④生と性に関するカリキュラム 4 相談事業 ①育児相談 ②母乳相談 ③電話相談 ④発達相談 ⑤運動発達相談 5 訪問事業 6 妊婦個別歯科健診	
地域保健組織育成		1 保健連絡員活動「赤ちゃん訪問」	1 保健連絡員養成 2 保健連絡員教育・学習 3 保健連絡員・OB活動 4 食生活改善推進員育成
その他	1 感染症予防 2 歯の健康センター 3 介護保険地域支援事業 (介護予防事業) 4 不妊不育治療等助成事業 5 健康こまきいきいきプラン推進 6 自殺対策事業 7 骨髄提供者等助成事業 8 小牧市がん患者医療用補整具購入費助成金 9 若年がん患者在宅療養助成金		

第 3 保健事業の変遷

第3 保健事業の変遷

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
昭和40年	・農夫症対策開始	・新生児全戸訪問 (国保対策)		・保健婦3人	63,365
41年	・そさいグループ健診開始 ・老人クラブ保健指導開始 ・高血圧料理講習会開始 ・健康相談室開催				64,091
42年			・腸・パラチフス廃止 ・百日咳・ジフテリアに 破傷風が入り二種混合 から三種混合に変わる		67,052
43年	・胃がん検診開始		・種痘切皮法から多圧法 に変わる ・BCG切皮法から管針 法に変わる	・看護婦1人	71,900
44年	・そさいグループ健診終了 ・子宮がん検診開始		・ハイジェット使用開始 (61年まで)		75,962
45年	・農夫症対策終了	・赤ちゃん教室開始 ・乳児健診開始(1回)	・問診票使用開始 ・予防接種事故救済制度 始まる	・看護婦2人体制 ・保健婦4人体制	79,842
46年	・糖尿病料理講習会開始	・乳児健診(2回) ・2歳児講習会開始	・日本脳炎1歳から3歳、 日本脳炎小2、中1、 55～64歳に改正	・消毒室開設	85,006
47年					88,537
48年	・成人病健康診査開始				92,697
49年		・1歳児健診開始	・ツベ・BCG 0～4歳、小 学1年、中1・2年に改正 中2・小2は前年BCGのみ		95,884
50年	・保健衛生推進協議会設置	・乳児健診(4回)	・百日咳中止 ・種痘廃止		98,528
51年	・住民健診に血圧、検尿を 導入	・2歳児講習会終了	・二種混合3期入学前廃止		99,566
52年		・1歳児健診終了 ・1歳6か月児健診10回	・風疹開始(中学3年女子)		100,236
53年	・小牧市民健康づくり推 進協議会設置	・1歳6か月児健診24回	・風疹中学1・2年女子 に改正 ・日脳55歳～64歳中止 ・予防接種事故調査委員 会発足	・保健婦国保から市町村 に移管 ・休日急病診療所開設	100,837
54年	・住民健診ポスター作成	・1歳6か月児健診36回 ・事後検診開始 3回	・麻しん個別接種開始	・保健婦3人体制	102,160
55年	・保健健康づくりモデル 地区活動開始 ・コミュニティースポー ツ振興会における健康 づくり開始 ・糖尿病予防教室開始 ・肥満教室開始 ・高血圧教室開始	・1歳6か月児健診に歯 科健診を導入 ・なかよし教室(6回) ・幼児教室開始(6回)	・百日咳復活(三種混合) ・風疹中学1年女子に改正 ・ポリオ投与法スプーン からピペットに改正	・救急医療情報システム スタート ・保健婦4人体制	103,985
56年	・コンピュータードック開始 ・肥満教室、高血圧教室 等シリーズ開始				106,630

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
昭和57年	・保健衛生推進協議会廃止 ・乳がん自己検診法開始	・妊婦貧血教室開始(2回)	・一般会場一針一筒となる		108,885
58年	・健康手帳交付開始 ・北里支所健康相談中止 ・一般健康診査開始 ・小牧市健康まつり開始	・妊婦貧血教室(3回)		・保健婦3人体制	110,281
59年	・成人病教室の充実 ・コンピュータードック終了 ・大腸がん検診開始 ・子宮がん施設検診開始 ・保健連絡員養成講座開始	・妊婦貧血教室(4回) ・小冊子の作成 ・なかよし教室(12回)	・予防接種事故調査委員会廃止		112,097
60年	・肺がん検診開始 ・保健連絡員活動開始 ・一般健康診査ポスター作成開始	・妊婦貧血教室を妊婦栄養教室に改正(5回)			113,670
61年	・一般健康診査対象者へ個人通知 ・乳がん検診開始	・妊婦栄養教室(6回)人形劇開始、尿中塩分量測定、みそ汁塩分測定 ・2語文アンケート		・保健婦4人体制	115,211
62年	・肺がんX線開始		・ハイジェット使用全面廃止 ・麻しん無料化 ・インフルエンザ任意、保護者同意となる	・保健婦1人増員 保健婦5人 看護婦2人	117,198
63年	・基本健康診査の開始 ・リハビリ教室開始 ・人間ドックの開始	・1歳6か月児健診に精密検査を導入 ・2語文アンケートを2歳児アンケートに改正	・予防接種電算調査	・保健センター開設 ・栄養士1人配置(職員13人) ・看護婦1人増員	119,935
平成元年		・妊婦栄養教室を妊婦教室に変更 歯の健診を導入(12回) ・1歳6か月児健診に心理相談を導入	・MMR(新三混)開始	・看護婦3人体制 ・補佐職配置 ・保健指導係長兼務(職員14人)	122,913
2年	・訪問生活リハビリ開始 ・40歳無料大腸がん検診開始 ・食生活相談紹介状の導入により医師会との食事指導の連携できる ・「生きがいの会」発足		・予防接種協議会の設置	・保健婦1人増員 ・保健婦6人体制(職員15人)	125,261
3年	・乳がん検診にDMRを導入 基本健診に尿酸、総蛋白を加える		・MMR凍結		129,267
4年	・成人歯科健診 ・がん死亡撲滅地区事業開始 モデル地区 ＝岩崎原区、市之久田区 歯科衛生士による訪問指導開始				131,024
5年	・成人健康管理システム稼働 基本健康診査にHDL・中性脂肪・クレアチニン追加 ・がん死亡撲滅モデル地区＝三ッ渕区、野口区 ・成人歯科健診を3回から6回に拡大 ・ボランティア健康劇団「ほたる」発足 ・地域ケアボランティア「ともしび」発足			・補佐職兼務を解く ・歯科衛生士1人配置 ・看護婦1人退職(職員数16人) 保健婦6人 看護婦2人 栄養士1人 歯科衛生士1人	133,723

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成6年	・人間ドック300人増加(総数1,800人) ・人間ドック受診料5,660円→6,000円 ・人間ドック検便を2日法に変更 ・骨粗しょう症検診健康教育 ・がん死亡撲滅モデル地区＝小牧原区、北外山県住区 ・ボランティア「つつじ」(1人ぐらし老人食生活の工夫)発足 ・小牧市老人保健福祉計画作成	・乳幼児管理システム稼働 ・母子保健法一部改正	・インフルエンザ取りやめる ・予防接種法一部改正により、予診医師1人1時間あたり100名→20名	・保健婦1人増員 ・保健婦7人体制(職員数17人)	135,632
7年	・人間ドック300人増加(総数2,100人) ・骨粗しょう症予防教室 ・地域リハビリの集い「たんぼの会」開始(南岩崎台) ・がん死亡撲滅モデル地区＝本庄区、藤島団地区 ・保健連絡員活動10周年記念事業 ・健康まつりで骨粗しょう症検診(国保会計)		・風しん個別接種 ・予防接種法一部改正により、名称及び対象年齢の変更 ・個別接種化に伴い、会場数を変更10→6会場	・保健婦1人増員 ・保健婦8人体制(職員数18人)	137,226
8年	・骨粗しょう症検診(新規)年6回130人×6回＝780人 ・基本健康診査HbA1cの項目追加(ヘモグロビンA1c) ・地域リハビリ「ものの会」開始(東部) ・がん死亡撲滅モデル地区＝村中区、大草西・東区 ・いきいきウォーキング推進事業＝北里中学校区 応時中学校区 ・リフレッシュウォーク四季の森～四季の道(389人参加) ・ボランティア「つつじ」が料理する一人ぐらし簡単料理を広報こまきに掲載開始	・9年移譲にむけて、保健センターを会場として4か月児健診の実施(実施主体保健所) ・乳幼児管理システム第2次開発 ・母子保健計画の作成	・日本脳炎個別接種 ・個別接種化に伴い、会場数を変更6→5会場	・保健婦 2人増員 ・看護婦 1人増員 ・保健婦 10人 ・看護婦 3人 ・栄養士 1人 ・歯科衛生士 1人退職(職員数21人)	138,795
9年	・骨粗しょう症検診年6回150人×6回＝900人 ・人間ドック300人増加(総数2,400人) ・がん死亡撲滅モデル地区＝桜井区、大輪区 ・地域リハビリ「わかばの会」開始(藤島団地) ・いきいきウォーキング推進事業＝光ヶ丘中学校区 味岡中学校区 ・ボランティア「つつじ」が愛知県健康づくり振興事業団の助成により1人ぐらし簡単料理広報掲載の効果判定	・県より事務移譲 1 妊婦及び乳幼児健康診査事業 2 4か月児・3歳児健康診査事業 3 乳幼児歯科健診予防処置事業 4 食生活改善推進員養成・育成事業 5 妊婦及び乳幼児健康診査受診券交付 ・母子保健推進協議会設置 ・2歳3か月児歯科健診開始	・二種・三種混合個別接種ツベルクリン・BCGを4か月児健診にあわせて実施	・平成9年4月1日から統廃合により小牧保健所が春日井保健所小牧支所となる ・健康まつりにポルトガル語、スペイン語の通訳、手話通訳を配置 ・保健婦2人増員 ・事務員1人増員 ・保健婦2人退職 ・保健婦12人体制 ・歯科衛生士1人配置(職員数24人)	140,819

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成10年	・がん死亡撲滅モデル地区＝間々区・岩崎区 ・いきいきウォーキング推進事業＝篠岡・桃陵中学校区 岩崎中学校区 ・食生活改善推進員養成講座開始 ・小牧市食生活推進協議会設立	・離乳食教室導入(年6回) ・母乳相談の導入(月4回) ・妊婦教室をババママ教室に変更 ・こども事故予防コーナーの設置	・市外中学校通学者対象の接種を夏休みにあわせ実施 ・ポリオ投与回数変更 年2回→3回	・4か月児・1歳6か月児・3歳児健診にポルトガル語、スペイン語の通訳配置 ・保健婦2人増員 ・保健婦1人10月より介護保険課へ ・保健婦1人退職 ・看護婦1人退職 ・事務職1人退職 ・保健婦14人体制10月より13人体制(職員数26人)	141,911
11年	・がん死亡撲滅モデル地区＝池之内区・小木区 ・いきいきウォーキング推進事業＝小牧中学校区 小牧西中学校区 ・水中ウォーキング教室 温水プール(延233人参加)	・助産婦による妊産婦・新生児・乳児訪問導入(100件) ・育児専用電話「こまねっと」設置 ・育児相談を市内6か所の児童館で開設 ・園児と親を対象に親子歯みがき教室開設 ・小牧市独自の母子手帳の作成・交付(6月)		・保健指導係が母子保健係と成人保健係に分かれる ・保健婦1人退職 ・保健婦1人減員 ・事務職1人減員 ・保健婦13人体制(職員数24人) ・保健センター改築(1階事務所改築により、消毒室を3階へ、玄関前スロープ及び障害者用トイレを改築)	143,050
12年	・がん死亡撲滅モデル地区＝小牧区・米野区 ・人間ドック200人増加(総数2,600人) ・人間ドック受診料 6,000円→7,050円 ・人間ドックの名称を「すこやかドック」、基本健康診査を「さわやか健診」と変更 ・地域りハビリ「こめこめ12」開始(小牧南) ・寝たきり予防講座(参加401人) ・地区巡回介護講座(8回193人参加) ・健康ウォーキングマップこまき「いい汗かいていいもの発見」(1,500部発行)	・4か月児健康診査に合わせた母親歯科健診導入 ・助産婦による妊産婦、新生児、乳児訪問(100件→150件) ・2歳3か月育児相談(7月) ・育児支援を中心とした乳幼児健診体制を実施 ・日曜ババママ教室開始(年3回)	・個別接種化に伴い会場数を変更5→4会場	・2歳3か月児歯科健診ポルトガル語、スペイン語の通訳配置(職員数24人)	144,382
13年	・がん死亡撲滅モデル地区＝舟津区・久保一色区 ・人間ドック100人増加(総数2,700人)	・母子健康手帳交付時相談を開始 ・助産婦による妊産婦新生児乳児訪問(150件→200件) ・にこにこむし歯予防教室(6回) ・親子で楽しむ料理教室 保健連絡員、母子に対する取組み開始 ・4か月児健診1日目に保育ボランティア「バオバブの木」参加 ・保健連絡員「親子料理研究会」発足	・65歳以上を対象としたインフルエンザ予防接種が始まる	・パソコンによる保健総合システムを導入(職員24人)	146,225

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成14年	・人間ドック150人増加(総数2,850人) ・すこやかドック・さわやか健診に併せて肝炎検診 ・がん死亡撲滅モデル地区＝池之内・林・大山野口地区・下小針区	・保健連絡員とOBによる赤ちゃんの全戸訪問開始(10月) ・一般公募による保育ボランティア活動開始 ・第2次母子保健計画作成(11月から推進) ・市内モデル校によるフッ化物洗口開始(小牧原小学校・北里小学校)		・保健師1人退職(職員数23人)	147,055
15年	・人間ドック550人増加(総数3,400人) ・人間ドック受診料7,050円→9,000円 ・がん死亡撲滅モデル地区＝北外山県住区・小牧原区 ・地域リハビリ「健康の集い」(野口第5)「ビーチの会」(桃ヶ丘)開始 ・転ばぬ先の転倒予防教室開始 ・家族の健康を考える食生活講座開始 ・介護者を支える会「ささの会」発足	・母子健康手帳を親子健康手帳として交付 ・外国人向け母子健康手帳の交付 ・パパママ教室3回コースの2・3回目を日曜日開催 ・4か月児健診(2日目)に図書館主催によるブックスタート事業が8月より開始	・小・中学校でのツベルクリン・BCG接種の中止 ・平成15年9月風しん予防接種経過措置終了	・保健師3名3月退職(職員数23人)	148,387
16年	・がん死亡撲滅モデル地区＝入鹿出新区・南岩崎台区 ・保健師市民健康相談9時～16時→9時～12時 ・脳いきいき教室開始 ・生活習慣病予防教室「運動はじめて体験教室」参加者106人 ・健康こまきいきいきプラン作成 ・ウォーキングマップ改訂	・パパママ教室を3回コースから1回に変更 ・日曜パパママを年3回開催 ・運動発達相談開始 ・おひさま教室開始 ・生と性に関するカリキュラム「親・地域版」完成		・休日急病診療所移転診療科目に外科・歯科を増設 ・事務職1人12月退職 ・事務職1人3月退職(職員数22人) ・職員数22人	149,208
17年	・がん死亡撲滅モデル地区＝上末・下末・高根区・多気上・多気下区 ・住民健康診断が9日間から2日間へ ・胸部レントゲン撮影が65才以上の方が対象となる(結核健診) ・人間ドック400人増加(総数3,800人) ・さわやか健診オプションとして胸部X線検診開始 ・さわやか健診・すこやかドックのオプションとして前立腺がん検診開始(対象50才以上) ・体しなやか膝腰スッキリ教室開始 ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定 ・保健連絡員活動20周年記念事業 ・'05健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事の合同展としてパークアリーナにて開催)	・前期離乳食教室・ごっくん教室開始 ・育児相談月4回→月2回へ ・4か月児健康診査を2日コースから1日コースへ変更 ・4か月児健康診査未受診児への対応を個人通知から、電話・訪問へ変更	・ツベルクリン反応検査の中止 ・ダイレクトにBCG接種対象が生後6か月未満に変更 ・平成17年5月30日より日本脳炎の接種勧奨の見合わせ ・平成17年7月29日より日本脳炎第3期廃止 ・幼児期二種混合が定期外となる ・麻しん予防接種と風しん予防接種の単独ワクチンが3月末日で終了となる為接種勧奨	・栄養士1人3月退職(職員数24人)	150,569

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成18年	・平成18年度より、がん死亡撲滅モデル地区は小学校区で実施 ＝小牧南小学校 小牧小学校 ・住民健康診断2日間実施 ・乳がん、子宮がん検診受診が2年に1回に変更 ・介護保険・地域支援事業(介護予防事業)担当 ・'06健康・福祉フェスティバル in こまき(健康まつり、福祉展、介護展、歯ピカピック4催事合同展) ・傾聴ボランティア「そよかぜ」発足 ・「牧連体操クラブ」発足	・生と性に関するカリキュラム「小学生中学生版」完成 ・親子健康手帳改正(生と性に関する項目、特に自己肯定感の大切さを意識して加筆) ・マタニティキーホルダー配布(1月) ・第2次母子保健計画中間見直し	・麻しん風しん混合予防接種が開始 対象が 第1期 1歳～2歳未満 第2期 小学校入学前の1年間(年長児)に変更 ・児童の集団接種が中止となり個別接種へ変更(二種混合、日本脳炎)	・事務職1人3月退職(職員数23人)	151,288
19年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝三ツ淵小学校 一色小学校 ・保健連絡員設置要綱改正(対象が「市内在住の主婦の方」から「20歳以上の市内在住の方」へ変更) ・「血液さらさら」をモデル地区及び6地区で実施 ・おくち元気はつらつ教室開始 ・メンタルヘルスセミナー「山口律子講演会」20年2月29日(202名)	・自分を大切にすることが出来る「自己肯定感獲得DVD-みんなちがってみんないい」を制作し、平成20年1月より乳幼児健診や希望者に配布、あわせて健康教育を行う ・発達障害をもつ親子を支援する「成長記録」の試作 ・不妊検査及び治療費助成開始 ・妊婦健康診査公費負担 2回→5回 ・8020歯っぴースマイル!歯みがき教室開始	・結核予防法から感染症予防法に改正される	・栄養士1人増員 看護師1人減員 事務職1人増員 事務職1人3月退職(職員数24人)	152,445
20年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝大城小学校 小木小学校 ・ヤング健診の開始 ・地域リハビリ「西コミふれあいの会」開始(西部地区) ・老人保健法から健康増進法に改正される ・さわやか健診・すこやかドック廃止 健康診査(生活保護受給者)開始 ・がん個別検診開始 ・肝炎ウィルス検診を節目検診から40歳の方に変更 ・ウォーキングマップの改訂 ・低栄養予防に関するリーフレット配布開始	・妊婦健康診査公費負担 5回→14回(H21.1.27以降) ・外国人ボランティアによる赤ちゃん訪問を試験的に開始 ・生と性に関するカリキュラム小中学校版を連携しながら実施を開始 ・安心相談カードを中学2年生全員に配布 ・小牧市立中学2年生全員に「生と性に関するアンケート」実施	・麻しん風しん混合予防接種 第3期・第4期が5年間の経過措置で開始 対象 第3期：中学1年生に相当する年齢の間の1年間 第4期：高校3年生に相当する年齢の間の1年間	・事務職1人減員(職員数23人)	153,495

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成21年	・がん死亡撲滅モデル地区＝米野小学校 小牧原小学校 ・地域リハビリ「なんなん21」開始（南部地区） ・女性特有のがん検診推進事業開始 対象：子宮がん(20、25、30、35、40)乳がん(40、45、50、55、60)一定の年齢に達した女性に無料クーポン券と検診手帳配布 ・歯周病予防個別健診開始（対象：35歳） ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプラン」中間見直し ・健康福祉フェスティバルinこまき4催事→3催事（健康まつり、福祉展、介護展）会場パークアリーナから市民会館、公民館	・4か月児健診と1歳6か月児健診にて子育て支援センターと連携 ・小牧市立中学2年生とその保護者に「性と性に関するアンケート」を実施し、思春期の諸問題に対する方策を検討 ・親子健康手帳改正（朝食の大切さに関する内容を充実）	・肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成開始 対象：75歳以上 ・新型インフルエンザワクチンの接種 ・新型インフルエンザワクチン接種に係る費用軽減事業	・（職員数23人）	153,581
22年	・がん死亡撲滅モデル地区＝村中小学校 味岡小学校 ・向井亜紀がん講演会23年1月9日(568名) ・地域自殺対象緊急強化事業「水谷修講演会」23年3月19日(783名) ・健康日本21こまき計画「健康 こまきいきいきプランコーナー」として小牧産業フェスタに参加	・市ホームページと携帯サイトに「思春期によくある質問Q&A」と「小学生と中学生のための相談窓口」を掲載 ・妊婦健康診査公費負担内容（子宮がん検診、初回血液検査等）の充実 ・妊婦健康診査受診票に妊婦（成人）歯科健診受診票を挿入	・日本脳炎予防接種3才になる子に接種勧奨開始(H22.4.1～) ・インフルエンザ3価ワクチン接種（22年10月1日～23年3月31日） ・任意予防接種無料接種開始（H23.1.1～）子宮頸がん予防ワクチン ヒブワクチン 小児用肺炎球菌ワクチン	・所長補佐職母子保健係長兼務（職員数23人）	153,371
23年	・がん死亡撲滅モデル地区＝光ヶ丘小学校 北里小学校 ・地域リハビリ終了こめこめ12(米野小)健康の集い（野口第5） ・働く世代の大腸がん検診推進事業（集団）開始 対象：40、45、50、55、60歳の男女 ・健康日本21こまき計画関連事業 ・「いきいきおせつ会」発足 ・いきいき世代個別歯科健診事業開始（対象：40・50・60・70歳）	・妊婦健康診査公費負担内容（成人T細胞白血病ウイルス検査、性器クラミジア検査）を追加 ・子育て支援機関連携会議を開催（ハローファミリーカードの導入） ・妊娠届出時アンケートの充実 ・小学校1・2年生を対象に「いのちの学習」を実施（15校） ・市ホームページと携帯サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q&A」の内容を充実	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン一時見合わせ（23年3月5日～23年3月31日） ・水痘(水ぼうそう)ワクチン予防接種、おたふくかぜワクチン予防接種費用助成開始（H23.10.1～） ・日本脳炎特例措置開始（H23.5.20～）（H7.6.1～H19.4.1生まれが20歳未満まで）	・所長補佐職母子保健係長兼務 保健師1人増員（職員数23人）	153,507

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成24年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝本庄小学校 篠岡小学校 ・働く世代の大腸がん検診推進事業（個別）開始 対象：40、45、50、55、60歳の男女 ・ウォーキングマップの改訂 ・知立市健康推進員視察と健康連絡員との交流会 ・第30回健康まつり（フェスティバル）をもって終了 各地区健康展で開催 ・職域対象歯周疾患対策普及啓発事業開始（商工会議所連携事業）	・妊娠期からの育児支援を目的に愛知県統一様式の妊娠届出書を採用。それに伴い市独自の妊娠届出時アンケートを変更 ・今まで平日パパママ教室（栄養・歯について）、日曜パパママ教室（育児について）で開催された内容を見直し、パパママ教室（育児・栄養・歯について）として、平日や日曜日に開催 ・親子で楽しむ料理を考える会活動終了 ・小牧市立中学2年生に「生と性に関するアンケート」を毎年実施してきたが、今後5年毎の実施とする予定（平成29年度実施予定） ・市ホームページと携帯サイトに掲載中の「思春期によくある質問Q&A」に「いじめ」についての内容を追加	・生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ（H24.9.1～） ・四種混合ワクチン開始（H24.11.1～） ・尾張北部医療圏広域予防接種開始（H24.6.1～）	・所長補佐職成人係長兼務 保健師1人増員（職員数23人）	153,344
25年	・がん死亡撲滅モデル地区 ＝小牧南地区、桃ヶ丘小学校 ・地域リハビリ終了 ピーチの会（桃ヶ丘地域） ・健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」最終評価 ・「こころの相談窓口」パンフレット改訂 ・乳がん（超音波）検診の開始 対象：30～39歳 ・介護予防事業一次予防事業「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」「サヨナラ膝腰痛教室」「男性のための膝腰痛予防プログラム」開始 ・地域主体の健康まつり（展）の拡充 ・「糖尿病連携手帳」を活用した歯周病予防事業開始 ・乳がん検診（超音波）を30歳代のみ対象として開始	・低体重児の届出及び未熟児訪問が愛知県から権限移譲 ・健診の事後教室として、かかわりあそびをとおして、親子とのかかわりを学ぶことができる「あそびの教室」を開始 ・小学校2年生とその保護者を対象に「いのちの学習」を実施（16校） ・中学校3年生に対し「素敵な大人になろう～性感染症の予防～」を実施（7校） ・園児対象う蝕対策普及啓発事業開始（学官連携事業） ・学童期歯科疾患対策モデル事業開始 ・楽育相談をH26年3月より、試験的に実施 2名参加	・ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、子宮頸がん予防ワクチン定期接種化（H25.4.1～） ・BCG接種対象者生後1年に至るまでに変更（標準：生後5～8月）（H25.4.1～） ・子宮頸がん予防ワクチンH25.6.14より積極的な勧奨の差し控え ・風しんワクチン予防接種費用助成事実開始（H25.7.1～） ・日本脳炎特例措置生年月日の拡大（H7.6.1生→H7.4.2生）	・保健師1人増員 事務職1人減員	153,170

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成26年	・女性特有のがん検診推進事業（乳・子宮がん検診） ①《乳・子宮がんコールリコール》 ・H26年度検診申込者で、H21～24年度に無料クーポンを配布し年度内の未使用者に対し本人の申し出により、再度無料クーポンを配布 ②《無料クーポン券の配布年齢を変更》 ・乳がん検診：40歳のみ、子宮がん検診：20歳のみ ・胃がん・大腸がん検診対象年齢を40歳を30歳に拡充 ・人間ドック事業を開始 - 対象：40歳以上の国民健康保険被保険者、後期高齢者医療被保険者、協会けんぽ被扶養者の方限定（年度内に40歳を迎える方も対象） ・がん検診自己負担額みなおし 70歳以上0円→500円/各検診 69歳以下軽減 ・非課税世帯者に対し、「がん検診・人間ドック費用免除券」を保健センター窓口にて発行 ・がん死亡撲滅モデル地区 =小牧地区 - 陶小学校区 ・保健連絡員OB「つつじ会」（一人暮らし高齢者の食生活の研究と工夫）活動終了 ・壮年期対象の機能訓練教室終了 ・第2次健康日本21こまき計画「健康こまきいきいきプラン」策定	・乳児健康診査受診票の金額変更 （1回目・2回目5,350円から、1回目5,180円、2回目5,990円へ） ・乳幼児健康診査（集団）の問診票を保護者が外国人の場合、あらかじめ母国語の問診票を郵送 ・にこにこ虫歯予防教室を平成25年度より、にこにこ虫歯予防相談として、児童館において実施 ・安心相談カードを教育委員会の相談カードと一体化、市内中学1年生と高校1年生に配布 ・学校保健課題解決事業において小牧市生と性のカリキュラムの公開授業研究に取り組む	・水痘ワクチン定期接種化（H26.10.1～） ・経過措置（26年度のみ）生後36月～60月に至までの間の児を対象 ・成人用肺炎球菌ワクチン予防接種費用一部助成の対象者変更75歳以上→70歳以上 ・成人用肺炎球菌ワクチン定期接種化（H26.10.1～） ・経過措置（26～30年度） ・前年度の末日に各64.69.74.79.84.89.94.99歳の者 ・26年度は25年度末に100歳以上の者 ・愛知県広域予防接種開始（H26.4.1～）（A類疾病のみ） ・日本脳炎（第2期） ・高3に相当する学年の方で未接種に対し個別通知開始		153,303
27年	・がん死亡撲滅モデル地区 =巾下地区、味岡地区 ・こまき健康マイレージ事業開始	・平成27年8月中旬よ自己肯定感獲得動画を市のホームページでネット配信。DVDは乳幼児健診等で希望者に配布 ・高校にてモデル事業として生と性のカリキュラムを推進	・日本脳炎（第1期）未接種（H13.4.2生～H19.4.1生）に対し個別通知 ・二種混合（第2期）発送時期の変更 ・12才誕生月→11才の誕生日の翌月		153,680

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
平成27年	・保健連絡員活動30周年記念事業 ・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業 (乳・子宮がん検診)《乳・子宮がんコールリコール》 H25年度に無料クーポンを配布した方で年度内に未使用かつ過去5年間(H22～26年度)に一度も保健センターの検診を受けたことがない方に、無料クーポン券を個別通知	・「健康寿命をのばそうアワード」母子保健分野(自治体部門)において優良賞授賞 「母子保健推進協議会から発信する親子の自己肯定感の醸成＝『心豊かにいきいきと生きる力』を持つ子どもの成長につなげていくために＝」 ・平成28年3月7日より、市ホームページ上に「お子さんの発育や発達に不安を感じたら…」を掲載 その中で自閉症スペクトラム評価尺度「エムチャット」について、活用したい人が活用できるよう、情報提供(外部リンク)を開始	・尾張北部医療圏の広域接種(B類)H28.3.31で終了 ・インフルエンザワクチン3価→4価に自己負担1,000円→1,200円に変更		
28年	・こまき健康マイレージ事業からこまき健康いきいきポイントへ名称変更 ・ウォーキングアプリ「alko」を10月から配信 ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝東部地区、北里地区 ・介護予防事業一次予防事業「男性のための膝腰痛予防プログラム」終了 ・胃がん(内視鏡検査)検診を50歳以上の方に対し2年に1回、和暦の偶数・奇数で区別し、偶数生まれの方から検診を開始 ・新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業 《乳・子宮がんコールリコール》 H26年度に無料クーポンを配布した方で年度内に未使用かつ過去5年間(H23～H27年度)に一度も保健センターの検診を受けたことがない方に、無料クーポン券を個別通知 ・人間ドック受診期間を6月～翌年2月14日まで延長 ・こまきヘルシーメニュー事業を平成29年2月から開始 ・5大がん検診の要精検者に再通知を開始	・市内の高校(3校)にて、生と性のカリキュラムを推進 ・赤ちゃん訪問において、外国人家庭へ積極的に訪問実施 ・親子健康手帳の表紙デザインを従来の卵のデザインから市ブランドロゴマークをアレンジしたデザインへ変更。それに伴い、卵や鳥をたとえた文章表現を変更 ・第1回母子手帳フォーラム(東京)に参加し、「親子健康手帳における小牧市の思い」を報告 ・愛知県公衆衛生研究会にて「1歳6か月児健診後の言語発達における伸びを予測する因子ー遊びの場を活用した健診にてー」について研究発表	・愛知県の広域予防接種B類疾病開始(H28.4.1～) ・三種混合ワクチン販売中止 最終有効期限H28.7.15で終了 ・B型肝炎定期接種化(H28.10.1～) ・日本脳炎第2期H19.4.2生～の勧奨再開	・初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の作成	153,526

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
平成 29 年	・こまき健康いきいきポイント事業のポイント有効期限を2カ年に変更 ・壮年期保健事業出前講座に「正しいラジオ体操教室」を追加 ・介護予防事業一次予防事業に「いきいき元気塾」運動編を味噌市民センターでも実施「カラダによく効くラジオ体操講習会」を追加 ・乳がん(マンモグラフィ)個別検診開始 ・がん撲滅モデル地区＝小牧南地区、小牧地区	・親子健康手帳について、愛知県医師会から愛知県保健医療局長あてに、母子健康手帳の県内統一に関する要望書が提出されたことを受けて、母子保健推進協議会で協議した結果、①B6サイズへの変更、②省令様式の遵守、③予防接種記録等に関するページの振り分けについて、平成29年度印刷分の親子健康手帳について変更 ・国から、乳児ボツリヌス症の予防対策について、任意記載事項様式「乳幼児期の栄養」についての掲載を前提とした上での再周知の通知を受けて、小牧市独自の内容から任意記載事項様式に変更 ・不育治療等助成事業の開始 - 従来的一般不妊治療等助成事業に加え、不育治療等助成事業を開始 不育症についての検査及び治療を受けられたご夫婦に対し、保険適用外の医療費を助成 ・妊婦個別歯科健康診査の実施 ・妊婦、産婦、新生児、乳児訪問の予算を380件から530件へ増加 ・小牧高等学校(全日制)において、生と性のカリキュラム＝小学校・中学校版の推進＝について、今後、市内の全高等学校を対象としたカリキュラムの推進を目的として、市内の全高等学校と共に公開授業研究を実施 ・第2回母子手帳フォーラムを小牧市で開催(平成29年7月1日) (国際母子手帳委員会主催、小牧市後援) ・市立中学2年生を対象に生と性に関するアンケートを実施	・特別な理由による定期予防接種の再接種費用の助成開始	・初動時における災害時保健活動実践マニュアル(保健班活動マニュアル)の改正 (妊産婦、乳幼児のいる家庭の平常時の備えについて啓発を追加) ・新型インフルエンザ特定接種について市民病院と協定を結ぶ	153,335

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
平成30年	・青年期出前講座に「女性ホルモンとカラダのトリセツ講座」を追加 ・健康日本21重点施策の取り組みとして、「市民健康講座」を開催 ・小牧市自殺対策計画策定 ・骨粗しょう症検診受診料見直し ・老人福祉センターで実施している老人健康相談を48回から24回へ実施回数を変更 ・10月～「筋力アップのためのトレーニングマシン講習会」を第1老人福祉センターで実施 ・フレイル予防のための教室「～笑いの泉～わっはっは講座」を老人福祉センターにて実施 ・がん死亡撲滅モデル地区＝巾下地区、味岡地区 ・乳がん(マンモグラフィ)検診 ①受診者への「乳房の構成」通知開始 ②無料クーポン未受診者に再通知を実施 ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定検診と市の胃・大腸がん検診の同日開催	・それぞれに事例検討会や研修会が開催されているため、知恵の輪会を終了 ・平成30年4月1日出産以降の産婦及び新生児を対象に、産婦健康診査2回/人(5000円/回)、新生児聴覚検査1回/人(5000円/回)を交付 ・9月～子育て世代包括支援センターにて、産後ケア事業実施 ・子育て応援アプリ「すくすくこまキッズ」配信開始 ・妊娠期サポートプランを作成・配布 ・12月～子育て世代包括支援センターにて、「利用者支援事業会議」を月1回開催	・成人用肺炎球菌ワクチン助成事業終了に伴い未接種者に対し接種勧奨を個別に通知	・助産師1名増員 ・9月子育て世代包括支援センター開設 (母子保健係長、保健師1名、助産師1名異動) ・所長補佐職、母子保健係長兼務 ・9月、子育て世代包括支援センター開設(ラビオビル内)母子保健型利用者支援事業の実施に伴い、親子健康手帳の交付、妊婦・産婦・乳児個別健康診査事業、妊婦個別歯科健康診査事業、低体重児の届出、妊婦・産婦・新生児・乳児訪問、育児相談(市内児童館巡回育児相談、母乳相談含)を保健センター母子保健係より子育て世代包括支援センターへ移管	152,944
令和元年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充(5歳刻みし、75歳を追加) ・ウォーキングアプリalkoが8月に秘書政策課から移管され3月まで所管 ・乳がん、子宮がん検診無料クーポンの未受診者の再通知を開始 ・第2次健康こまいきいきプランの中間評価及び後期計画の策定 ・ウォーキングマップ改訂 ・がん死亡撲滅モデル地区＝東部地区、北里地区	・歯っぴー子育て講座を開始 ・事後検診終了 ・股関節脱臼チェックリストを4か月児健診及び、産婦・新生児・乳児訪問で導入 ・子育て世代包括支援センターにて「アニバーサリー事業」を開始 ・1歳サポートプランを作成・配布	・4月1日からロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を開始(市独自) ・成人用肺炎球菌ワクチンの経過措置の延長：令和元年～5年度(国の施策) ・当該年度65、70、75、80、85、90、95、100歳の者 ・大人の男性風しん対策事業(国の施策)対象者に抗体検査及び接種の無料クーポンを送付	・所長補佐職成人保健係長兼務 ・4月1日から骨髄提供者等助成事業を開始 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、成人保健事業及び母子保健事業の一部事業を中止(3月) ・愛知県災害時保健活動体制整備強化事業により「災害時地域まるわかりシート」を春日井保健所と共に作成	152,816

年度	成 人 ・ 老 人 保 健	母 子 保 健	予 防 接 種	そ の 他	人口(人)
令和2年	・小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例の公布 ・成人歯科健診終了 ・健康ポイント事業(ウォーキングアプリalko含む)小牧市健康づくり推進協議会を健康生きがい推進課へ事務移管する	・妊娠期支援プラン作成・配布 ・多胎妊婦向けサポートプラン作成・配布 ・4か月児・1歳6か月児、3歳児健診でサポートプランを作成・配布 ・歯っぴー子育て講座終了 ・8月～子育て世代包括支援センターにて「オンライン育児相談」を開始	・ロタウイルスワクチン予防接種費用助成事業を終了	・4月1日健康生きがい推進課が本庁に新設 ・健康生きがい推進課に保健師1名配置 ・新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令のため一部事業を中止(4月・5月) ・1月18日新型コロナウイルスワクチン接種推進室が本庁舎に新設 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に、看護師1名配置 - 所長、所長補佐、予防係に兼務発令	152,842
令和3年	・いきいき世代個別歯科健診事業の対象者の拡充(40歳から75歳の5歳刻みに80歳を追加) ・歯周病予防個別健診の対象者の拡充(20歳・25歳・30歳を追加し、20歳から35歳の5歳刻みで実施) ・まちかど運動教室開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を東部地区限定で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区＝小牧南地区、小牧地区	・7月～3歳児健診の視力検査でスポットビジョンスクリーナーを導入 ・多胎妊婦に妊婦健康診査受診票を5回分追加交付 ・「健康寿命をのばそうアワード」母子保健分野(自治体部門)において優良賞受賞 「子育て世代包括支援センターと児童館が連携した切れ目ない支援体制づくり～1st アニバーサリー事業をとおして～」 ・9月～流産・死産の相談窓口開設(子育て世代包括支援センター内)	・BCGの集団接種を令和3年度末で終了 ・令和元年度送付の大人の男性の風しん対策事業(国の施策)対象者の内、未受診者等に抗体検査及び接種の無料クーポンを再送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の開始:接種の期間、令和4年2月28日まで - 以降、接種期間、対象年齢が順次拡大 12歳以上、初回接種、第1期追加接種実施 - 小児(5～11歳)初回接種実施	・子育て世代包括支援センターに保健師1名、保健センターに保健師3名増員	151,920
令和4年	・働く世代への大腸がん検診推進事業の対象を40歳のみに変更 ・まちかど運動教室を「健康づくり編」「フレイル予防編」に分けて実施開始 ・住友理工(株)フレイルチェック測定会を全域で開始 ・がん死亡撲滅モデル地区＝巾下地区、味岡地区 ・口腔がん検診実施(歯科医師会補助事業、2回/年)	・中学生2年生を対象にピロリ菌検査事業を開始(市独自事業) ・こまき妊娠SOSの開設(子育て世代包括支援センター内) ・産後ケア事業のメニュー(アウトリーチ)追加 ・産後ケア事業で償還払いを実施 ・こまき祖父母手帳を作成・配布 ・6月～こまき巡回バス「こまくる」のマタニティフリーパスを配布 ・令和5年2月～小牧市すくすく子育て応援事業/小牧市出産・子育て応援ギフト支給事業(国の出	・HPV(子宮頸がん予防)ワクチンの接種勧奨の再開 ・令和4年4月～令和7年3月の3年間、平成25年度から令和3年度の間に、HPVワクチン定期接種の対象であった方々へのキャッチアップ接種を開始 ・小牧市子宮頸がんワクチン任意接種補助金の開始(～令和6年度末まで) ・小牧市内の医療機関でBCGの個別接種を開始 ・大人の男性の風しん対策事業(国の施策)が令和6年度末まで延長。対象者に	・7月1日よりがん患者医療用補整具(ウィッグ・乳房補整具等)購入費助成事業を開始:実施要領施行は4月1日～ ・小牧市役所が健康経営優良法人2023に認定 ・新型コロナウイルスワクチン接種推進室に保健師1名配置 ・新型コロナウイルスワクチン接種会場として保健センターで小児接種を実施 ・保健センターに保健師2名、介護保険課に1名増員	150,684

年度	成人・老人保健	母子保健	予防接種	その他	人口(人)
令和4年		産子育て応援給付金)並びに伴走型相談支援を開始 ・市民活動団体「摂食障害よりみち」との協働事業で摂食障害予防啓発協働事業を実施 ・保健センターでのパパママ教室を子育て世代包括支援センターの「集まれ たまごファミリー」に統合し子育て世代包括支援センターで実施	抗体検査及び接種の無料クーポンを送付 ・新型コロナウイルスワクチン予防接種の実施:12歳以上、第2期追加接種、令和4年秋開始接種の実施。小児(5~11歳)追加接種実施 乳幼児(6ヶ月~4歳)初回接種実施		
令和5年	・小牧市健康づくり推進プラン策定(第3次計画) ・がん死亡撲滅モデル地区 ＝東部地区、北里地区 ・知って得するフレイル予防講座を「知って得する若返り講座」「アクティブシニア応援セミナー」「健康づくり応援隊★認定講座」に変更 ・口腔がん検診拡充(歯科医師会補助事業、実施回数を1回拡充し、3回/年として実施) ・協会けんぽ被扶養者向け集団特定健診と市の胃・大腸がん検診、子宮・乳がん検診の同日開催	・親子健康手帳について任意様式を18歳まで拡大し内容を改訂 ・幼年期・学童期(中学年)性教育を中央図書館で夏休みに実施。 ・5月から伴走型支援として妊娠8か月時アンケートを開始 ・7月から低所得の妊婦に対する初回産科受診料の助成を開始	・4種混合ワクチンの定期接種対象月齢が生後3月から2月へ変更。 ・HPV ワクチン定期接種の対象ワクチンに9価ワクチンが追加。 ・50歳以上の小牧市民に対し带状疱疹ワクチンの予防接種費用助成開始 ・新型コロナウイルスワクチン特例臨時接種を年度末で終了	・6月1日より若年がん患者在宅療養助成事業を開始:実施要領施行は4月1日～ ・骨髄提供者等助成事業を拡充 市の独自の助成金として20万円を助成拡充 ・精神保健福祉士1名配置 ・子育て世代包括支援センター、保健センター、健康生きがい推進課に保健師を各1名増員	150,188

※人口は各年度4月1日現在の人数

第4 衛 生 統 計

第4 衛 生 統 計

1 人口動態統計年次推移

年次	人口	出生				死亡				自然増減		乳児死亡(再掲)				新生児死亡(再掲)		死産				周産期死亡(再掲)				婚姻		離婚	
		総数	男	女	率	総数	男	女	率	実数	率	総数	男	女	率	総数	率	総数	自然	人工	率	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡	率	実数	率	実数	率
平成30年	148,665	1,012	529	483	6.8	1,313	710	603	8.8	△ 301	△ 2.0	2	2	0	2.0	1	1.0	33	18	15	31.6	9	8	1	8.8	734	4.9	240	1.6
令和元年	152,816	1,059	525	534	6.9	1,305	717	588	8.5	△ 246	△ 1.6	4	1	3	3.8	2	1.9	22	16	6	20.4	5	5	0	4.7	749	4.9	271	1.8
令和2年	148,831	901	487	414	6.1	1,267	700	567	8.5	△ 366	△ 2.5	2	1	1	2.2	1	1.1	19	12	7	20.7	4	3	1	4.4	627	4.2	228	1.5
令和3年	147,713	898	430	468	6.1	1,415	781	634	9.6	△ 517	△ 3.5	1	1	0	1.1	0	0.0	19	10	9	20.7	1	1	0	1.1	599	4.1	233	1.6
令和4年	147,174	878	467	411	6.0	1,491	836	655	10.1	△ 613	△ 4.2	2	2	0	2.3	2	2.3	15	10	5	16.8	2	2	0	2.3	564	3.8	207	1.4
愛知県 (令和4年)	7,228,000	51,152	26,432	24,720	7.1	81,183	43,092	38,091	11.2	△ 30,031	△ 4.2	95	50	45	1.9	44	0.9	885	454	431	17	151	121	30	2.9	33,434	4.6	11,061	1.5
全国 (令和4年)	122,030,523	770,759	395,257	375,502	6.3	1,569,050	799,420	769,630	12.9	△ 798,291	△ 6.5	1,356	735	621	1.8	609	0.8	15,179	7,391	7,788	19.3	2,527	2,061	466	3.3	504,930	4.1	179,099	1.5

資料: 愛知県保健医療局健康医務部医療計画課「令和4(2022)年愛知県衛生年報」

資料: 厚生労働省「令和4年(2022)人口動態統計」

(注1) 数値は確定数である。

(注2) 人口は、小牧市が愛知県県民文化局県民生活部統計課発表の総人口、愛知県及び全国が総務省統計局推計の日本人人口で各年10月1日現在である。

(注3) 率算出の計算式

出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率＝ $\frac{\text{出生} \cdot \text{死亡} \cdot \text{自然増減} \cdot \text{婚姻} \cdot \text{離婚数}}{\text{人 口}} \times 1,000$

乳児死亡・新生児死亡率＝ $\frac{\text{乳児死亡} \cdot \text{新生児死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$

死産率＝ $\frac{\text{死産数}}{\text{出産(出生＋死産)数}} \times 1,000$

周産期死亡率＝ $\frac{\text{周産期死亡数}}{\text{出生数＋妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$

2 主要死因別死亡数・率年次推移

年次	総数	結核		悪性新生物		高血圧性疾患		心疾患		脳血管疾患		肺炎		肝疾患		腎不全		老衰		不慮の事故		自殺		その他	
		実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率	実数	率
平成30年	1,313	2	0.2	382	29.1	7	0.5	128	9.7	93	7.1	98	7.5	22	1.7	27	2.1	114	8.7	49	3.7	23	1.8	368	28.0
令和元年	1,293	0	0.0	379	29.3	3	0.2	100	7.7	87	6.7	88	6.8	19	1.5	27	2.1	121	9.4	34	2.6	26	2.0	409	31.6
令和2年	1,267	1	0.1	365	28.8	2	0.2	107	8.4	101	8.0	66	5.2	12	0.9	24	1.9	145	11.4	40	3.2	16	1.3	388	30.6
令和3年	1,415	0	0.0	385	27.2	5	0.4	150	10.6	97	6.9	68	4.8	14	1.0	20	1.4	176	12.4	39	2.8	24	1.7	437	30.9
令和4年	1,491	2	0.1	380	25.5	0	0.0	146	9.8	106	7.1	59	4.0	10	0.7	20	1.3	201	13.5	37	2.5	24	1.6	506	33.9
愛知県 (令和4年)	81,183	97	0.1	20,533	25.3	262	0.3	9,575	11.8	5,013	6.2	3,245	4.0	925	1.1	1,462	1.8	10,679	13.2	2,142	2.6	1,139	1.4	26,111	32.2
全国 (令和4年)	1,569,050	1,664	0.1	385,797	24.6	11,665	0.7	232,964	14.8	107,481	6.9	74,013	4.7	18,896	1.2	30,739	2.0	179,529	11.4	43,420	2.8	21,252	1.4	461,630	29.4

資料: 令和4(2022)年愛知県衛生年報

資料: 令和4(2022)年人口動態統計

(注1) 数値は確定数である。

第5 成人保健事業

第 5 成人保健事業

高齢化率の上昇とともに、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病が増加し、認知症や要介護状態となる人々の増加は、深刻な問題になっている。

小牧市では生活習慣病予防や介護予防のために各種保健事業を進める中で、必要な方へ効果的に事業の利用をしてもらうために、保健センターと地域の方々とのパイプ役として保健連絡員制度を設けている。

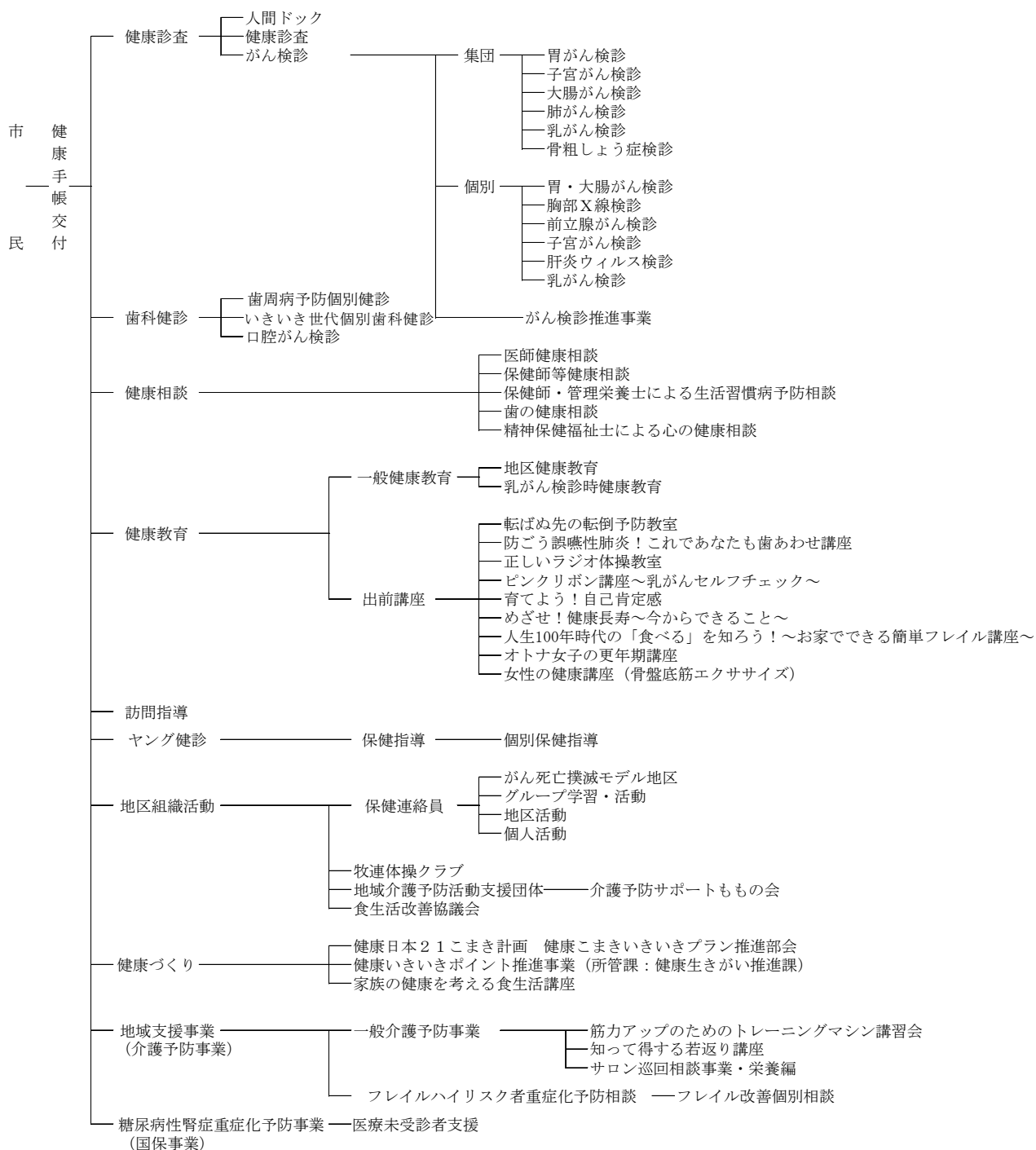
また、すべての市民が健康で長生きできる小牧市を目指して、市民や関係機関等が健康づくりに取り組めるよう、平成 26 年度に「第 2 次健康こまきいきいきプラン」を策定、平成 27 年度から推進し、平成 30 年度にその中間評価を実施した。令和元年度には評価から導き出された課題等をふまえ「第 2 次健康こまきいきいきプラン後期計画」を策定、令和 2 年度から推進して、令和 5 年度に評価を行うとともに、第 3 次計画を策定するに至った。

歯科保健に関しては、歯と口腔の健康が全身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、健康寿命の延伸に欠かせないことから、「小牧市歯と口腔の健康づくり推進条例」を令和 3 年 4 月 1 日に施行し、歯・口腔の健康づくりに関する市民の取組みを支援している。

- (1) 各種がん検診、健康診査、骨粗しょう症検診、各種歯科健診、ヤング健診等により住民の健康上の問題把握を行っている。
- (2) 把握された健康上の問題を受診者に連絡し、指導するとともに生活習慣病予防相談においてコントロールされた日常生活を身につけ、症状の改善を図るよう支援している。
- (3) 健康上の悩みに対応するため、定例健康相談日を設け、医師・保健師・看護師・管理栄養士・歯科衛生士が相談に応じている。
- (4) 一人で外出しづらくなり、閉じこもりがちな人達が集まれる場を地域の人達と共に作り、閉じこもりを防ぎ、介護予防に努めている。

- (5) 健康こまきいきいきプランの5分野（栄養・食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、たばこ・アルコール、歯の健康）において、市民一人ひとりが健康づくりに取り組むことができるように支援するとともに、関係機関が支援できるように計画の推進を図る。
- (6) 仕事や子育てに忙しい市民をターゲットにし、健康づくりへの関心を高め、取り組める環境をつくることで、健康な市民を増やすことを目的に健康いきいきポイント事業を平成27年度から始めている。
- (7) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取組を関係部署、関係機関と連携し、実施している。

1 成人保健事業一覧



2 健康手帳交付

(1) 目 的

健康診査、各種がん検診、口腔内の状況に関する健康観察などを記録し健康管理に役立てるもの。

(2) 交 付 数（再交付及び更新を含む）

保健センター（40 歳以上）72 冊

3 人間ドック（国民健康保険被保険者、後期高齢者医療制度加入者、協会けんぽ被扶養者）

人間ドックは、年度内に 40 歳以上になる上記のいずれかに該当する方を対象にして市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血液一般、血中脂質、腎・肝機能、代謝系、電解質、がん（胃・大腸・肺）検診。

心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結果

(人)

対象者	受診者数
国民健康保険被保険者 後期高齢者医療制度加入者	5,580
生活保護受給者	31
協会けんぽ被扶養者	204

4 健康診査（生活保護受給者）

健康診査は、40 歳以上の生活保護受給者を対象にして、市内の医療機関で実施。

(1) 検査項目

問診、理学的所見、身体計測、血圧、血中脂質検査、肝機能検査を実施する。

心電図、眼底検査については、医師の判断に基づいて実施する。

(2) 結果 対象者 915 人 受診率 15.0%

検査結果	人数（人）	割合（%）
異常なし	11	8.0
要観察	11	8.0
要指導	9	6.6
要医療	12	8.8
治療中	94	68.6
計	137	100.0

5 肝炎ウイルス検診

C型肝炎緊急総合対策の一環として、市内指定医療機関で実施。

(1) 対 象

昭和 58 年 4 月 1 日～昭和 59 年 3 月 31 日生まれの方。

(2) 検診結果

C型 (人)			
	男	女	計
感染している可能性が高い	0	0	0
感染していない可能性が高い	5	10	15

B型 (人)			
	男	女	計
陽性	0	0	0
陰性	5	10	15

6 がん検診

平成 20 年度から特定健康診査の開始に伴い、個別の胃がん・大腸がん検診を開始。

※精密検査受診結果に関しては令和 6 年 5 月 31 日までに保健センターへ精密検査結果報告書の提出があったものを集計

がん（個別）検診

(人)

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	精密検査結果		
			異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患	判定不能		異常なし	がん	その他
胃がん検診（X線）	4,616	813	3,062	1,344	208	—	2	4.5%	20	2	83
大腸がん検診	9,609	1,550	8,712	—	843	—	54	8.8%	134	20	292
子宮頸がん検診	2,192	1,305	2,096	—	94	—	2	4.3%	42	2	19
乳がん検診（マンモグラフィ）	1,080	619	980	36	64	—	—	5.9%	29	8	25
胸部X線直接撮影検診	10,917	1,778	7,631	2,859	283	143	1	2.6%	88	2	79
前立腺がん検診	4,217	680	3,744	228	245	—	—	5.8%	33	17	54

検診名	受診者数	初回受診者数	一次検診結果					要精検率	精密検査結果		
			胃がんなし	胃がん疑い	胃がん	胃がん以外の悪性病変	判定不能		生検数	要再検査数	
胃がん検診（内視鏡）	1,671	408	1,653	8	7	3	0		213	13	

人間ドックとして実施したがん検診（胃がん・大腸がん・肺がん検診）の実績もそれぞれの検診（個別）に加算して計上

※肺がん検診＝胸部 X 線直接撮影検診

がん（集団）検診

(人)

検診名	回数	受診者数	初回受診者数	一次検診結果				要精検率	精密検査結果		
				異常なし	要観察	要精密検査	その他の疾患		異常なし	がん	その他
胃がん検診（X線）	10	353	150	234	112	7	—	2.0%	2	0	3
大腸がん検診	—	673	275	634	—	39	—	5.8%	5	0	9
乳がん検診（マンモグラフィ）	12	890	409	848	0	42	—	4.7%	18	1	16
乳がん検診（超音波）	4	185	120	146	37	2	—	1.1%	0	0	1
子宮頸がん検診	5	285	150	283	—	2	—	0.7%	1	0	1
胸部X線間接撮影検診	4	129	15	89	29	2	9	1.6%	1	0	1
肺がん検診（喀痰）	—	11	7	10	—	0	0	0.0%	—	—	—

※喀痰1人判定不能

※胸部 X 線間接撮影検診は結核検診を兼ねる

※令和 5 年度より、同日開催でも会場が異なる場合は回数を数えることとする

女性特有のがん検診推進事業（平成 21 年度から実施）

(1) 無料クーポン券を配布（乳がん検診（40 歳）、子宮頸がん検診（20 歳））

特定の年齢に達した女性に対し、無料クーポン券とリーフレット（令和元年度より検診手帳をリーフレットに変更）を配布。女性特有のがん検診を無料で受診できる機会を設け、がん検診の受診促進を図り、がんの早期発見と正しい健康知識の向上を図る。

検診名	対象者数（人）	検診手段	クーポン利用者数（人）	利用率	がん（人）
乳がん検診	914	集団	68	24.1%	0
		個別	152		0
子宮頸がん検診	819	集団	1	11.6%	0
		個別	94		0

(2) 乳がん・子宮頸がん検診コールリコール

令和 3 年度に無料クーポン券を配布した方で、当該年度内に未使用かつ過去 5 年間（平成 30 年～令和 4 年度）に一度も市が実施する検診を受診していない方に無料クーポン券を再度発行し無料で検診を受診できるコールリコール事業を実施。

検診名	対象者数（人）	検診手段	クーポン利用者数（人）	利用率	がん（人）
乳がん検診	608	集団	8	5.6%	0
		個別	26		0
子宮頸がん検診	738	集団	1	5.8%	0
		個別	42		0

働く世代への大腸がん検診推進事業（40 歳）（令和 4 年度より対象を 40 歳のみへと変更）

特定の年齢に達した男女に対し、がん検診の受診促進を図るとともに、がんの早期発見と正しい健康知識の向上と啓発を図り、もって健康保持増進を図ることを目的とする。

検診名	対象者数（人）	検診手段	クーポン利用者数（人）	利用率	がん（人）
大腸がん検診	1,880	集団	58	7.3%	0
		個別	80		0

がん検診受診者の年齢構成

がん検診(乳がん・子宮がん検診を除く)実施期間：6月1日～2月14日

乳がん・子宮がん検診実施期間：6月1日～3月31日

(個別) 男

(人)

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診(X線)	2,394	0	3	90	124	367	1,810
胃がん検診(内視鏡)	782	0	0	0	38	131	613
大腸がん検診	4,543	0	2	147	239	682	3,473
胸部X線直接撮影検診	5,030	0	3	133	269	726	3,899
前立腺がん検診	4,217	0	0	3	243	592	3,379

(個別) 女

(人)

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診(X線)	2,222	0	8	174	193	433	1,414
胃がん検診(内視鏡)	889	0	0	0	80	182	627
大腸がん検診	5,066	0	12	316	412	937	3,389
子宮頸がん検診	2,192	385	288	557	433	255	274
乳がん検診(マンモグラフィ)	1,080	0	0	447	271	172	190
胸部X線直接撮影検診	5,887	0	7	272	418	988	4,202

(集団) 男

(人)

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診(X線)	100	0	9	12	16	20	43
大腸がん検診	148	0	11	26	19	30	62
胸部X線間接撮影検診	54	0	0	0	0	6	48
肺がん検診(喀痰)	10	0	0	0	2	2	6

(集団) 女

(人)

検診名	受診者数	～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
胃がん検診(X線)	253	0	31	57	52	67	46
大腸がん検診	525	0	46	130	120	134	95
子宮頸がん検診	285	5	31	57	67	66	59
乳がん検診(マンモグラフィ)	890	0	0	212	222	216	240
乳がん検診(超音波)	185	0	173	12	0	0	0
胸部X線間接撮影検診	75	0	0	0	0	28	47
肺がん検診(喀痰)	1	0	0	0	0	1	0

がん要精密検査者の年齢・性別構成

胃がん検診（X線）

(人)

区 分		要精密検査者数	精 密 検 査 結 果												
			精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	胃がん(転移性を含まない)	胃・十二指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	胃・十二指腸潰瘍瘢痕	胃炎	がんの疑い又は未確定	その他(転移性胃がんを含む)
40歳未満	男	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40～44歳	男	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2	50.0%	1	0	0	1	0	0	0	0	0
45～49歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	7	4	0	3	57.1%	1	0	0	0	0	0	3	0	0
50～54歳	男	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2	50.0%	1	0	0	0	1	0	0	0	0
55～59歳	男	6	4	0	2	66.7%	1	0	1	0	1	0	1	0	0
	女	5	4	0	1	80.0%	0	0	1	1	1	0	1	0	0
60～64歳	男	7	3	0	4	42.9%	1	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	4	1	0	3	25.0%	0	0	0	0	1	0	0	0	0
65～69歳	男	8	3	0	5	37.5%	2	0	0	0	0	0	1	0	0
	女	7	4	0	3	57.1%	2	0	0	0	0	0	1	0	1
70～74歳	男	37	19	4	14	51.4%	1	0	0	6	1	3	7	0	1
	女	27	9	0	18	33.3%	2	0	0	3	0	0	2	0	2
75歳以上	男	63	35	2	26	55.6%	5	2	3	2	4	3	15	0	1
	女	33	19	1	13	57.6%	4	0	1	5	1	0	5	1	2
合計 (40歳未満を含む)	男	124	65	6	53	52.4%	11	2	4	9	6	6	24	0	3
	女	91	45	1	45	49.5%	11	0	2	10	4	0	12	1	5
	計	215	110	7	98	51.2%	22	2	6	19	10	6	36	1	8
合計 (40歳未満を除く)	男	124	65	6	53	52.4%	11	2	4	9	6	6	24	0	3
	女	91	45	1	45	49.5%	11	0	2	10	4	0	12	1	5
	計	215	110	7	98	51.2%	22	2	6	19	10	6	36	1	8

がん要精密検査者の年齢・性別構成

胃がん検診（内視鏡）

(人)

区 分		要 精 検 者 数			精 密 検 査 結 果												
		検診時生検受診者数	検診時生検未受診のうち要再検査者数	計	精検受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	胃がん(転移性を含まない)	食道がん	胃・十二指腸潰瘍	胃ポリープ	粘膜下腫瘍	胃・十二指腸潰瘍瘢痕	胃炎	がんの疑い又は未確定	その他(転移性胃がんを含む)
50～54歳	男	1	0	1	1	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	女	3	0	3	3	0	100.0%	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
55～59歳	男	2	0	2	2	0	100.0%	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	6	0	6	6	0	100.0%	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3
60～64歳	男	3	0	3	3	0	100.0%	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	女	5	1	6	5	1	83.3%	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1
65～69歳	男	6	2	8	7	1	87.5%	0	0	0	0	2	0	0	2	0	3
	女	15	0	15	15	0	100.0%	1	0	0	0	1	0	0	3	0	10
70～74歳	男	23	0	23	23	0	100.0%	5	1	0	0	1	0	1	6	0	9
	女	21	1	22	21	1	95.5%	2	0	0	0	2	0	1	4	0	12
75歳以上	男	75	7	82	79	3	96.3%	10	5	1	2	9	1	4	10	4	33
	女	53	2	55	53	2	96.4%	2	1	0	0	12	0	2	14	0	22
合計	男	110	9	119	115	4	96.6%	16	6	1	2	14	1	5	20	4	46
	女	103	4	107	103	4	96.3%	7	1	0	0	21	0	3	23	0	48
	計	213	13	226	218	8	96.5%	23	7	1	2	35	1	8	43	4	94

がん要精密検査者の年齢・性別構成

大腸がん検診

(人)

区 分		要精検 者数	精 密 検 査 結 果										
			精検受 診者数	精検未 受診者 数	精検未 把握者 数	精検受 診率	異常な し	大腸が ん(転移 性を含 まない)	ポリー プ	憩室	痔疾患	潰瘍性 大腸炎	がんの 疑い又 は 未確定
40歳未満	男	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0	0	0
	女	5	0	0	5	0.0%	0	0	0	0	0	0	0
40～44歳	男	2	1	0	1	50.0%	1	0	0	0	0	0	0
	女	12	2	0	10	16.7%	1	0	0	0	1	0	0
45～49歳	男	7	2	2	3	28.6%	1	0	1	0	0	0	0
	女	8	6	1	1	75.0%	2	0	2	1	1	0	0
50～54歳	男	11	3	1	7	27.3%	1	0	2	0	0	0	0
	女	10	4	0	6	40.0%	1	0	3	0	0	0	0
55～59歳	男	11	4	0	7	36.4%	0	0	3	1	0	0	0
	女	18	11	0	7	61.1%	5	1	4	1	0	0	0
60～64歳	男	15	8	1	6	53.3%	2	0	5	1	0	0	0
	女	27	15	2	10	55.6%	7	0	4	3	1	0	0
65～69歳	男	52	23	0	29	44.2%	9	2	8	2	0	1	0
	女	32	17	1	14	53.1%	5	1	5	3	1	0	2
70～74歳	男	99	51	3	45	51.5%	13	1	26	7	1	0	3
	女	83	53	2	28	63.9%	17	3	23	10	0	0	0
75歳以上	男	302	159	12	131	52.6%	43	9	66	31	3	1	0
	女	187	100	9	78	53.5%	30	3	48	16	1	0	1
合 計 (40歳未満を含む)	男	500	252	19	229	50.4%	71	12	111	42	4	2	0
	女	382	208	15	159	54.5%	68	8	89	34	5	0	1
	計	882	460	34	388	52.2%	139	20	200	76	9	2	1
合 計 (40歳未満を除く)	男	499	251	19	229	50.3%	70	12	111	42	4	2	0
	女	377	208	15	154	55.2%	68	8	89	34	5	0	1
	計	876	459	34	383	52.4%	138	20	200	76	9	2	1

がん要精密検査者の年齢・性別構成

胸部 X 線検診

(人)

区 分		要精検者数	精 密 検 査 結 果								
			精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	肺がん	良性肺腫瘍	がんの疑い又は未確定	その他（転移性肺がんを含む）
40～44歳	男	1	1	0	0	100.0%	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0
45～49歳	男	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0
	女	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0
50～54歳	男	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0
	女	3	1	0	2	33.3%	1	0	0	0	0
55～59歳	男	4	2	0	2	50.0%	2	0	0	0	0
	女	2	1	0	1	50.0%	0	0	0	0	1
60～64歳	男	6	4	0	2	66.7%	3	0	0	0	1
	女	3	2	0	1	66.7%	0	0	0	0	2
65～69歳	男	12	9	0	3	75.0%	5	0	0	0	4
	女	21	15	1	5	71.4%	10	0	0	1	4
70～74歳	男	30	16	1	13	53.3%	10	0	0	0	6
	女	40	20	3	17	50.0%	14	0	1	1	4
75歳以上	男	77	43	0	34	55.8%	18	0	3	3	19
	女	84	56	2	26	66.7%	25	2	2	5	22
合 計	男	131	75	1	55	57.3%	38	0	3	3	31
	女	154	96	6	52	62.3%	51	2	3	7	33
	計	285	171	7	107	60.0%	89	2	6	10	64

がん要精密検査者の年齢・性別構成
子宮頸がん検診

(人)

区 分	要精検者数	精 密 検 査 結 果											
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	LSIL/CIN 1	HSIL/CIN 2	HSIL/CIN 2～3	HSIL/CIN 3	AIS	子宮頸がん	その他の疾患（腺異形成含む）
20～24歳	14	8	0	6	57.1%	6	2	0	0	0	0	0	0
25～29歳	11	10	0	1	90.9%	6	2	1	0	0	0	0	1
30～34歳	13	7	0	6	53.8%	4	3	0	0	0	0	0	0
35～39歳	6	4	0	2	66.7%	3	0	0	0	0	0	1	0
40～44歳	10	8	0	2	80.0%	5	2	1	0	0	0	0	0
45～49歳	17	14	0	3	82.4%	9	2	2	0	0	0	1	0
50～54歳	15	9	0	6	60.0%	6	0	2	0	0	1	0	0
55～59歳	4	1	1	2	25.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
65～69歳	3	3	0	0	100.0%	2	0	0	0	0	0	0	1
70～74歳	1	0	0	1	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0
75歳以上	1	1	0	0	100.0%	1	0	0	0	0	0	0	0
合計	96	65	1	30	67.7%	43	11	6	0	0	1	2	2

がん要精密検査者の年齢・性別構成
乳がん検診（マンモグラフィ）

(人)

区 分	要精検者数	精 密 検 査 結 果						
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	乳がん（転移性を含まない）	その他（転移性乳がん含む）
40～44歳	26	25	1	0	96.2%	13	1	11
45～49歳	11	10	0	1	90.9%	5	1	4
50～54歳	19	17	0	2	89.5%	6	2	9
55～59歳	11	11	0	0	100.0%	6	0	5
60～64歳	11	10	0	1	90.9%	3	3	4
65～69歳	9	7	0	2	77.8%	5	1	1
70～74歳	15	13	1	1	86.7%	7	1	5
75歳以上	4	4	0	0	100.0%	2	0	2
合計	106	97	2	7	91.5%	47	9	41

乳がん検診（超音波）

(人)

区 分	要精検者数	精 密 検 査 結 果						
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	乳がん (転移性を含まない)	その他(転移性乳がん含む)
30～34歳	2	1	0	1	50.0%	0	0	1
35～39歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
40～44歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
合計	2	1	0	1	50.0%	0	0	1

がん要精密検査者の年齢・性別構成

前立腺がん検診

(人)

区 分	要精検者数	精 密 検 査 結 果						
		精検受診者数	精検未受診者数	精検未把握者数	精検受診率	異常なし	前立腺がん	その他
50～54歳	2	1	0	1	50.0%	0	0	1
55～59歳	0	0	0	0	0.0%	0	0	0
60～64歳	7	2	0	5	28.6%	0	0	2
65～69歳	16	9	0	7	56.3%	1	2	6
70～74歳	57	24	3	30	42.1%	10	4	10
75歳以上	163	53	12	98	32.5%	22	11	20
合計	245	89	15	141	36.3%	33	17	39

7 骨粗しょう症検診

寝たきりの原因となる骨粗しょう症予防のため、30 歳以上の市民を対象に実施。

※平成 28 年度から足部位での超音波診断

受診者の年齢・性別構成

(男)		(人)		
年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	2	0	0	2
40～49歳	0	0	0	0
50～59歳	3	0	0	3
60～69歳	3	3	0	6
70歳以上	24	15	6	45
合計	32	18	6	56

(女)		(人)		
年齢	異常認めず	要指導	要精検	合計
30～39歳	5	0	0	5
40～49歳	19	4	1	24
50～59歳	24	15	7	46
60～69歳	21	25	14	60
70歳以上	27	46	25	98
合計	96	90	47	233

8 健康教育事業

(1) 乳がん検診時健康教育

ア 目的

乳がんについての理解を深め、ブレスト・アウェアネスを習得してもらい、乳がんの早期発見、早期治療に結びつける。

イ 対象

乳がん検診受診者

ウ スタッフ

保健師・看護師

エ 実施内容・参加者数

回数	内 容	参加者数
108 回	乳がんについて ブレスト・アウェアネスについて セルフチェックについて	631 人

(2) 地区健康教育

ア スタッフ

保健師、管理栄養士

イ 保健師対応健康教育 実施内容・参加者数 (人)

地区・グループ名	内 容	参加者数
小牧原北	「フレイル」知っていますか？ ・こまき山体操	20
久保	骨粗しょう症について	22
朝日区サロン	認知症予防について	7
小牧原中	健康測定の振り返り	28
上新町	健康的な生活をおくるために (健康測定の振り返り)	14
野口	フレイルチェック	35

小針	ふれあい健康教室 身長・体力測定 「測定結果説明とフレイル予防について」	24
とみづか区3あい事業	「フレイル」をもっと深く	22
小木高年クラブ	フレイル予防について	35
東町	ウォーキング指導	22
村中	ウォーキング指導・ けが予防の準備体操・ストレッチ	30
野口大山区3あい	いつまでも元気でいたい人の為～人生100 年イキイキ生きる～ 健康チェックと振り返り	14
いきいきシルバースポーツ学級	体組成計で自分のからだを知ろう 体組成計での測定補助、及び結果のフィードバック	40
篠岡学区地域協議会 (5月17日実施)	「しのおかさわやかウォーキング」 正しい歩き方の指導・ラジオ体操	75
篠岡学区地域協議会 (10月18日実施)	「しのおかさわやかウォーキング」 正しい歩き方の指導・ラジオ体操	75
介護サービス相談員	養成研修 地域ケア体制（介護予防・健康づくり、生きがいづくり）	4
光ヶ丘小学校区地域協議会	「光ヶ丘ウォーク2023」準備運動・歩き方指導	225
岩崎東・中サロン	健康講話・タオルを使った体操	30
久保一色中南サロン	骨密度測定とお話・握力測定	13
久保一色新田サロン	骨密度測定とお話・握力測定	19
計		719

ウ 管理栄養士対応健康教育 実施内容・参加者数（成人関係）

（人）

団体名	内 容	参加者数
小牧高校保健委員	高校生の今知ってほしい食生活・栄養のバランスについて	45
保健連絡員Eグループ学習会	やさいを食べよう！減塩しよう！	31
シニアカフェ	フレイルと食事からのフレイル予防	11
生涯骨太クッキング教室	健康な骨を維持しよう！	10
陶地区カフェ	フレイルと食事からのフレイル予防	17
計		114

(3) 職域健康教育

ア スタッフ

保健師

イ 実施内容・参加者数

（人）

団体名	内 容	参加者数
リサイクルプラザ	職場の精神衛生について	19
小牧市民文化財団	①歯周病予防「お口の健康を守るために」 ②健康診断結果の見方「健診結果から自分の体を知ろう！」	20
上下水道部	職員の健康診断の結果から見る健康チェックについて	9
計		48

(4) 出前講座（国保協力事業）

ア 目 的 転倒予防・認知症予防・おくちの健康・栄養、フレイル予防などについての知識や日常生活の中で実施できる体操などを日頃集まる場（地区老人クラブ等）で知

ってもらい、要介護状態になることを予防する。

また、生活習慣病や体力低下を予防し、市民が健康づくりをするためのきっかけをつくることや、疾患に対する理解を促し予防行動につなげることや、自己肯定感を育み、市民が心身ともに健やかに過ごすためのきっかけとなることを目的とする。

イ 対 象 小牧市内の老人クラブの会員、保健連絡員活動、地域
3 あい事業の出前講座等、地区からの団体申し込み

ウ コース名・内容・講師

コース名	内容	講師
防 ぐ 誤 嚥 性 肺 炎！これであなたも 歯合わせ講座	【講話】誤嚥性肺炎を予防するポイントなど 【実技】顔の筋トレ、健口体操など	歯科衛生士
転ばぬ先の転倒予防 教室	【講話】「日常生活における転倒予防とは」など 【実技】転びにくい体づくりのための体操など	運動指導士 及び看護師
正しいラジオ体操教 室	【講話】ラジオ体操の正しい方法について 【実技】実技指導、ストレッチ、みんなの体操指導など	体操指導員
めざせ！健康長寿 ～今からできること～	【講話】介護予防・フレイル予防の紹介 【実技】介護予防・フレイル予防の体操など	保健師
人生 100 年時代の食 べるを知ろう！ ～お家でできる簡単 フレイル講座～	【講話】「健康寿命をのばすためにフレイルを予 防しよう」 【実技】BMI チェック、11 種のバランスチェッ ク、今晚のメニューを考えよう	管理栄養士
オトナ女子の更年期 講座	【講話】更年期について 【実技】体操など	N P O 法人 ちえぶら
女性の健康講座～骨 盤底筋エクササイズ ～	【実技】出産や加齢による腹圧性の尿漏れ予防 に効果的なエクササイズ	N P O 法人 ちえぶら

エ 実施回数・参加人数

(人)

コース名	令和 5 年度		令和 4 年度		令和 3 年度	
	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)	回数	人数 (延べ)
転ばぬ先の転倒予防教室	5	94	5	101	3	43
笑う門には福来る！ 楽しく歯あわせ講座			6	117	0	0
正しいラジオ体操教室	6	117	3	62	4	64
めざせ！健康長寿～今から できること～	5	115	2	43	2	25
人生 100 年時代の食べる を知ろう！～お家でできる 簡単フレイル講座～	4	68	10	267		
ピンクリボン講座 ～乳がんセルフチェック～			0	0	0	0
育てよう！自己肯定感			0	0	0	0
防ごう 誤嚥性肺炎！こ れであなたも歯合わせ講 座	12	321				
オトナ女子の更年期講座	5	113				
女性の健康講座～骨盤底 筋エクササイズ～	7	143				
計	44	971	26	590	9	132

(5) 自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）

ア 目的 自分の食生活を見直し、生涯にわたり健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、望ましい食生活について、講義、実習の両面から学ぶ。そして、市民自らが、家族、地域、職場の人々、社会全体の健康づくりへと寄与できることを目的とする。また講座終了

者は、小牧市食生活改善協議会に加入し、食生活改善協議会員（ヘルスメイト）として小牧市内で食のボランティア活動に携わることができる。

イ 対 象 市民 15 人

ウ スタッフ 管理栄養士

エ 実施内容・参加者数 (人)

回	実 施 日	内 容	参加者数
1	10 月 6 日(金)	開講式 オリエンテーション 講話「小牧の健康状況について」 講師：保健師 「自分・家族の食を見直そう」 「食品成分表の使い方を知って、栄養価を計算しよう」	9
2	11 月 10 日(金)	講話「生活習慣病予防の食生活について知ろう」 「食事バランスガイドについて知ろう」 調理実習「バランスのとれた食事を作ろう」	8
3	12 月 1 日(金)	実習「手軽にできる運動に挑戦しよう」 講師：保健師 講話「食事からのフレイル予防について知ろう」	8
4	1 月 12 日(金)	講話「食中毒を予防し、おいしく安全に食べよう」 調理実習「フレイル予防の食事を作ろう」	6
5	2 月 2 日(金)	講話「減塩の工夫で家族の健康を守ろう」 調理実習「減塩のコツを知ろう」	6
6	3 月 1 日(金)	講話「小牧市の健康を取り巻く現状について」 グループワーク「私たちのまちは私たちの手で～私のまちの食の姿と私のできること、みんなでできること～」 ヘルスメイトの紹介 修了証書授与	8
計			45

オ 食生活改善協議会員（ヘルスメイト）活動開始者数 5 人
（講座修了者は食生活改善協議会員として活動できる）

9 健康相談事業

(1) 医師健康相談

人(回)

実施日時	場 所	実 施 内 容	参加者数(開催回数)		
			令和5年	令和4年	令和3年
毎週月曜日 9時～11時45分 13時～14時15分 毎週水曜日 9時～11時15分 (第3水曜のみ9時30分～11時15分)	保健センター (第3水曜のみ 東部市民センター)	・病気に関する相談 ・健診結果の説明 ・治療等に関する相談 等	12 (95)	20 (96)	33 (91)

ア 目 的

気になる症状があるが、病院へは行きづらい方や、病気についての相談を希望する方に、自分の健康に関して医師の相談を実施し、自らの健康を振り返り、健康に関する意識を高める機会とする。

イ 対 象

健康に関して、医師へ何らかの相談を希望する市民

(2) 保健師等健康相談

人(回)

実施日時	場 所	実 施 内 容	参加者数（開催回数）		
			令和5年	令和4年	令和3年
毎週月曜日 9 時～11 時 45 分	保健センター	・健康に不安のある方の 運動・食事等の日常生活相談 ・血圧測定・尿検査の実施	153 (46)	175 (46)	176 (45)
毎月第3火曜日 9 時 30 分～11 時 15 分	味岡市民センター		8 (11)	15 (11)	8 (12)
毎月第3水曜日 9 時 30 分～11 時 15 分	東部市民センター		4 (11)	5 (12)	5 (12)
計			165 (68)	195 (69)	189 (69)

ア 目 的

病気の有無にかかわらず、自らの健康を保持・増進し、生活習慣病を予防し、健康を守っていく事ができるよう意識を高める。

イ 対 象
市民

(3) 保健師・管理栄養士による生活習慣病予防相談 人(回)

実施日時	場 所	実 施 内 容	参加者数（開催回数）		
			令和5年	令和4年	令和3年
毎週月曜日 9時30分～12時 13時30分～16時	保健センター	生活習慣、食事記録をもとにした 具体的な生活習慣の相談	64 (43)	65 (44)	32 (46)

ア 目 的

- ・自分の健康に対する知識や、各種生活習慣病に対する知識を深めることができる。
- ・何らかの生活習慣病を持ちながらも、元気で、自己実現のできる生活ができるよう健康を生活の重要な条件として認識する事ができる。
- ・自分の健康状態を振り返り、積極的に日常生活や、食生活、運動習慣を見直し、今後の生活につなげていける機会とする事ができる。

イ 対 象

- ・健康状態を振り返り、積極的に日常生活や食生活・運動習慣を見直したい方及びその家族
- ・骨粗しょう症検診で、要指導・要精検となった方及びその家族
- ・病気などにより日常生活の改善が必要な方及びその家族

ウ 相談来所きっかけ (人)

医師からの紹介	健診結果より	一般相談より	教室等での紹介	広報・チラシ	継続の方	その他
13	40	1	0	0	4	2

エ 相談内容内訳（相談内容は再掲、重複あり）（件）

相談内容	糖尿病	高血圧	脂質異常症	肥満	骨粗しょう症	食事一般	その他
相談件数	50	2	13	3	2	3	0

(4) 精神保健福祉士による心の健康相談（件）

	年齢区分				性別		本人	家族	相談内容（重複有）																	合計	
	妊産婦 乳児期	小・中・高・大 19歳～60歳	61歳以上	年齢不明	男	女			マタニティブルー 子育て（メンタル） 社会復帰	こころの健康づくり	薬物	いじめ	ひきこもり・不登校	自殺願望	犯罪被害	うつ	統合失調症	発達障害	精神疾患					その他（他） （要）			
																			アルコール	摂食障害	鬱病 （うつ病）						
面接	0	0	1	18	4	0	13	10	13	10	0	0	2	22	0	0	2	3	0	8	9	2	1	1	2	2	23
電話	0	0	1	20	53	1	13	62	67	8	0	0	1	69	1	1	2	0	0	54	48	0	0	0	10	4	75
訪問	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2

10 訪問指導

(1) 健康増進法に基づく訪問指導

ア 目 的

生活習慣病予防・介護を要する状態になることの予防に関する指導や、療養上保健指導が必要であると認められる者及びその家族に対して保健師等が訪問し、健康に関する問題を総合的に把握し必要な指導を行い、これらの者の心身機能低下の予防と健康の保持増進を図ることを目的とする。

イ 対 象

40 歳以上 65 歳未満の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法 (人)

内 容	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
県関係機関より	0	0	0
医療関係より	0	0	1
福祉関係より	0	0	0
本人・介護者・家族からの依頼	0	1	2
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	0	1
保健センター事業より	0	0	0
前年度から継続	0	1	0
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	0	1	1
その他	0	0	0
計	0	3	5

(イ) 被指導人員 (人)

内 容	実人員	延人員
生活習慣病要指導者等	0	0
閉じこもり予防	0	0
認知症の者	0	0
精神的支援	0	0
その他	0	0
計	0	0

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

・訪問延件数 0 件

・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいづくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	0
家族間調整	0
就労	0
日常生活	0
各種制度	0
受療・医療	0
苦情	0
傾聴	0
自殺	0
その他	0

※重複記載あり

(イ) 管理栄養士による訪問

・訪問件数 0 件

(2) その他訪問指導

ア 目 的

保健センターへの来所が困難な場合や家庭での状況を確認した上での指導が必要な場合、あるいは家庭での指導が適切な場合等に訪問し相談、指導を行う。

イ 対 象

前述の健康増進法等の訪問対象以外の者及びその家族

(ア) 対象者の把握方法 (人)

内 容	令和5年度	令和4年度	令和3年度
県関係機関より	0	0	0
医療関係より	0	0	0
行政関係より	2	0	1
本人・介護者・家族からの依頼	2	0	2
保健連絡員・ボランティアから紹介	0	0	3
保健センター事業より	0	1	3
前年度から継続	2	4	1
糖尿病重症化予防事業より（再掲）	1	0	1
その他	0	1	0
計	7	6	11

(イ) 被指導人員 (人)

内 容		実 人 員			延 人 員	
		40歳未満 (再掲)	65歳以上 (再掲)		40歳未満 (再掲)	65歳以上 (再掲)
生活習慣病要指導者等	1	0	1	1	0	1
閉じこもり予防	0	0	0	0	0	0
介護予防事業	1	0	1	2	0	2
認知症の者	0	0	0	0	0	0
精神的支援	4	2	2	7	5	2
その他	0	0	0	0	0	0
計	6	2	4	10	5	5

ウ 実施結果

(ア) 保健師・訪問指導員による訪問

・訪問延件数 10 件

・訪問指導内容 (件)

内 容	件 数
血圧測定	0
疾患	0
服薬	0
食生活	0
口腔衛生	0
咀嚼嚥下	0
A D L	0
I A D L	0
運動	0
環境整備	0
生きがいつくり	0
地域活動参加勧奨	0
基本チェックリスト実施	0
他機関紹介	1
家族間調整	0
就労	0
日常生活	7
各種制度	2
受療・医療	5
苦情	0
傾聴	6
自殺	0
その他	0

※重複記載あり

(イ) 管理栄養士による訪問

・訪問件数 0 件

11 ヤング健診

(1) 目的

健康と毎日の生活習慣を振り返るきっかけとして、若い頃からの健診及び指導を受ける機会を提供して生活習慣病の予防につなげる。

生活習慣から起因する疾病の予防に向け、生活習慣病と密接に関係する内臓脂肪に着目した血液検査を取り入れた健診を行い、ハイリスク者に対し自覚症状がなくても数字により生活習慣の変容につながるような動機付けができ、これにより糖尿病等の生活習慣病発生予防や重症化防止の支援を行う。

(2) 対象

- ① 小牧市に住民登録のある 35 歳から 39 歳の方で、事業所等で健診を受ける機会のない方
- ② 昨年度ヤング健診受診者のうち動機付け・積極的支援に該当した方（14 人）

(3) 実施日時

日にち：8 月 21 日（月）、9 月 19 日（火）、11 月 2 日（木）、12 月 16 日（土）
時 間：午前 9 時 30 分～12 時

(4) 会場

保健センター、ラピオ、勤労センター

(5) 実施内容

身体計測（身長・体重・腹囲測定）、血圧測定、尿検査、血液検査（脂質検査・血糖検査・貧血検査）、医師診察、生活習慣及び歯科に関する保健指導

(6) スタッフ

医師、保健師、看護師、歯科衛生士、事務員

(7) 受診結果概要

ア 受診者数

(人)

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
35 歳	36	29	87
36 歳～39 歳	149	136	120
総受診者数	185	165	207

イ 健診結果による階層化

	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
情報提供レベル	164 人 (88.5%)	146 人 (88.5%)	188 人 (90.8%)
動機付け支援レベル	11 人 (5.9%)	12 人 (7.3%)	13 人 (6.3%)
積極的支援レベル	10 人 (5.4%)	7 人 (4.2%)	4 人 (1.9%)
判定不能			2 人 (1.0%)

ウ 階層化による各レベルにおける内訳

(ア) 情報提供レベル 164 人 (男性 35 人 女性 129 人)

身体計測内訳

(人)

男性	・腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	3
	・腹囲 85cm 以上のみのチェック	3
	・BMI25 以上のみのチェック	1
女性	・腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	8
	・腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	・BMI25 以上のみのチェック	7

検査項目基準値外内訳 (人)

検査項目	男性	女性
収縮期血圧 高値	3	4
拡張期血圧 高値	2	1
空腹時血糖値 高値	5	2
HbA1c 高値	9	26
中性脂肪 高値	5	3
HDL コレステロール 低値	1	0

(イ) 動機付け支援レベル 11 人 (男性 8 人 女性 3 人)

身体計測内訳 (人)

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	5
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	3
	BMI25 以上のみのチェック	0
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	2
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	1

検査項目基準値外内訳 (人)

検査項目	男性	女性
収縮期血圧 高値	3	1
拡張期血圧 高値	1	1
空腹時血糖値 高値	0	1
HbA1c 高値	2	2
中性脂肪 高値	3	1
HDL コレステロール 低値	2	0

(ウ) 積極的支援レベル 10 人（男性 6 人 女性 4 人）

身体計測内訳

男性	腹囲 85cm 以上 + BMI25 以上のチェック	5
	腹囲 85cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	1
女性	腹囲 90cm 以上 + BMI25 以上のチェック	3
	腹囲 90cm 以上のみのチェック	0
	BMI25 以上のみのチェック	1

検査項目基準値外内訳

(人)

検査項目		男性	女性
収縮期血圧	高値	4	1
拡張期血圧	高値	2	1
空腹時血糖値	高値	2	3
HbA1c	高値	2	1
中性脂肪	高値	6	4
HDL コレステロール	低値	3	3

(8) ヤング健診後の保健指導状況

ア 個別面接状況

ヤング健診受診者 185 人中 147 人(男性 39 人、女性 108 人)と面接 (79.5%)

うち 栄養相談 78 人

イ 動機付け、積極的支援対象者への処遇

動機付け支援対象者(男性 8 人 女性 3 人)

(人)

処 遇	男 性	女 性
結果説明会当日指導にて終了	7	3
管理栄養士による当日相談利用	6	2
資料送付にて終了	1	0

積極的支援対象者(男性 6 人 女性 4 人) (人)

処 遇	男 性	女 性
結 果 説 明 会 当 日 指 導 に て 終 了	5	2
管 理 栄 養 士 に よ る 当 日 相 談 利 用	5	3
資 料 送 付 に て 終 了	1	0
電 話 に よ る 相 談 利 用	0	2

※複数選択あり

12 地域支援事業 一般介護予防事業

(1) 介護予防普及啓発事業

ア 知って得する若返り講座

(ア) 目的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、その予防に向けた正しい知識を普及啓発し、市民一人一人がフレイル予防の大切さを認識し、自分ごととして行動に移すことができるよう促し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

【ねらい】

参加された人が、フレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識を、個人や地域での活動の中で活かすことができる。

(イ) 対象者

概ね 60 歳以上で市内在住の方

(ウ) スタッフ

歯科衛生士 体操指導員

(エ) 内容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会場

ラピオ

サンビレッジ（社会福祉法人 あいち清光会）

東部市民センター

(カ) 実施状況 参加者数 (延べ)

(人)

会場	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	内 訳	合 計
ラピオ	19	17	8	17	15	11	13	7	15	10	8	12	152	177
サンビレ ッジ	-	-	-	5	-	-	-	-	5	-	-	-	10	
東部市民 センター	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	4	-	15	

イ アクティブシニア応援セミナー

(ア) 目的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、元気なうちから予防に向けた正しい知識を普及啓発し、その人らしい健康づくりを応援し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

【ねらい】

参加された人が、フレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識が自分自身の健康生活のヒントになり、自分らしい生活に活かすことができる。

(イ) 対象者

概ね 50 歳以上の市民

(ウ) スタッフ

歯科衛生士 体操指導員

(エ) 内容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会場

ラピオ 2 階 ワクティブこまき

(カ) 実施状況 参加者数（延べ） (人)

開催日	参加人数
6 月 27 日	7
11 月 28 日	3

ウ 健康づくり応援隊★認定講座

(ア) 目的

心身の機能が低下した状態の「フレイル」に陥らないよう、元気なうちから予防に向けた正しい知識を普及啓発し、いつまでも元気に市民活動に参加し、生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

【ねらい】

参加された人が、フレイル予防に関する意識を向上させ、講座で得られた知識を各々の市民活動の中で活かして健康づくりに取り組み、市民活動団体のメンバーが元気に活動を続けることができる。

(イ) 対象者

市民活動団体の代表者

(ウ) スタッフ

歯科衛生士 体操指導員

(エ) 内容

- ・お口の機能アップと頭の体操を楽しみながら行う
- ・運動器機能向上のための筋トレ、ストレッチなど簡単な体操を音楽に合わせて行う

(オ) 会場

ラピオ 2 階 ワクティブこまき

(カ) 実施状況 参加者数（延べ） (人)

開催日	参加人数
8 月 29 日	17
1 月 30 日	10

エ 筋力アップのためのトレーニングマシン講習会

(ア) 目的

高齢者にとって身近な老人福祉センターにおいて、高齢者自身が安全に効果的にトレーニングマシンを利用し、筋力特に下肢筋力の向上に向けて取り組むことができるよう支援する。

(イ) 対象者

小牧市在住の 60 歳以上の方

(ウ) スタッフ

健康運動指導士

(エ) 内容

- ・筋力アップトレーニングやストレッチの必要性を伝える。
- ・トレーニングマシンの正しく安全で効果的な使用方法を指導する。

(オ) 会場

第一老人福祉センター 野口の郷 機能回復訓練室
第二老人福祉センター 小針の郷 機能回復訓練室
第三老人福祉センター 田島の郷 機能回復訓練室

(カ) 実施状況 実施回数・参加者数（延べ）

野口の郷 12 回
小針の郷 12 回
田島の郷 6 回

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計	総 計
野口の郷	20	15	15	20	20	20	30	15	15	30	35	25	260	577
小針の郷	15	2	15	12	15	15	15	8	10	15	25	15	162	
田県の郷							20	15	15	35	35	35	155	

(キ) 事業に対する反応

○参加者からの声

- ・トレーニングマシンの使い方をしっかり教えてくれるので有難い。
- ・自己流でやっていたので、教えてもらえてよかった。

○スタッフより

- ・他の事業で勧められ初めて参加された方が継続的に取り組んでくれている。
- ・正しい使い方をすれば、筋力維持・向上にとっても効果があるので、多くの方にトレーニングマシンを使ってほしい。

オ おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室

(ア) 目的

サロンに参加される対象に応じて、低栄養予防についてのミニ講話を行ったり、低栄養予防に関する相談に応じることにより、低栄養予防に関する正しい知識の普及啓発を行う。

(イ) 対象

市内のふれあいいきいきサロンの参加者

(ウ) 講師

管理栄養士

(エ) 内容

低栄養を予防する食事についての講話と簡易栄養相談を「おいしく食べて元気に長生き！サロン巡回低栄養予防教室」として実施。

(オ) 実施場所

各サロン実施の会館等

(カ) 実施状況

依頼なし

カ まちかど運動教室

(ア) 目的

自身の健康づくりや地域の健康づくりにつなげるために、フレイル予防に関する知識の普及啓発を促し、自らの健康状態を知ったうえで自分にあった健康づくりを継続して実施できるようにする。また、教室を通じて学んだ内容を地域への普及啓発に活かせるよう、ボランティアリーダー認定制度を設け、意識的に健康づくりの普及を行える人材を発掘する。

(イ) 対象

健康づくり編：65歳以上の要介護認定を受けていない方、もしくは64歳未満の方で地域の健康づくりに興味がある方、運動に支障がない方、健康づくりについて学びたい方

フレイル予防編：介護予防把握事業や令和4年度健康診査の結果から、身体的フレイルリスクがある方

(ウ) スタッフ

運動トレーナー、管理栄養士ほか

(エ) 内容

測定器等を用いて筋肉量等、自身の体の状態を知るとともに、運動や栄養、口腔、認知等におけるフレイル予防に関する講話を実施。個々のフレイル予防につなげるとともに、そこで得た知識を地域へ還元していけるよう、希望者については別途講習会を受けることでボランティアとして活躍する際に活用できる認定証を交付する。健康づくり編では、より地域へ目を向けてもらえるような働きかけを行い、フレイル予防編では、現在の状態の維持改善に向けた働きかけを行う。

(オ) 参加者数

(人)

	実施回数		参加者数 (実人数)		参加者数 (延人数)	
	(健康づくり編)	(フレイル予防編)	(健康づくり編)	(フレイル予防編)	(健康づくり編)	(フレイル予防編)
南部	6	6	20	11	111	58
中部	6	6	17	11	86	59
西部	6	6	16	6	82	32
味岡	6	6	26	14	143	74
東部	6	6	23	15	125	83
北里	6	6	10	9	56	45
計	36	36	112	66	603	351

ボランティアリーダー認定講習会参加者：40名

キ 住友理工フレイルチェック測定会

(ア) 目的

住友理工株式会社が開発したフレイルチェックシステムを用いて、フレイルチェックを行う機会を設けることで、自身の今の健康状態を知るきっかけとする。

(イ) 対象

60 歳以上の市民

(ウ) 内容

身体計測、問診、体組成測定、握力、5 m 歩行速度、3 m TUG、
クロステスト（足圧測定）、フィードバック

(エ) 参加者数／回数

154 人／10 回

(2) フレイルハイリスク者重症化予防相談

ア フレイル改善個別相談

(ア) 目的

加齢とともに心身の機能が低下し、要介護に陥る危険性の高い状態にある高齢者が、口腔、栄養、運動の3分野において、各専門職による個々の状態に応じた支援を受けることで、フレイル改善に向けた取り組みを行い、住み慣れた地域でいつまでもいきいきとした生活を送ることができる。

- ① 個々の状態に応じた個別相談を通して、フレイル改善のための取り組み方法を知り、行動変容ができる。
- ② 通いの場に出向いたり、楽しみを見つけたり、他者とのつながりを持つことができる。

(イ) 方法

運動、栄養、口腔の3分野において、健康運動指導士もしくは理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士による個別相談（必要に応じて2～3人グループ対応）を行い、行動変容を促す。地区担当保健師は概ね1か月後に、本人のフレイル改善に向けた取り組み状況を電話などで確認し、必要に応じて再度個別相談につなぐ。また、個々の状態に合った通いの場を紹介するなど、適切な支援につなげる。

(ウ) 対象

保健師等の専門職より、個別相談が必要と判断された概ね 60 歳以上の方

分野	判断基準
運動	・ ひざや腰に痛みを感じる（医師より運動の許可がある） ・ うでや肩に痛みを感じる（医師より運動の許可がある） ・ ペットボトルのキャップが開けにくくなった ・ 10 分以上継続して歩くことができない ・ 以前と比べて歩く速度が遅くなってきた ・ 週に 2 回以上体を動かしていない
栄養と 口腔	・ 体重減少（6 か月間で 2～3 kg 以上） ・ 固いものが食べにくくなった ・ 水や汁物でむせることが多くなった ・ 家族や友人から聞き取りにくいと言われるようになった

(エ) 対象の把握経路

- ・ 後期高齢者健康診査を実施している医療機関より把握
- ・ 高齢者の集う場（サロン等）において実施されるフレイルチェックや地域住民（保健連絡員等）を通して保健師等が把握
- ・ 介護予防実態把握事業において地域包括支援センターより把握
- ・ 国民健康保険加入者のうちレセプトより把握

(オ) 名称

- 「フレイル改善個別運動相談」
- 「フレイル改善個別栄養相談」
- 「フレイル改善個別歯科相談」

(カ) スタッフ

- 「運動」健康運動指導士もしくは理学療法士 1 名
- 「栄養」管理栄養士 1 名
- 「口腔」歯科衛生士 1 名

(キ) 内容

【3分野共通】

- ・心身機能の状態について本人の気づきを促し、フレイル改善の取り組みのきっかけになるよう、その状態の改善に向けた相談、情報提供を行う。
→本人の気づきを促すため、相談時にミニ測定を実施し、個々の状態に応じた個別相談を実施する。
- ・自宅でも取り組めるように資料を配布する。
- ・通いの場の紹介

(ク) 実施状況

分野別の実施人数

(人)

月	運動	栄養	口腔
7	5	1	6
8	0	2	0
9	6	5	6
10	4	5	6
11	6	6	5
12	7	7	9
1	12	8	10
2	8	7	6
3	1	1	2
合計	49	42	50
全体	141		

会場・分野別の参加人数

(人)

	運動	栄養	口腔	合計
野口の郷（老人福祉センター）	18	14	17	49
小針の郷（老人福祉センター）	22	19	23	64
田県の郷（老人福祉センター）	9	9	10	28
合計	49	42	50	141

(ケ) 事業に対する反応

○参加者からの声

- ・自分の体の状態について知ることができた。
- ・体が弱らないための方法について、わかりやすい説明があり、よかった。

○スタッフより

- ・自分の状態について気づいていない方も多いので、まずは自分の状態を知り、改善に向けた取り組みをしてほしい。

(3) 地域介護予防活動支援事業

ア 目的

専門職が介護予防に必要な知識や技術を提供することにより、介護予防の場を運営する地域団体が、介護予防への取り組みができる。

イ 事業内容

介護予防に関するボランティア等の人材を育成するための指導
介護予防に資する地域活動組織の育成・支援

ウ 支援方法

ボランティアが主となり、介護予防の場を運営していけるよう支援していく。

保健センターからスタッフが出向、実際の場面を通してどのように

対処したらよいか伝えていく。

また、カンファレンスを通して実際の場面を振り返る機会を設ける。

エ スタッフ

保健師、看護師

オ グループ活動

(ア) グループ活動の目的

高齢や病気のため体に不自由が生じ、気持ちがなかなか外に向かず、1人では外出しづらくなり、閉じこもりがちな方が集まれる場を作り、介護予防に向けた取り組みを行う。

(イ) グループの詳細

a 介護予防サポート ももの会

(a) 対象地区 篠岡地域

(b) 日時 毎月第1・第3金曜日（月2回）

午前9時30分～午後3時30分

全24回 ボランティア会議1回

(c) 内容 体操、ゲーム、レクリエーション、バスハイク、読み聞かせ、創作活動等

(d) メンバー 及び 利用者 (人)

	実人数	延べ人数
ボランティア (保健連絡員、保健連絡員 OB)	18	269
利用者	7	130

13 第2次健康日本21こまき計画 健康こまきいきいきプランの推進

(1) 目 的

生活習慣の改善による健康の増進と疾病の発病を予防する「一次予防」に重点をおき健康寿命を延伸させるために、「健康こまき いきいきプラン」を策定し、市民が生涯にわたって、健康でいきいきと暮らしていけるよう、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むとともに、家庭、地域、社会全体で支援する環境づくりを推進する。

(2) 対 象 市民

(3) 小牧市民健康づくり推進協議会推進部会各部会における取り組み内容

部会名	令和5年度取り組み内容
栄養・食生活	①食育だよりについて紙媒体を、小学校5年生対象に夏休み前に配布。R6年度以降の実施においてはICT教育の活用を図るため、児童向けにロイロノート、保護者向けにTETORUを利用しデータ配布をするよう検討、校長会での周知を行ったが、令和6年度以降も紙媒体での配布となった。また、配布対象の見直しを検討した。学習指導要領に合わせ、バランスのとれた食事を知り、自分で献立をたてる授業での活用を目指し小学6年生を対象に10月ごろの配布と決定した。 ②簡単お食事ガイドについて、生活習慣病予防相談、ヤング健診結果説明会などで活用をスタートした。今後は市ホームページ、健康経営ホームページ等へ掲載し、より多くの市民へ周知していく。 ③ヘルシーメニューの応募はホームページ上を使用して継続的に行っているが、応募はない。今後は「健康的な食事」の知識の普及啓発を行い、その情報を参考にしたメニューを提供する店舗を増やし、市民が外食をする際に自然に健康になれる食事のモデルケースとなることを目標とする。 ④クックパッドに小牧市公式キッチンを公開。ヘルスメイト考案メニューのほか、小牧市生活改善実行グループのレシピが掲載されている。今後、学校栄養士、保健センター栄養士などもレシピを提供、拡充を目指す。

身体活動 ・運動	①親子で健康づくりに役立ててもらうため「親子で楽しめる遊び場マップ」をより多くの方に知ってもらえるよう、1歳6か月児健診や親子教室などで配布した。また、ケーブルテレビ「小牧市市政だより」で放映し、動画配信した。 ②ホームページを活用した取り組みとしては、厚生労働省が推奨する「プラス10」を取り上げ、日常生活における身体活動量の増加につながるよう「おうち de 子どもと一緒に」「地域」「家事・生活の中」「仕事・通勤中」の4つの場面ごとに具体例を掲載した。 ③多世代交流プラザのスペースを活用した取り組みを進めた。厚生労働省が推奨する「プラス10」の取り組みが身近な場所で行えるようナッジ理論を活用した環境づくりのため、壁に背伸びやスクワット、かかと上げの影絵を貼る、親子で体を使った遊びの紹介など、思わずやってみたくくなるような仕掛けを設置した。また、階段利用促進のためのポスターを掲示した。
休養・ こころの 健康	①ゲートキーパー養成講座を昨年度に引き続き、保健連絡員、職員を対象に実施した。また、2月4日に市民向けのゲートキーパー養成講座(講演会)を開催し、広くゲートキーパーの必要性について周知した。 ②日常の悩みやストレスを抱えた本人が相談先を知るためのツールとして、また、相談された方を適切な機関につなぎ、問題解決につながるよう関係機関の連携を図るため、関係機関に対し「こころの相談窓口パンフレット」を配布した。 市ホームページ、市公式 SNS を活用し、こころの健康および相談先を周知した。 自殺予防週間および自殺対策強化月間にあわせてポスター掲示及び啓発グッズを配布した。また、図書館と連携し、デジタルサイネージを活用した予防啓発や、自殺対策に関連した書籍を集めた図書コーナーを設け、普及啓発を積極的に行った。 ③ ワークライフバランスの実現に関することとして、大学生に対して「ワークライフバランス」に関するアンケートを実施するため、アンケートの内容を検討した。

たばこ・アルコール	①喫煙者に受動喫煙への配慮を啓発する方法について引き続き検討した。また、中学生へのがん教育が始まり、内容に喫煙の害及び受動喫煙の害について取り入れ、生徒自身が自分の体を守ることや家族との会話の中で受動喫煙について話をするきっかけを提供した。 ②市ホームページに COPD に関する記事を掲載。COPD デーには SNS での周知啓発を行った。部会で作成したポスターについても引き続き活用し、今後は職域へと活用を促せないか検討していく。また、喀痰検査（肺がん検診）受診者へ愛知県作成の COPD 普及啓発リーフレットを配布した。 ③楽しみながらほどんどに飲酒をするためのコツについて周知啓発方法を検討した。
歯の健康	① 子どもの歯・口腔の健康づくりに関する環境整備の一環として、市内児童館職員や保育園、学校関係者等に対し、研修会を開催。 ② 市内保育園で実施する歯みがきやフッ化物洗口などの取組の再開に向けた調整を行い、子どもの歯・口腔の健康づくりに向けた取組に繋げる働きかけを実施。 ③ 大学と連携し、園児のう蝕予防に関する取組を市内 2 つの保育園で実施。 ④ 市内 15 の小学校において、小学 4 年生を対象とした歯みがき指導を実施。 ⑤ 学校における給食後の歯みがきの実施に向け、校長会及び保健主事会で講話を実施。 ⑥ 学童期の歯肉炎予防に関する取組として、これに関するリーフレットを小学 4 年生を対象に配布した。 ⑦ 小中学生のう蝕及び歯周病の予防に関する取組として、企業との協働による歯科講話を実施。 ⑧ オーラルフレイルの早期発見・早期治療に向けた具体的な方策について検討を行い、事業の拡充に向けた取組を実施。 ⑨ 壮年期・高齢期の歯科疾患の予防及び早期発見の一環として実施する口腔がん検診の拡充に向けた検討を実施。

(4) 重点施策関連取組み内容

① 地域で支える健康づくりの推進

- ・ まちかど運動教室（健康づくり編）の参加者からボランティアリーダー認定講習会へ参加を促し、地域で活躍している介護予防推進リーダーの養成や、住友理工フレイルチェック測定会の測定員養成につなげ、地域での活動の場を提供。
- ・ ワクティブこまきでの総合相談における地域ボランティアマッチングの実施。

② 働く世代の健診・検診受診率の向上

- ・ 協会けんぽと連携し、健康宣言事業所数増加に向けた取組みを実施。
- ・ 健康いきいきポイント事業の推進。
- ・ 小牧市役所における健康経営の推進。

③ 生活習慣病予防及び糖尿病重症化予防

- ・ 市ホームページの充実。
- ・ 市民活動団体等による生活習慣病予防に係る活動の周知。
- ・ 今後の生活習慣病重症化予防に向けた取組みの検討。

④ 後期高齢者の虚弱（フレイル）予防

- ・ 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施における介護予防把握事業を通じた健康状態不明者への支援。まだら受診をされている方への個別通知による健診受診勧奨。健康診査の受診結果や介護予防把握事業によるフレイルリスク者の抽出と、その対象者への介護予防教室の実施。サロンにおけるフレイルチェックとまちかど運動教室によるポピュレーションアプローチ。

14 こまき健康いきいきポイント事業

(1) 目的

自分にあった健康づくりを、自ら目標を定め、楽しみながら継続していただくため、活動の励みやきっかけづくりとしてポイント事業を実施し、健康づくりに取り組む世代・人口を拡大し、小牧市民の健康増進を図ることを目的とする。

(2) 事業概要

愛知県との協働事業。

「こまき健康いきいきポイント」パンフレットに掲載されている健康づくり（下記(4)のこまき健康いきいきポイント内容参照）を実施して、ポイントを1,000ポイント以上貯めるとあいち健康づくり応援カード（まいか）と地域限定商品券（1,000円分）と交換できる。

「まいか」を提示すると、愛知県内の健康づくり応援カード協力店から優待を受けることができる。

(3) ポイント交換対象

あいち健康づくり応援カード（まいか）：市民、市内在勤・在学者
地域限定商品券：中学生以上の小牧市民及び市内在勤・在学者

(4) こまき健康いきいきポイント内容

ア 健康づくりチャレンジ

毎日の自主目標の取り組みでポイントを貯める

イ 健診・検診チャレンジ

がん検診や人間ドック、特定健診などを受けてポイントを貯める

ウ 参加チャレンジ

健康に関する講座やイベントに参加してポイントを貯める

エ ボーナスチャレンジ

小牧市ウォーキングアプリ alko の初回ダウンロードや、健康いきいきポイント制度の知人等への紹介を行い、ポイントを貯める

(5) 周知方法

広報、ホームページ、チラシ、ポスター、各事業でパンフレット配布

(6) パンフレット配布、まいか・地域限定商品券交換申込場所

市役所、保健センター、各市民センター、各コミュニティセンター、パークアリーナ小牧、まなび創造館、ホームページからの電子申請

(7) 実 績

ア あいち健康づくり応援カード「まいか」及び地域限定商品券交換者数 601 人

イ 市内あいち健康づくり応援協力店舗数 39 店舗（R6.3.31 時点）

(8) 子ども版こまき健康いきいきポイント事業

ア 目 的

子ども：生活習慣が不規則になりがちな夏休みに、本事業を通し、親子で楽しみながら健康づくりに取り組むことで、健やかな身体と心を育み、理想的な生活習慣の基盤をつくる。

保護者：健康づくりに時間を取りづらい子育て世代が、本事業を通し、子どもと一緒に楽しみながら健康づくりに取り組むことで、自分自身の健康について振り返り、生活習慣の改善を図る。

イ 対 象 市内小学校の小学生及びその保護者

ウ あいち健康づくり応援カード「まいか」交換及び記念品贈呈者数 230 人

15 ウォーキングアプリ「alko」

(1) 目 的

誰もが元気でいきいきと暮らすことができる市民総活躍社会を目指し、健康づくりに時間を取りづらい働く世代の方でも「歩く」ことを通し、手軽に健康づくりができる習慣を身に付けることができるよう、市独自のウォーキングアプリを開発・配信し、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

(2) 事業概要

- ・期間限定のチャレンジを達成してポイントをためたり、1日5,000歩で獲得できるポイントをため、地域限定商品券に交換できる。
- ・獲得ポイントに応じて期間限定で alko カードを獲得でき、これを市内の alko 応援協力店等で提示することで優待を受けることができる。
- ・期間限定のチャレンジを達成することで記念品を獲得することができる。

(3) 対 象

スマートフォン用アプリ「alko」ダウンロード者

地域限定商品券：18歳以上の市民及び市外在住市内在勤者

(4) チャレンジ結果

チャレンジ名	種別	開催日	参加者数	達成者数	達成率
誰かと一緒にチャレンジ	個人	5/3～5/7	3,261	2,058	63%
文化・芸術力向上チャレンジ	個人	6/24～6/28	3,131	2,060	66%
献血推進チャレンジ	個人	7/15～7/17	2,834	1,755	62%
国保住建チャレンジ	個人	7/28～8/1	3,263	2,131	65%
マクドナルドチャレンジ	個人	8/19～8/23	3,794	2,242	59%
下水道の日チャレンジ	個人	9/10～9/14	3,318	2,087	63%
身体と地域の健康力向上チャレンジ	個人	10/11～10/20	3,437	2,380	69%
あいち県民の日チャレンジ	個人	11/21～11/27	4,018	2,795	70%
小牧・長久手の戦いチャレンジ	VRW	12/11～12/31	3,673	1,825	50%

文化・芸術力向上チャレンジ2	個人	2/9～2/13	2,926	1,791	61%
火の用心チャレンジ	個人	3/1～3/7	3,019	1,861	62%

(5) alko カード獲得者数

配信回数 (期間)	第 1 回 (8 月 1 日～31 日)	第 2 回 (11 月 1 日～30 日)	第 3 回 (1 月 1 日～31 日)
獲得者数	4,918 人	4,816 人	4,531 人

(6) 地域限定商品券交換者数

対象者		交換者数
市民	1,000P	1,023 人
	2,000P	2,235 人
市外在住市内在勤者	1,000P	97 人

16 国民健康保険加入者における糖尿病性腎症重症化予防事業

(1) 医療未受診者における受診勧奨

ア 目 的

糖尿病および糖尿病性腎症の疑いがあるものの、未受診および外部委託による電話受診勧奨ができていないものに対して、保健師がその人の生活背景や信条を含めた包括的な情報収集およびアセスメントを行い、受診勧奨や生活指導を行うことで、対象者が今後も健康な生活を営むことが出来る。

イ 対 象 者

特定健診で下記の基準に該当し、かつ糖尿病および糖尿病性腎症の治療がない者・治療を中断した者のうち、昨年度の保険医療課における電話受診勧奨において連絡が取れない者

●血 糖 HbA1c6.5%以上、または、空腹時血糖 126 mg/dℓ以上

●腎機能 尿たんぱく＋以上、または e-GFR 60ml/分/1.73 m²未満

ウ 内 容

(ア)保険医療課より対象者にアンケート送付

(イ)アンケートの結果をもとに、地区担当保健師が対象者へ架電し受診勧奨を行う

(ウ)電話がつかない場合は訪問し、受診勧奨を行う

エ 実施結果

対象者数 2名

実施結果

アンケート返信数	
電話における受診勧奨または生活指導	1 名
訪問における受診勧奨または生活指導	1 名 (本人には会えず家族への指導)

※重複者有り

第6 予防接種事業及び結核予防事業

第 6 予防接種事業及び結核予防事業

1 予防接種事業

(参考)

種 別	期 別	対象者数	接種者数	接種率	R4 年度 接種率	接種対象者
		人	人	%		
不活化ポリオ	第1回		0			生後2か月以上7歳半未満
	第2回		0			
	第3回		0			
	追加		0			
日本脳炎	第1期1回	1,213	947	78.1	87.4	3歳以上7歳半未満経過措置を含む
	第1期2回	1,257	928	73.8	80.5	
	第1期追加	1,575	1,013	64.3	71.1	
	第2期	2,212	1,474	66.6	75.9	9歳以上13歳未満経過措置を含む
四種混合	第1期1回	933	983	105.4	96.6	生後2か月以上7歳半未満
	第1期2回	1,065	1,017	95.5	83.0	
	第1期3回	1,065	1,019	95.7	81.5	
	追加	1,116	895	80.2	77.8	
二種混合	第2期	1,357	988	72.8	67.9	11歳以上13歳未満
麻しん風しん混合	第1期	965	915	94.8	95.9	1歳以上2歳未満
	第2期	1,169	1,053	90.1	90.2	小学校入学前の1年間(年長児の間)
ヒブ	第1回	933	878	94.1	98.7	生後2か月以上5歳未満
	第2回	1,007	901	89.5	89.8	
	第3回	1,007	911	90.5	88.9	
	追加	991	896	90.4	92.6	
小児用肺炎球菌	第1回	932	881	94.5	99.1	生後2か月以上5歳未満
	第2回	1,007	902	89.6	89.8	
	第3回	1,007	914	90.8	88.8	
	追加	988	898	90.9	93.0	
B型肝炎	第1回	933	875	93.8	98.6	生後1歳未満
	第2回	933	900	96.5	97.2	
	第3回	933	875	93.8	99.6	
2価・4価HPVワクチン	第1回		69			小学校6年生から高校1年生に相当する 年齢 (実績にはH9. 4. 2～H19. 4. 1生のキ ャッチアップ接種者も含む)
	第2回		168			
	第3回		346			
9価HPVワクチン	第1回		816			小学校6年生から高校1年生に相当する 年齢 (実績にはH9. 4. 2～H19. 4. 1生のキ ャッチアップ接種者も含む)
	第2回		533			
	第3回		285			
水痘	第1回	984	944	95.9	94.6	1歳以上3歳未満
	第2回	1,029	885	86.0	80.7	
ロタ(1価)	第1回	463	450	97.2	106.2	生後6週から24週まで
	第2回	463	469	101.3	104.0	
ロタ(5価)	第1回	463	412	89.0	90.4	生後6週から32週まで
	第2回	463	412	89.0	89.0	
	第3回	463	409	88.3	88.1	
インフルエンザ		38,133	21,138	55.4	61.7	65 歳以上(60 から 64 歳で医師が必要と 認めた方を含む)
高齢者 肺炎球菌ワクチン		3,810	969	25.4	24.4	65、70、75、80、85、90、95、100 歳(60 から 64 歳で医師が必要と認めた方を含む)

- ※ 日本脳炎：H23～積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した者への接種機会の確保（H7.4.2生からH19.4.1生）
- ※ HPV(子宮頸がん予防)ワクチン：H25.6.14より積極的な勧奨の差し控えをしていたが、R4年度より勧奨再開
それに伴い、R4～6年度の3年間キャッチアップ接種事業を実施（勧奨が差し控えられていたH9年度～H17年度生まれを対象に開始、令和5年度はH18年度生まれも対象）
- ※ 日本脳炎（第2期）高3の学年の未接種者に対し個別勧奨
- ※ B型肝炎ワクチン：H28.10.1より定期接種・ロタウイルスワクチン：R2.10.1より定期接種
- ※ R3年度日脳ワクチンの供給量が大幅に減少したため、厚生労働省の指示で接種時期を遅らせる対応が全国的に行われました。

2 結核予防事業

- (1)乳幼児 BCG 接種状況
- ※平成25年4月により対象年齢1歳未満
 - ※病気により1歳までに接種出来なかった児を含む
 - ※令和4年4月1日より個別接種開始

対象者 (a)	5か月未満	5か月以上 1歳未満	長期療養1歳 以上4歳未満	接種者合計 (b)	接種率 (%) (b/a)×100	(参考) R4年度 接種率
926	3	912	0	915	98.8	103.4

(2)コッホ現象事例報告

報告数	5か月未満	5～8か月	8か月以降	ツベルクリン 実施	T-Spot	胸部X-P	判定
3件	0件	3件	0件	陰性 1件	陰性 1件	異常なし 1件	非特異反応 1件
				陽性 2件	陰性 1件	異常なし 1件	結核感染 潜在性結核感染症治療 1件
					判定保留 他医療機関紹介（↓結果）		
					陰性 1件	異常なし 1件	非特異反応 1件

(3)結核定期健康診断

65歳以上の方に対し、胸部X線間接撮影検診を実施。
（第5の6参照）

3 愛知県広域予防接種 A類疾病（再掲）

	二種混合	四種混合	ポリオ	MR 1 期	MR 2 期	日本脳炎	B型肝炎
件数	11	129	0	24	23	69	91

ロタ	ヒブ	肺炎球菌	HPV	水痘	B C G	インフルエンザ	高齢者肺炎球菌
57	119	120	33	48	30	1,398	7

4 指定医療機関外定期予防接種（再掲）

	二種混合	四種混合	ポリオ	MR 1 期	MR 2 期	日本脳炎	B型肝炎
補助金交付数	0	31	0	1	0	1	20

ロタ	ヒブ	肺炎球菌	HPV	水痘	B C G	インフルエンザ	高齢者肺炎球菌
23	28	28	4	1	6	59	0

5 定期外予防接種

麻しん風しん混合（MR）			
1 期	10 人	2 期	12 人

6 おたふくかぜワクチン予防接種費用助成事業

1 歳～就学前（全額無料 ただし上限あり）

被接種者数
1,025 人

7 風しんワクチン予防接種費用助成事業

予防接種の種類 風しんワクチン、又は麻しん風しんワクチン（MR）

（全額無料ただし上限あり）

対象者	風しん抗体検査の結果、風しんワクチンの接種が必要と判断されたもののうち、下記の要件を満たす男性及び女性	助成件数
女 性	妊娠を予定又は妊娠を希望している女性	131 件
男 性	妊娠を予定又は妊娠を希望している女性と婚姻関係のある（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）男性	7 件
	妊娠中の女性と婚姻関係のある（事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む）男性	1 件

（計） 139 件

8 予防接種特別再接種費用助成事業

骨髄移植手術等により、定期予防接種で得た免疫が消失したお子様に対し再接種費用を助成。

再接種時の年齢が結核（ＢＣＧ）は４歳、小児用肺炎球菌は６歳、ヒブ感染症は１０歳、四種混合は１５歳、その他は２０歳に達するまで。

四種混合	日本脳炎	水痘	MR
2	2	1	1

9 風しん対策事業（大人の男性の第5期）

（R3年度で終了予定だったが、R6度まで3年間延長）

公的なワクチン接種を受ける機会がなかった昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生の男性が対象。風しん抗体検査の結果、予防接種が必要と判断された場合に予防接種を実施

抗体検査受検者数	被接種者数
212 人	33 人

10 子宮頸がんワクチン任意接種補助金交付事業

対象	交付実績
H P Vワクチンの積極的勧奨の差控えにより公費で接種できる定期接種の期間を過ぎた方で、17歳となる日の属する年度の初日から令和4年3月31日までにH P Vワクチン（2価・4価）を自費で接種した方	0 人

11 小牧市帯状疱疹予防接種費用の助成事業

経済的負担を軽減し健康の保持と増進を図ることを目的とし50歳以上の市民を対象に帯状疱疹ワクチンの接種に要する費用の一部を助成

乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」	シングリックス筋注用
443 件	2,931 件

第7 母子保健事業

第 7 母 子 保 健 事 業

育児に対する不安が強く、育児に不慣れな保護者が多くなってきた現状において、保護者との信頼関係をもつことがその後の支援にとっても重要になってくる。そのために保護者との出会いの場を大切に信頼関係が築けるようにしている。

また、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない子育て支援の拠点として、子育て世代包括支援センターが平成30年9月に開設され、子育てに関するあらゆる相談に応じ関係機関が連携し、親子を支援している。

- (1) 親子が地域の中で成長でき、また、みんなで親子をささえることができる地域づくりに向け、同じ地域に住む健康ボランティアである保健連絡員とそのOBによる赤ちゃんの全戸訪問を行い、親子の成長を見守り地域で子育てを支えていけるようにする。
- (2) 母子健康手帳の名称を親子健康手帳とし、父親、母親の2人で子育てできるようにし、妊婦との最初の出会である親子健康手帳（母子健康手帳）交付時においてアンケートをもとに母親の相談に応じ、関係づくりを心がけている。
- (3) ほんの些細な疑問でも相談できることを伝え、育児の孤立化を防ぐ。
- (4) 妊娠中の食生活は、母体の健康維持や胎児の成長に影響を及ぼすことを伝え、母子ともに健康に出産できるよう援助する。
- (5) 妊娠中よりお口の健康に関して注意ができるよう援助する。また、子どもの健診の機会をとらえ、母親の歯科健診を実施している。
- (6) 乳幼児健診での保護者との出会いを大切にし、信頼関係を築き、育児に関する問題に対して援助する。この実現に向けて健診体制を検討し工夫した。また乳幼児健診にてすべての子どもの発育発達を保護者と共に確認する。
- (7) なんらかの障がいのある子に対して、保護者が安心して子育てができるよう支援する。
- (8) 「生と性」に関して親・子・地域に周知し、いのちを大切にし、今あるがままの自分自身が価値ある自分であることを認め（自己肯定感）、いきいきと生きる力を高めることができるよう支援する。

1 母子保健事業一覧

《保健センター》

不妊治療等助成事業・不育症治療等助成事業

保健連絡員・保健連絡員OB
による赤ちゃん訪問

4か月児健康診査

母親歯科健診

離乳食教室

1歳6か月児健康診査・
歯科健康診査・フッ化物塗布

2歳3か月児歯科健康診査・
フッ化物塗布・育児相談

3歳児健康診査・
歯科健康診査・フッ化物塗布

歯みがき教室
(対象：保育園・幼稚園
こども園・小学4年生)

小牧市中学生ピロリ菌検査
(対象：中学2年生)

母子保健推進協議会

- ・生と性のカリキュラム
- ・発達障がいを持つ子どもとその親の支援のあり方部会

すくすく広場

運動発達相談

臨床心理士による相談

なかよし教室

おひさまサロン

連携

《子育て世代包括支援センター》

予期せぬ妊娠相談（こまき妊娠SOS）

流産・死産の相談

低所得の妊婦に対する初回産科受診料支援事業

妊娠の届出
親子健康手帳の交付（個別交付）

※保健師・助産師による交付

※支援方針の判定

※個別支援計画の作成／見直し

妊婦個別健康診査(14回)
※多胎妊婦に対し公費妊婦健康診査5回追加)

妊婦個別歯科健康診査(1回)

妊娠8か月時アンケート

産婦個別健康診査(2回)

新生児聴覚検査・乳児個別健康診査(2回)

新生児電話相談

未熟児訪問

新生児乳児訪問

母乳相談

産後ケア事業

1stアニバーサリー事業

児童館巡回育児相談

利用者支援事業（母子保健型）（対面・電話相談・オンライン相談・訪問）

個別支援（面接・訪問）こまねっと（電話相談）

にこにこむし歯予防相談

2 親子健康手帳（母子健康手帳）交付

(1) 目 的

ア 親子健康手帳（母子健康手帳）交付の機会をとらえ、父親母親との関係を築き、産前産後不安がある時、一人で悩まずに問題解決に向かって行動できる親に成長できるように支援する。

イ 小牧市独自の親子健康手帳（母子健康手帳）を活用することで、父親母親としての意識を高め「二人で子育て」ができるよう支援する。また、二人で作り上げた親子健康手帳（母子健康手帳）により、子どもが「愛され成長してきたこと」を実感し、「命の大切さ、尊さ」を学ぶために、活用してもらえるように働きかける。

ウ 母乳育児の推進に向け支援する。

(2) 交付場所

子育て世代包括支援センター

(3) 交付方法

アンケートを記入してもらい、保健師・助産師による面接・相談を実施する。

(4) 発行数

親子健康手帳（母子健康手帳）発行数（多胎児、再交付含む） 1,054人

	妊娠 届出数	妊娠週数					年齢		就業者数	飲酒者数
		11週 以内	12～ 19週	20～ 27週	28週 以上	不詳	20歳 未満	40歳 以上		
実数 (人)	983	933	39	8	3	0	9	38	732	5
率 (%)	100.0	94.9	4.0	0.8	0.3	0	0.9	3.9	74.5	0.5

(5) 外国語母子健康手帳総発行数 [うち（ ）内は再発行分] (人)

ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	英語	中国語	ハングル語	インドネシア語	タイ語	ネパール語	ベトナム語	計
25 (8)	8 (9)	1 (0)	32 (5)	4 (0)	0 (1)	2 (3)	1 (0)	0 (9)	120 (13)	193 (48)

(6) 親子健康手帳交付時アンケート結果 (アンケート回答 1,070 人) (人)

第一子	520	今まで赤ちゃんを抱っこした経験あり	462	育児の相談者なし	2
				育児の協力者なし	2
				育児の相談・協力者両方なし	0
				育児の相談・協力者両方あり	458
		今まで赤ちゃんを抱っこした経験なし	57	育児の相談者なし	0
				育児の協力者なし	1
				育児の相談・協力者両方なし	0
				育児の相談・協力者両方あり	56
		未 記 入	1		
第二子以降	550			育児の相談者なし	2
				育児の協力者なし	1
				育児の相談・協力者両方なし	2
				育児の相談・協力者両方あり	544
				未 記 入	1

3 妊婦・産婦・乳児個別健康診査

(1) 目 的

妊婦・産婦・乳児の健康保持・増進及び異常の早期発見・早期治療を図ることを目的とする。

(2) 妊婦健康診査実施延人数、妊婦健康診査結果

[医療機関委託分、() 内は県外医療機関・助産所での受診分、R5.4～R6.3]
(人)

	受診票交付数	受診 延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
第1回	986	911	(6)	828	(5)	83	(1)
第2回	1,010	851	(9)	814	(9)	37	(0)
第3回	1,019	846	(15)	805	(14)	41	(1)
第4回	1,026	887	(6)	846	(6)	41	(0)
第5回	1,046	872	(20)	819	(19)	53	(1)
第6回	1,048	828	(15)	772	(14)	56	(1)
第7回	1,055	808	(19)	753	(19)	55	(0)
第8回	1,050	836	(17)	522	(14)	314	(3)
第9回	1,061	761	(45)	706	(43)	55	(2)
第10回	1,064	786	(54)	675	(52)	111	(2)
第11回	1,065	671	(52)	620	(49)	51	(3)
第12回	1,068	732	(56)	482	(47)	250	(9)
第13回	1,070	506	(46)	486	(42)	20	(4)
第14回	1,070	334	(34)	329	(32)	5	(2)
第15回	9	0	(0)	0	(0)	0	(0)
第16回	9	0	(0)	0	(0)	0	(0)
第17回	9	0	(0)	0	(0)	0	(0)
第18回	9	0	(0)	0	(0)	0	(0)
第19回	9	0	(0)	0	(0)	0	(0)
子宮がん検診	989	877	(6)	847	(6)	30	(0)
計	15,672	11,506	(400)	10,304	(371)	1,202	(29)

※ R3.4～ 多胎妊婦に対して、妊婦健康検査受診票 5 回追加交付（第15～19回）

(3) 産婦健康診査実施延人数、産婦健康診査結果

[医療機関委託分、()内は県外医療機関での受診分、R5.4～R6.3] (人)

	受診票 交付数	受診 延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
第1回	1,075	821	(59)	714	(57)	107	(2)
第2回	1,078	661	(41)	629	(40)	32	(1)
計	2,153	1,482	(100)	1,343	(97)	139	(3)

(再掲) 産婦健康診査エジンバラ産後うつ病質問票 (EPDS) 結果 (人)

	① 合計9点 以上		② 自殺念慮・ 自殺企図 1点以上		①かつ②		実施なし	
第1回	66	(3)	8	(0)	18	(1)	25	(1)
第2回	16	(0)	4	(2)	10	(2)	2	(0)
計	82	(3)	12	(2)	28	(3)	27	(1)

(4) 新生児聴覚検査実施延人数、新生児聴覚検査結果

[医療機関委託分、()内は県外医療機関での受診分、R5.4～R6.3] (人)

	受診票 交付数	受診 延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
新生児聴覚検査	1,084	766	(60)	760	(60)	6	(0)

(5) 乳児健康診査実施延人数、乳児健康診査結果

[医療機関委託分、()内は県外医療機関での受診分、R5.4～R6.3] (人)

	受診票 交付数	受診 延人数		受診結果			
				異常なし		異常あり	
第1回	1,088	821	(46)	774	(39)	47	(7)
第2回	1,161	666	(0)	633	(0)	33	(0)
計	2,249	1,487	(46)	1,407	(39)	80	(7)

4 健康診査事業

(1) 4か月児健康診査

ア 目 的

育児不安を解消し、今後保健センターが親の相談機関としての位置づけを確立していく。

また、全身の健康状態、発育、発達、栄養、保育環境等の確認により、疾病や障がいの早期発見、適切な早期治療、療育を受けることができるように援助していく。

イ 対 象

市内在住の4か月児

ウ 実施回数

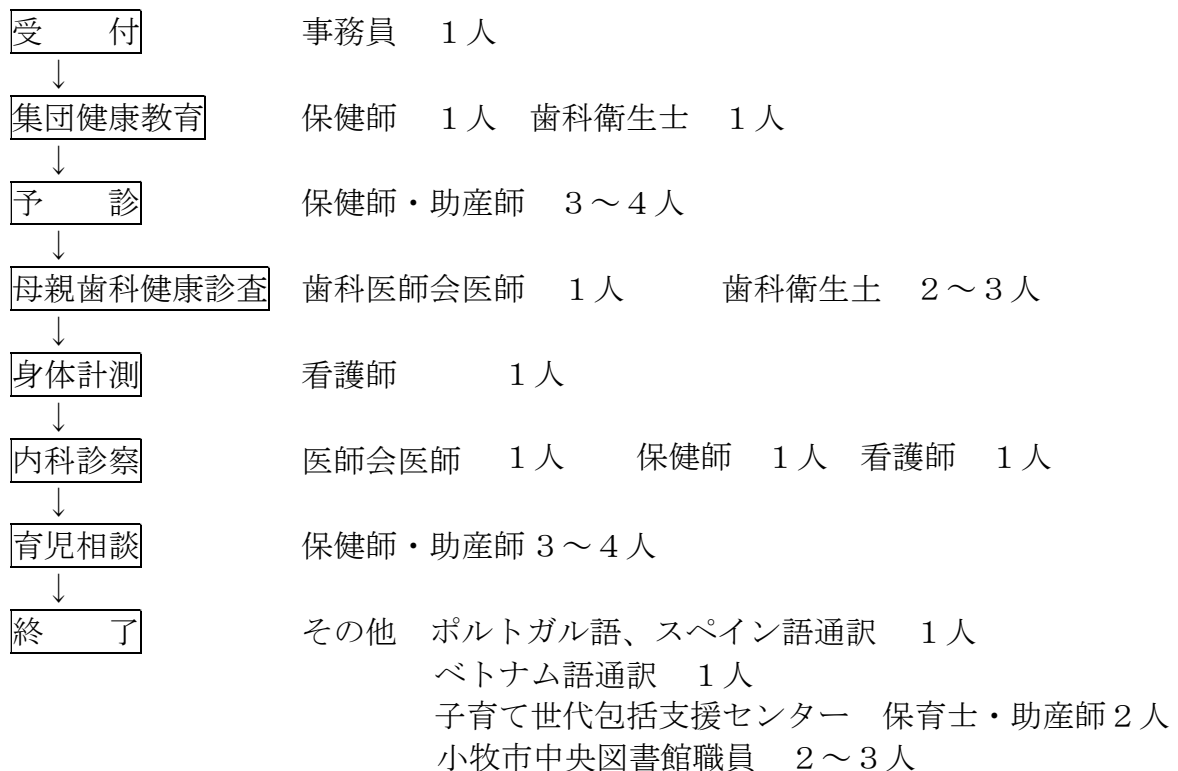
年44回

エ 周知方法

個人通知及び広報

オ 実施内容

内科診察、身体計測、集団健康教育、育児相談、母親歯科健康診査



カ 医科診察受診状況及び結果

(人)

管理区分		受診数	男	女	計
対象者数			480	444	924
受診者数			469	428	897
問題なし	D		186	149	335
疾病分類	要指導	C	187	147	334
	要観察	B	34	37	71
	要精検 要医療	要精検(A 1)	110	108	218
		要医療(A 2)	0	0	0
		要継続医療(A 3)	0	0	0
	計 (実人数)		331 (224)	292 (209)	623 (433)
保育・ 家庭環境	要指導	C	41	52	93
	要観察	B	85	77	162
	要措置	A	0	0	0
	計 (実人数)		126 (117)	129 (119)	255 (236)

※ 対象者は、問診票抽出時の人数に加えて、問診票抽出後の転入者 29名と令和4年度健診対象者で令和5年度健診受診者18名を計上しています。

キ 栄養について

(%)

年度	母 乳		混 合		人 工	
	1 か月	4 か月	1 か月	4 か月	1 か月	4 か月
R 1	47.4	54.3	47.3	28.2	5.3	17.6
R 2	45.2	51.3	47.8	29.1	7.1	19.6
R 3	38.7	45.1	52.2	31.3	8.9	23.6
R 4	35.1	41.5	55.3	30.8	9.6	27.7
R 5	31.8	34.3	57.5	31.8	10.5	31.8

ク 一般診察健康診査疾病・保育・家庭環境分類別結果

(人)

疾 病 分 類		要指導 C		要観察 B		要精検 A 1		要医療 A 2		要継続医療 A 3		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1 栄養・発育	体重増加不良	10	16	4	12	25	18	0	0	0	0	39	46	85
	肥満	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	低身長	10	4	0	0	14	8	0	0	0	0	24	12	36
2 精神発達障害 ・機能障害	精神発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	言語発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 神経・運動機能障害	頭囲・大泉門異常等	5	3	1	2	4	1	0	0	0	0	10	6	16
	運動発達異常・感覚器異常	6	3	0	0	24	17	0	0	0	0	30	20	50
	筋緊張異常	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	けいれん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	3	2	5
4 皮膚疾患	湿疹・アトピー性皮膚炎	51	25	0	0	1	0	0	0	0	0	52	25	77
	その他	12	24	0	0	1	0	0	0	0	0	13	24	37
5 骨・関節疾患	開排制限	3	16	0	6	27	59	0	0	0	0	30	81	111
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6 循環器疾患		3	3	0	2	3	0	0	0	0	0	6	5	11
7 呼吸器疾患		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 消化器疾患	ヘルニア	7	6	0	0	0	1	0	0	0	0	7	7	14
	その他	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5	2	7
9 泌尿器・腎疾患		21	1	2	0	3	0	0	0	0	0	26	1	27
10 眼科疾患	視力障害・斜視(疑)	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	5
	その他	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
	検査未実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 耳鼻咽喉科疾患	聴覚障害(疑)	28	20	9	7	1	1	0	0	0	0	38	28	66
	その他	4	2	2	2	2	1	0	0	0	0	8	5	13
	検査未実施	1	1	3	0	0	1	0	0	0	0	4	2	6
12 その他	染色体異常	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	3
	先天性代謝異常	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	その他	15	17	9	2	1	0	0	0	0	0	25	19	44
合 計		187	147	34	37	110	108	0	0	0	0	331	292	623

(人)

保 育 ・ 家 庭 環 境 分 類		要指導 C		要観察 B		要精検 A 1		要医療 A 2		要継続医療 A 3		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1 家庭環境	養育姿勢	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	育児能力	14	19	67	48	0	0	0	0	0	0	81	67	148
	家庭環境	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 生活習慣	睡眠	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	排泄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	あそび・友達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 食習慣	哺乳	19	24	16	21	0	0	0	0	0	0	35	45	80
	離乳	4	3	2	7	0	0	0	0	0	0	6	10	16
	偏食・少食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食事・おやつ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 その他	習癖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	情緒・行動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	その他	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
合 計		41	52	85	77	0	0	0	0	0	0	126	129	255

(2) 1歳6か月児健康診査

ア 目 的

親と子のかかわりの一番大切な時期をとらえ、今後も親子が心身ともに健康な生活を送ることができるよう援助する。また、軽度の障がいを発見しやすいこの時期に、見逃さずに適切な援助をしていく。

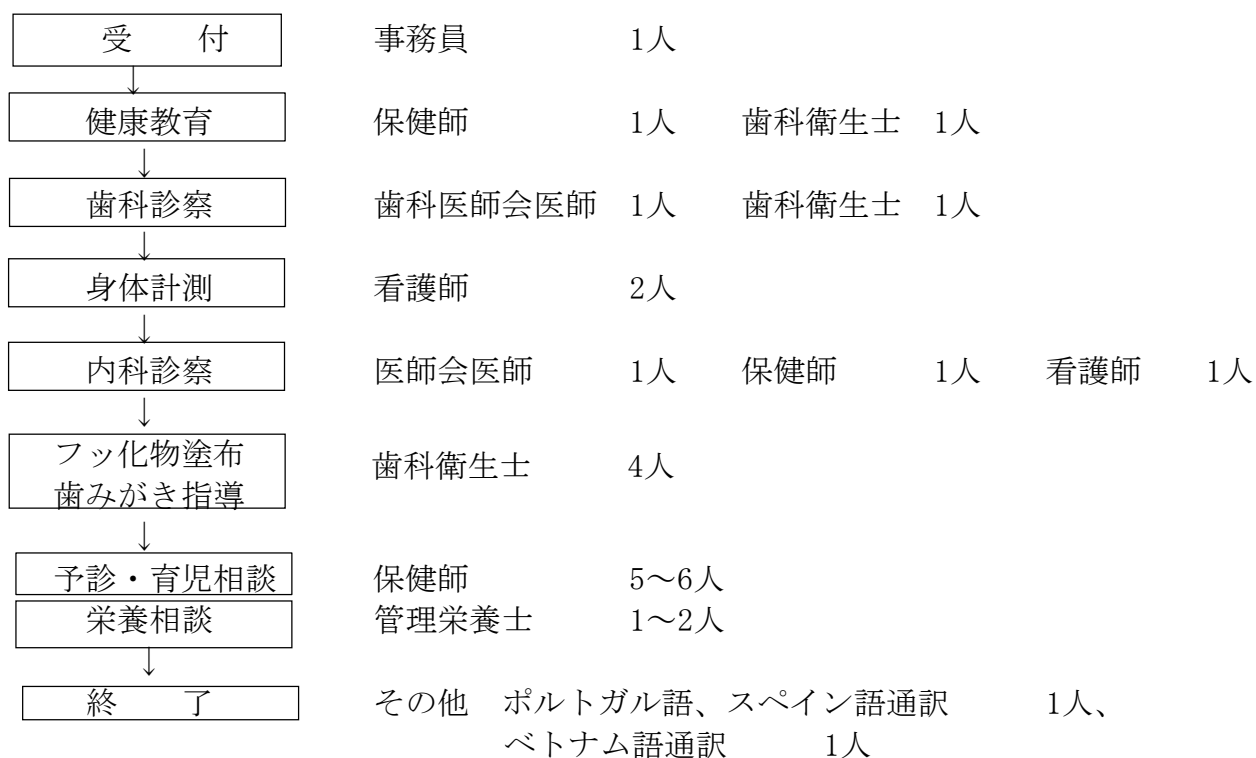
イ 対 象 市内在住の1歳6か月児

ウ 実施回数 年36回

エ 周知方法 個人通知及び広報

オ 実施内容

内科診察、歯科診察、身体計測、健康教育、成長の確認、育児相談、歯科相談、フッ化物塗布、歯みがき指導



カ 医科診察受診状況及び結果

(人)

管理区分		受診数	男	女	計
対象者数			501	491	992
受診者数			487	465	952
問題なし		D	88	152	240
疾病分類	要指導	C	92	89	181
	要観察	B	346	216	562
	要精検 要医療	要精検(A 1)	54	51	105
		要医療(A 2)	0	0	0
		要継続医療(A 3)	0	0	0
	計 (実人数)		492 (378)	356 (276)	848 (654)
家庭環境・ 保育	要指導	C	31	63	94
	要観察	B	40	31	71
	要措置	A	0	0	0
	計 (実人数)		71 (69)	94 (86)	165 (155)

※ 対象者は、問診票抽出時の人数に加えて、問診票抽出後の転入者 10名と令和4年度健診対象者で令和5年度健診受診者 23名を計上しています。

キ 一般診察健康診査疾病・保育・家庭環境分類別結果

(人)

疾 病 分 類		要指導 C		要観察 B		要精検 A 1		要医療 A 2		要継続医 療 A 3		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1 栄養・発育	体重増加不良	14	11	0	0	15	15	0	0	0	0	29	26	55
	肥満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	低身長	8	11	0	0	10	19	0	0	0	0	18	30	48
2 精神発達障害 ・機能障害	精神発達	20	25	282	181	1	0	0	0	0	0	303	206	509
	言語発達	2	3	41	29	0	0	0	0	0	0	43	32	75
	その他	2	3	1	1	0	0	0	0	0	0	3	4	7
3 神経・運動機能障害	頭囲・大泉門異常等	2	5	1	0	9	4	0	0	0	0	12	9	21
	運動発達異常・感覚器異常	11	7	16	3	12	11	0	0	0	0	39	21	60
	筋緊張異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	けいれん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
4 皮膚疾患	湿疹・アトピー性皮膚炎	5	5	0	0	1	0	0	0	0	0	6	5	11
	その他	4	3	0	1	1	0	0	0	0	0	5	4	9
5 骨・関節疾患	開排制限	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0	4	2	6
6 循環器疾患		3	3	0	0	1	1	0	0	0	0	4	4	8
7 呼吸器疾患		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
8 消化器疾患	ヘルニア	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 泌尿器・腎疾患		7	0	0	0	4	1	0	0	0	0	11	1	12
10 眼科疾患	視力障害・斜視(疑)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	検査未実施	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
11 耳鼻咽喉科疾患	聴覚障害(疑)	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	その他	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6
	検査未実施	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12 その他	染色体異常	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	先天性代謝異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	6
合 計		92	89	346	216	54	51	0	0	0	0	492	356	848

(人)

保 育 ・ 家 庭 環 境 分 類		要指導 C		要観察 B		要精検 A 1		要医療 A 2		要継続医 療 A 3		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1 家庭環境	養育姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	育児能力	4	10	28	21	0	0	0	0	0	0	32	31	63
	家庭環境	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	3	2	5
	環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 生活習慣	睡眠	1	0	2	4	0	0	0	0	0	0	3	4	7
	排泄	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	あそび・友達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 食習慣	哺乳	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	離乳	2	11	1	0	0	0	0	0	0	0	3	11	14
	偏食・少食	9	19	3	3	0	0	0	0	0	0	12	22	34
	食事・おやつ	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
4 その他	習癖	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
	情緒・行動	5	12	1	0	0	0	0	0	0	0	6	12	18
	その他	4	8	1	1	0	0	0	0	0	0	5	9	14
合 計		31	63	40	31	0	0	0	0	0	0	71	94	165

(3) 3歳児健康診査

ア 目 的

発達が著しく心も体も転換期を迎えて、人間としての基本が培われる時期をとらえ、成長を親と確認し、心身ともに健康な生活を送ることができるよう援助する。

また、疾病を早期に発見し、適切な治療をうけることができるよう援助する。

イ 対 象

市内在住の3歳児

ウ 実施回数

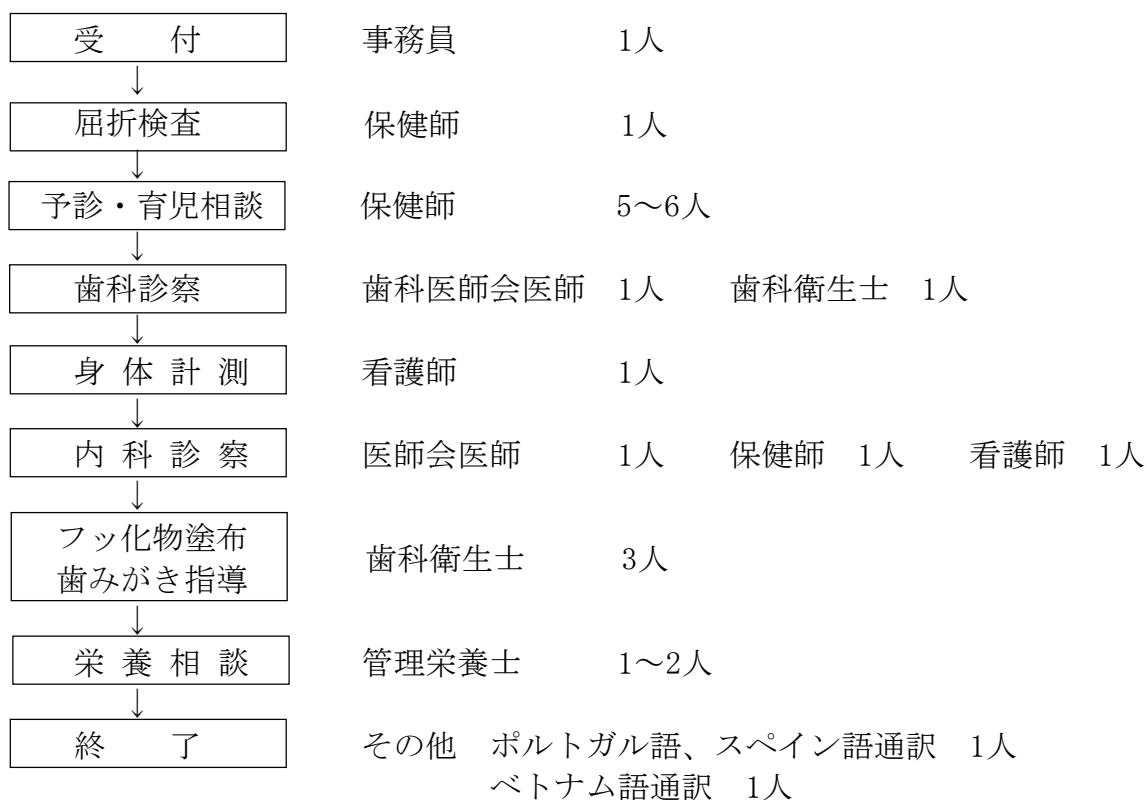
年36回

エ 周知方法

個人通知及び広報

オ 実施内容

内科診察、歯科診察、身体計測、成長の確認、育児相談、栄養相談、歯科相談、フッ化物塗布、尿検査、屈折検査（スポットビジョンスクリーナー）



カ 医科診察受診状況及び結果 (人)

管理区分		受診数	男	女	計
対象者数			547	481	1028
受診者数			528	466	994
問題なし		D	62	73	135
疾病分類	要指導	C	445	394	839
	要観察	B	246	130	376
	要精検 要医療	要精検(A 1)	304	182	486
		要医療(A 2)	0	0	0
		要継続医療(A 3)	0	0	0
	計 (実人数)		995 (449)	706 (366)	1701 (815)
家庭環境・ 保育	要指導	C	43	76	119
	要観察	B	26	10	36
	要措置	A	0	0	0
	計 (実人数)		69 (63)	86 (83)	155 (146)

※ 対象者は、問診票抽出時の人数に加えて、問診票抽出後の転入者36名と令和4年度健診対象者で令和5年度健診受診者29名を計上しています。

キ 一般診察健康診査疾病・保育・家庭環境分類別結果

(人)

疾 病 分 類		要指導 C		要観察 B		要精検 A 1		要医療 A 2		要継続医療 A 3		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1 栄養・発育	体重増加不良	15	10	0	0	21	12	0	0	0	0	36	22	58
	肥満	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	低身長	18	19	0	0	25	26	0	0	0	0	43	45	88
2 精神発達障害 ・機能障害	精神発達	43	32	220	112	1	0	0	0	0	0	264	144	408
	言語発達	9	1	13	6	0	0	0	0	0	0	22	7	29
	その他	10	8	6	5	0	0	0	0	0	0	16	13	29
3 神経・運動機能障害	頭囲・大泉門異常等	10	4	0	0	7	3	0	0	0	0	17	7	24
	運動発達異常・感覚器異常	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	筋緊張異常	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	けいれん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 皮膚疾患	湿疹・アトピー性皮膚炎	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	3	9
	その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5 骨・関節疾患	開排制限	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2
6 循環器疾患		0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	2	3	5
7 呼吸器疾患		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 消化器疾患	ヘルニア	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2
	その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
9 泌尿器・腎疾患		119	142	1	0	4	0	0	0	0	0	124	142	266
10 眼科疾患	視力障害・斜視(疑)	6	7	0	1	142	94	0	0	0	0	148	102	250
	その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	検査未実施	142	118	1	1	1	0	0	0	0	0	144	119	263
11 耳鼻咽喉科疾患	聴覚障害(疑)	4	1	1	0	98	44	0	0	0	0	103	45	148
	その他	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	4
	検査未実施	58	39	0	1	0	1	0	0	0	0	58	41	99
12 その他	染色体異常	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	3	2	5
	先天性代謝異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		445	394	246	130	304	182	0	0	0	0	995	706	1701

(人)

保 育 ・ 家 庭 環 境 分 類		要指導 C		要観察 B		要精検 A 1		要医療 A 2		要継続医療 A 3		合 計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
1 家庭環境	養育姿勢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	育児能力	10	15	22	8	0	0	0	0	0	0	32	23	55
	家庭環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 生活習慣	睡眠	3	8	3	1	0	0	0	0	0	0	6	9	15
	排泄	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	あそび・友達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 食習慣	哺乳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	離乳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	偏食・少食	9	15	1	0	0	0	0	0	0	0	10	15	25
	食事・おやつ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
4 その他	習癖	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	情緒・行動	17	32	0	1	0	0	0	0	0	0	17	33	50
	その他	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	7
合 計		43	76	26	10	0	0	0	0	0	0	69	86	155

(4) 乳幼児健診未受診者支援事業

ア 経緯

近年全国的に、乳幼児健診や小学校・中学校入学をきっかけとして児の所在を把握し、その後担当課だけではなく横断的に状況を把握したうえで、必要に応じてその後の支援につなぐ重要性がいられている。

小牧市保健センターでも、平成24年10月から、家庭における育児力を高めるために必要な支援のひとつとして、乳幼児健診未受診者の支援体制を整備し、健診受診率の向上及び未受診者の支援に力を注いでいる。

イ 事業目的

乳幼児健診未受診者の保護者に対して受診勧奨を行い、未把握者を無くし健診受診率の向上に努める。その過程において、子どもの成長発達を確認し支援するとともに、保護者との関わりを深め信頼関係を築くことで、保護者が育児をする上で抱えている不安や問題の有無を把握して支援し、親子の健全な生活を保障していく。

ウ 未受診者抽出時期及び抽出対象者、支援対象者

(ア) 4か月児健診・1歳6か月児健診・3歳児健診未受診者

対象となる健診日から1回後の健診日までに受診しない者。

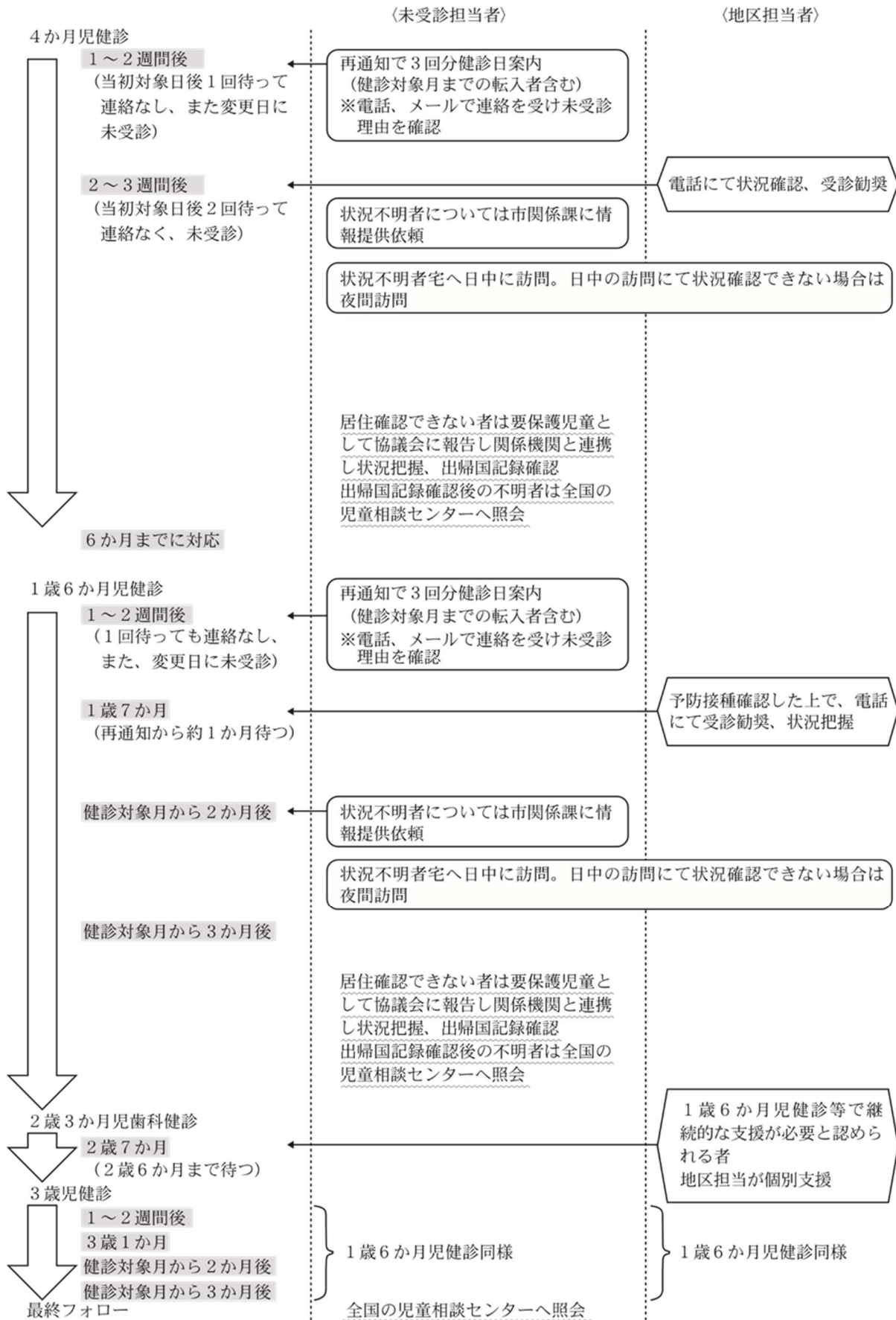
※ 受診日変更者、他機関受診、転出、海外在住等何らかの理由があつて保護者から連絡がきている者についても、その時点では抽出対象とする。しかし、受診日変更者の中で予定通り受診した者は、その後の支援対象者から除く。

※ 転入者については、「健診対象者名簿」出力後から健診対象月の末日までを未受診者としての抽出対象とする。

(イ) 2歳3か月児歯科健診未受診者

2歳6か月の健診日までに保護者からの連絡が無い未受診者の中で、1歳6か月児健診等で継続支援が必要と認められる者。

エ 乳幼児健診未受診者支援体制



オ 乳幼児健診未受診者支援結果

(ア) 未受診者支援における健診対象者

※健診対象者名簿出力後から健診対象月までに転入した者、及びその後の転入者で転入前の市町村において健診を受けていない者、住民基本台帳にて職権消除されたものを含む

a 令和4年度健診対象者

〈4か月〉 令和3年12月1生まれ～令和4年11月30生まれ

〈1歳6か月〉 令和2年10月1生まれ～令和3年9月30生まれ

〈3歳〉 平成31年4月1生まれ～令和2年3月31生まれ

b 令和5年度健診対象者は、令和6年度支援継続中

(イ) 未受診者支援実施時期

令和4年度健診対象日後1回健診を過ぎた日から未受診者全ての受診確認または状況把握した時期

(ウ) 結果 ※令和4年度受診対象者のみ

(人)

	4か月	1歳6か月	3歳	詳細説明
未受診者支援における健診対象者	987	1,049	1,142	受診月までの転入者、職権消除者、令和3年度未受診者を含む
未受診支援対象者	105	129	174	保護者から受診日変更連絡あり、変更日に受診した者は除く
再通知、電話、訪問により受診につながった者	50	63	83	
未受診者	55 (5.6%)	66 (6.3%)	91 (8.0%)	

(エ) 未受診者の把握状況内訳 ※令和4年度受診対象者のみ

(人)

		4 か月児健診			1 歳 6 か月児健診			3 歳児健診		
		最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲) 本人または保護者が外国籍者	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲) 本人または保護者が外国籍者	最終結果	未受診者の把握状況比率	(再掲) 本人または保護者が外国籍者
当市健診未受診者数		55	—	6	66	—	10	91	—	32
他市にて受診		9	16.4%	0	5	7.6%	1	9	9.9%	1
医療機関にて受診		5	9.1%	0	0	—	0	2	2.2%	0
保健師による確認		4	7.3%	0	7	10.6%	3	12	13.2%	2
※1 他に重複項目を満たす者	2 歳 3 か月児歯科健診時の育児相談にて確認	/	/	/	0	—	0	/	/	/
	予防接種を順調に接種	0	/	0	0	/	0	0	/	0
	保育園等在園者	0	/	0	0	/	0	1	/	0
	幼稚園等在園者	/	/	/	/	/	/	0	/	0
情報提供により保育園在園中と確認できたため見守りを依頼		0	—	0	0	—	0	3	3.3%	1
情報提供により幼稚園在園中と確認できたため見守りを依頼		/	/	/	/	/	/	3	3.3%	2
入院中		0	—	0	0	—	0	2	2.2%	0
※2 他に重複項目を満たす者	2 歳 3 か月児歯科健診時の育児相談にて確認	/	/	/	0	—	0	/	/	/
	予防接種を順調に接種	0	/	0	0	/	0	0	/	0
居住していない者		19	34.5%	1	29	43.9%	6	29	31.9%	11
※3 居住していない者の内訳	住民票おいたままで、海外に居住または海外で受診	1	/	0	3	/	0	7	/	4
	転出者及び職権消除者（市が出国を確認した者のみ）	18	/	1	24	/	3	22	/	7
	出帰国記録にて出国確認	0	/	0	1	/	3	0	/	0
	その他（死亡含む）	0	/	0	1	/	0	0	/	0
未把握者数		18	32.7%	5	25	37.9%	5	29	34.1%	15

※1, 2, 3 : 再掲

未把握者内訳		4 か月児健診		1 歳 6 か月児健診		3 歳児健診	
		最終結果	(再掲) 本人または保護者が外国籍者	最終結果	(再掲) 本人または保護者が外国籍者	最終結果	(再掲) 本人または保護者が外国籍者
令和5年度	当市受診	14	2	18	3	18	11
	他市にて受診	0	0	1	0	2	0
	保健師による確認	4	3	1	0	6	2
	入院中	0	0	1	0	0	0
	情報提供により保育園在園中と確認できたため見守りを依頼	0	0	1	0	1	0
	転出・消除（市が出国確認済のみ）	0	0	1	0	1	1
	出帰国記録にて出国確認	0	0	2	2	1	1

5 健康教育事業

(1) 離乳食教室（初期：ごっくん教室、後期：かみかみ教室）

ア 目 的

- ・離乳食において保護者に対し、離乳食の大切さや進め方を知ってもらい、離乳食について正しい知識を伝え、家族を含めた健康づくりを考える意識を発展させる。

さらに参加者同士が交流することで、育児に関する情報交換や友達作りができる機会を提供する。

- ・乳歯が萌出しはじめ、食事の内容が変化する時期にある子とその保護者に対し、口腔内に関心が高い時期を捉え、むし歯予防に関する知識の普及を図り、歯科保健に対する知識の改善及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 対 象 ごっくん教室(初期)：4か月児以降の保護者、赤ちゃんの出席可 かみかみ教室(後期)：9か月児以降の親子

ウ 回 数 ごっくん教室、かみかみ教室ともに年12回

エ 周知方法

- (ア) 親子健康手帳(母子健康手帳)交付時に案内文配布
- (イ) 広報・市ホームページによる案内
- (ウ) 4か月児健診時に案内文配布

オ 実施内容

- (ア) 離乳食初期・後期の講話
- (イ) 集団歯科指導（かみかみ教室のみ）
- (ウ) 個別相談、質疑応答

カ スタッフ 管理栄養士、歯科衛生士

キ 実施状況

(組)

ごっくん教室	第1子	第2子以降	計	かみかみ教室	第1子	第2子以降	計
4月12日	5	0	5	4月21日	4	0	4
5月10日	9	0	9	5月26日	3	1	4
6月7日	10	1	11	6月23日	5	1	6
7月5日	9	2	11	7月21日	1	0	1
8月2日	9	1	10	8月25日	3	1	4
9月6日	8	0	8	9月22日	7	0	7
10月4日	9	1	10	10月20日	3	0	3
11月1日	10	0	10	11月17日	5	0	5
12月6日	9	1	10	12月22日	5	0	5
1月10日	5	2	7	1月26日	4	0	4
2月7日	11	2	13	2月16日	3	0	3
3月6日	9	0	9	3月15日	6	0	6
合 計	103	10	113	合 計	49	3	52

(2) 健康教育

ア 「生と性のカリキュラム」 関係

＜高校＞「望まない妊娠と性感染症について」

対象：高校生

目的：「望まない妊娠や性感染症についての知識を持つとともに、自分や相手の生き方を大切にする気持ちをはぐくむ。

	実施年月日	実施学校名	生徒数（人）
1	令和5年6月12日	小牧高等学校（全日）	257
2	令和5年7月18日	小牧高等学校（定時）	33
3	令和5年10月24日	小牧南高等学校	277
計			567

＜中学校＞「すてきな大人になろう～性感染症について～」

対象：中学校3年生の生徒

目的：性感染症についての知識を持つとともに、男女の交際のあり方やお互い相手に思いやりを持つことの大切さを気づかせる。

	実施年月日	実施学校名	生徒数（人）
1	令和5年6月20日	小牧西中学校	74
2	令和5年6月23日	応時中学校	220
3	令和5年7月3日	桃陵中学校	120
4	令和5年7月10日	小牧中学校	232
5	令和5年7月12日	岩崎中学校	130
6	令和5年7月14日	光ヶ丘中学校	71
7	令和5年9月6日	北里中学校	117
8	令和6年2月13日	篠岡中学校	53
計			1,017

＜小学校＞「おへそのひみつ」

対象：小学校2年生とその保護者

目的：いのちの大切さを知り、かけがえのない自分を大切にできる。自己肯定感を育むことができるようにする。

	実施年月日	実施学校名	生徒数/保護者（人）
1	令和5年6月17日	本庄小学校	78/60
2	令和5年6月17日	米野小学校	108/132
3	令和5年6月28日	一色小学校	72/0
4	令和5年9月16日	篠岡小学校	38/40
5	令和5年10月12日	小木小学校	51/35
6	令和5年10月12日	北里小学校	59/55
7	令和5年11月22日	大城小学校	21/26
8	令和5年12月2日	光ヶ丘小学校	36/28
9	令和5年12月11日	味岡小学校	111/0
10	令和6年1月15日	小牧原小学校	106/0

11	令和6年1月18日	桃ヶ丘小学校	44/44
12	令和6年1月25日	小牧南小学校	110/100
13	令和6年1月26日	陶小学校	28/4
14	令和6年1月26日	小牧小学校	115/100
15	令和6年2月2日	村中小学校	39/35
16	令和6年2月3日	三ツ渕小学校	42/37
計			1,058/696

イ 職業人体験学習関係

	実施年月日	実施学校名	生徒数（人）
1	令和5年5月30日～6月1日	北里中学校	2
2	令和5年9月7日・8日	味岡中学校	2
3	令和5年9月26日・28日	小牧西中学校	2
4	令和5年11月7日～9日	桃陵中学校	2
5	令和5年11月30日～12月1日	応時中学校	2
6	令和5年12月12日～12月14日	岩崎中学校	2

ウ 管理栄養士対応健康教育（母子関係）

	実施年月日	内容	対象	人数（人）
1	令和5年7月26日	おやこの食育教室	市民	27
2	令和5年10月12日	離乳食から幼児期の食事 ～家族の食事から考える～	児童館指導員	14

(3) 生と性に関するカリキュラムの推進への取り組み

ア 自己肯定感の醸成

(ア) 4か月児健康診査の健康教育

子どもの心の成長の基本となる親子の愛着形成及び自己肯定感について4か月児健康診査時の健康教育で伝える。

(イ) 乳幼児健康診査におけるサポートプランの配布

4か月児健康診査、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査にて、保健師より親子の自己肯定感醸成のため、育児の見通しや保護者へのメッセージを伝え、サポートプランを配布。

(ウ) 親子で学ぶ性教育の実施

中央図書館イベントスペースにて性教育情報について展示

（令和5年7月21日～28日）また、親子教室の開催

○幼児親子対象講座「大切な自分のからだ」

参加者 子3人 保護者4人

○小学生親子対象【前思春期編】講座「いのちの授業」

参加者 子10人 保護者8人

○上記講座内容を市公式YouTubeにて配信。

イ 「安心相談カード」の配布

- ・こども政策課と協働して、相談機関に関する情報をカードで作成し、市内中学1年生と市内高校1年生に配布
- ・市内児童館・児童センターに窓口紹介ポスターの掲示
- ・市内中学校の保健室にポスターを掲示

(4) 小牧市協働提案事業「摂食障害予防啓発協働事業」

ア 目 的 若年層を対象に摂食障害についての正しい知識を身に付け、病気の予防に努める。

イ 対 象 小牧市市民

ウ 協働事業者 小牧市市民活動団体 摂食障害よりみち

エ 内 容 周知啓発用リーフレットの作成・配布
(市内中学1年生、高校1年生)
周知啓発用ポスター作成・掲示
(市内小中高校の保健室や行政機関)
予防啓発チラシの作成・配布 (市内小学6年生)
教育動画作成、配信、教室開催

	実施日	参加人数 (人)
教職員対象夏期研修	8月2日	25
経験者の話を聞く会	11月26日	オンライン含む 21
市民向け講座	1月11日	10
市民向け講座	3月16日	13

学生インタビュー

学校数 (校)	期間・回数	参加人数 (人)
3	9～11月 計8回	学生 22

6 相談事業

(1) 母乳相談

ア 目的

母親が母乳に関して持っている心配や疑問を気軽に相談でき、個々に応じた授乳方法を確立できるよう援助する。

母乳育児が親子の絆を深め、最後までよりよい状態で終了できるように、卒乳に向け援助する。

イ 対象

- (ア) 母乳育児に関して心配や疑問を持つ妊婦
- (イ) 母乳育児確立のための支援が必要な母子
- (ウ) 授乳をはじめとした育児に心配や疑問を持つ母親

ウ 実施日数

60日/年

エ 周知方法

- (ア) 広報による案内
- (イ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に母乳育児の大切さを伝えるとともに紹介
- (ウ) 市内産婦人科・小児科にポスターを設置
- (エ) 相談・訪問や4か月児健診において母乳育児に関して、心配や疑問を持っている母に対して案内

オ 実施内容

- (ア) 妊娠中からの母乳育児の取り組みと乳房の手当ての指導
- (イ) 母乳に関するトラブル等母乳育児に関する相談
- (ウ) 授乳をはじめとした育児全般に関する相談
- (エ) 卒乳に関する相談

カ スタッフ

助産師

キ 実績

	相談実人数	相談延べ人数
合計	99	161

ク 相談内容内訳

相談内容		月齢	妊婦	1か月未満	1か月～2か月未満	2か月～3か月未満	3か月～4か月未満	4か月～5か月未満	5か月～6か月未満	6か月～9か月未満	9か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳以上	内容別延べ件数合計
授乳について	授乳方法		0	0	9	37	37	18	26	21	7	1	0	2	158
	母乳量・ミルク量		0	0	9	37	36	18	26	20	6	1	0	0	153
	乳房トラブル		0	0	8	32	35	14	14	13	3	0	0	1	120
	乳房ケア		0	0	8	32	31	14	10	11	8	1	0	0	115
	断乳・卒乳		0	0	0	2	8	6	10	11	6	2	0	2	47
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児について	体重増加		0	0	9	37	37	18	26	21	9	1	0	2	160
	その他		0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
その他	育児		0	0	9	37	37	18	26	21	9	2	0	2	161
	離乳食		0	0	0	15	27	16	26	21	8	2	0	2	117
	母自身 (精神面含む)		0	0	6	15	9	9	11	9	3	1	0	2	65
	その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月齢別相談数			0	0	58	244	257	132	176	148	59	11	0	13	1,098

(2) 市内児童館巡回育児相談、妊産婦健康相談

ア 目的

市内児童館を巡回し、子どもの発育・発達に関する相談や保護者の育児に関する相談に対して個別に支援すると共に、相談者同士が交流の場を持ちお互いに学び合える場となるよう支援する。

イ 対象

相談を希望する者（予約制）

ウ 周知方法

(ア) 広報

(イ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に案内文を配布

(ウ) 市内各児童館・産婦人科・小児科にポスターを設置

エ 実施内容

(ア) 育児相談：育児相談、身体計測（各自自由計測）

(イ) 妊産婦健康相談：健康相談、身体計測、血圧測定、尿検査

オ スタッフ

保健師、助産師

カ 実績

(人)

	年回数	乳児	幼児	妊婦	産婦	母親	計
小牧児童館	4	16	17	0	0	1	34
小牧南児童館	4	23	2	0	0	0	25
味岡児童館	4	12	13	0	0	1	26
篠岡児童館	4	10	5	0	0	0	15
大城児童館	4	5	4	0	0	0	9
北里児童館	4	10	10	0	0	0	20
西部児童館	4	6	2	0	0	1	9
計	28	82	53	0	0	3	138

キ 相談内容内訳

(件)

		身体計測(人)	相談(人)	相談内容（再掲・重複あり）											延べ利用 件数	
				発育	発達	栄養	母乳	排泄	育児	生活リズム	病気	歯科	情報提供	その他		
小 牧 児童館	乳児	17	16	16	4	8	8	0	0	0	1	4	1	3	45	95
	幼児	17	17	17	6	9	5	1	1	0	1	6	1	2	49	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
小牧南 児童館	乳児	25	23	23	7	15	16	0	1	1	2	5	2	4	76	84
	幼児	3	2	2	1	1	2	0	1	0	0	1	0	0	8	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
味 岡 児童館	乳児	12	12	12	2	10	10	0	0	0	0	7	0	1	42	78
	幼児	14	13	13	6	6	0	0	0	0	0	7	0	2	34	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	
篠 岡 児童館	乳児	13	10	10	1	5	6	0	2	1	0	3	0	1	29	41
	幼児	14	5	5	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	12	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大 城 児童館	乳児	12	5	5	1	4	3	1	0	0	0	3	0	0	17	29
	幼児	5	4	4	2	2	1	0	1	0	0	2	0	0	12	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
北 里 児童館	乳児	11	10	10	3	7	4	1	0	1	1	4	0	3	34	65
	幼児	15	10	10	3	4	3	2	1	0	1	4	1	2	31	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
西 部 児童館	乳児	9	6	6	0	4	3	0	1	0	0	3	0	0	17	24
	幼児	15	2	2	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	6	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
計	乳児	99	82	82	18	53	50	2	4	3	4	29	3	12	260	416
	幼児	83	53	53	21	27	12	3	4	0	2	22	2	6	152	
	妊婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	母親	2	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	4	

(3) 2歳3か月児歯科健康診査時育児相談

ア 実施回数 24回

イ 相談者数 (人)

	相談者数
男	454
女	463
計	917

ウ 分類別相談内容 (件)

	C：当日指導		B：要経過観察		計		
	男	女	男	女	男	女	合計
発 育	1	0	0	0	1	0	1
精 神 発 達	29	42	226	137	255	179	434
言 語 発 達	3	5	29	20	32	25	57
運 動 発 達	1	0	6	4	7	4	11
疾 病	1	2	2	0	3	2	5
育 児 能 力	5	10	10	17	15	27	42
生 活 習 慣	1	1	0	0	1	1	2
哺 乳 ・ 卒 乳	1	3	0	1	1	4	5
食 習 慣	5	10	0	0	5	10	15
情 緒	15	22	3	4	18	26	44
予 防 接 種	0	1	0	0	0	1	1

(4) 栄養相談

(件)

	4か月児 健診	1歳 6か月児 健診	2歳 3か月児 健診	3歳児 健診	定例外	合計
離乳食	9	2	0	0	18	29
少食	0	4	3	5	1	13
過食	0	0	0	1	0	1
食物アレルギー	0	2	0	0	0	2
偏食	0	2	8	17	3	30
遊び食べ・ムラ	0	0	0	0	0	0
間食	0	1	0	0	0	1
下痢	0	0	0	0	0	0
便秘	0	1	0	0	1	2
肥満	0	0	0	0	0	0
やせ	0	0	0	0	0	0
母乳・ミルク	0	2	0	0	0	2
水分	0	0	1	0	0	1
生活リズム	0	0	0	0	0	0
咀嚼	0	8	0	1	3	12
バランス	0	0	0	0	0	0
病態栄養	0	0	0	0	0	0
食生活	0	14	5	7	9	35
その他	0	2	1	0	1	4
合 計	9	38	18	31	36	132

(5) 母子電話相談

ア 目 的

育児相談専用電話を設置し親子の成長を支援する。

イ 電話件数

(件)

	乳児	幼児	学童	妊婦	産婦	母親	虐待	その他	計
こまねっと	5	1	5	0	0	0	0	0	11
一 般 電 話	8	15	14	0	0	0	0	0	37
合 計	13	16	19	0	0	0	0	0	48

ウ 相談内容

(件)

		こ ま ね っ と									一 般 電 話								
		乳 児	幼 児	学 童	妊 婦	産 婦	母 親	虐 待	そ の 他	計	乳 児	幼 児	学 童	妊 婦	産 婦	母 親	虐 待	そ の 他	計
発 達 ・ 発 達	発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	0	0	0	0	0	7
	精神発達面	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	7	7	0	0	0	0	0	14
	運動発達面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医 学	疾病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	病気・けが の当て	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	0	5
	妊娠・出産	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	予防接種関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科(う歯 等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基 本 的 生 活 習 慣 ・ 育 児	睡眠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	排泄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	食事	2	1	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	哺乳関係	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	歯科 (仕上げ磨き 等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	20	0	0	0	0	0	0	29
	情緒	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	育児一般	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	習癖	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	家庭環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	友達関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	情報提供(健 診・病院・ サークル関 係)	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虐待	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
計		5	1	5	0	0	0	0	0	11	17	35	14	0	0	0	0	0	66

エ 栄養電話相談（管理栄養士対応）

（件）

相談内容	電話相談 (相談者から＋栄養士から＋こまねっと＋育児相談)
離乳食	65
少食	4
過食	1
食物アレルギー	2
偏食	3
遊び食べ・ムラ	0
間食	0
下痢	0
便秘	1
肥満	0
やせ	0
母乳・ミルク	6
水分	1
生活リズム	0
咀嚼	2
バランス	0
病態栄養	3
食生活	34
その他	6
合計	128

(6) 臨床心理士による相談

ア 目 的

- (ア) 児の精神発達を確認し、親に対して生活でのかかわり方を指導し、今後の児の発達を促す。
- (イ) 父母の育児状況を確認し育児相談を実施することにより、今後の児の発達を促す。

イ 対 象

- (ア) 各種乳幼児健康診査において発達相談の必要があると思われた児
- (イ) 電話相談・訪問等で発達相談の必要があると思われた児

ウ 講 師 臨床心理士 1人

エ 実施内容 発達相談

オ 実施回数 年94回（1回につき3件）

カ 相談利用者における問題点、処遇の内訳 (件)

項目	件数	処遇内容									
		当日のみ	次回発達相談	保健師対応	なかよし教室へ	おひさまサロンへ	療育の場へ	次回健診へ	児童館等	医療機関へ受診	その他
言語発達	103	6	2	43	13	0	7	26	1	5	0
発音	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
どもり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体の発達	56	11	1	31	2	0	3	6	0	0	2
理解	5	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0
落ち着きがない	26	8	0	6	4	0	0	8	0	0	0
対人関係	9	3	0	5	0	0	1	0	0	0	0
コミュニケーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人見知りが強い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かんしゃくが強い	16	3	0	6	1	1	0	5	0	0	0
こだわりが強い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情緒面	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
集団適応	5	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0
育児	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
乱暴	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
かみつки	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
きりかえ	4	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	229	39	5	98	20	1	12	46	1	5	2

延相談件数	229 件
実相談件数	222 件

(7) 運動発達相談

ア 目 的

運動発達等に遅れのある子どもへのかかわり方を、親に対して指導することにより発達を促していく。

また、受診が必要な場合にはその行動がとれる親になれるように指導する。

イ 対 象

乳幼児健診、育児相談、訪問、なかよし教室・おひさまサロン等で、運動発達に関して相談が必要と思われる子どもと親

ウ 講 師 作業療法士 1人

エ 実施内容 運動発達相談

オ 実施回数 年12回

カ 内 訳

個別面接(件)	訪問(件)	なかよし教室 おひさまサロン(回)
58 (5)	0	0

※()内は再来の掲載

キ 相談内容、処遇の内訳

(ア)0か月～9か月

(件)

	計	当日のみ	運動発達 相談継続	保健師 フォロー	すくすく 広場へ	なかよし 教室へ	療育へ	次回 健診へ	医療機関 受診へ	その他
そり返りについて	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
首すわりについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寝返りについて	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
お座りについて	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
ずりばい・ハイハイについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
つかまり立ちについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1人歩きについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体の発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
疾病に伴う発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(足底をつきたがらない、変化が嫌い など)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(イ) 10か月～1歳6か月

(件)

	計	当日のみ	運動発達 相談継続	保健師 フォロー	すくすく 広場へ	なかよし 教室へ	療育へ	次回 健診へ	医療機関 受診へ	その他
お座りについて	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
ずりばい・ハイハイについて	5	0	1	4	0	0	0	0	0	0
つかまり立ちについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1人歩きについて	5	0	0	3	0	0	0	2	0	0
歩き方について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身体の使い方について	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体の発達	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
疾病に伴う発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(足底をつきたがらない、変化が嫌いなど)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(ウ) 1歳6か月以降

(件)

	計	当日のみ	運動発達 相談継続	保健師 フォロー	なかよし 教室へ	療育へ	次回 健診へ	医療機関 受診へ	その他
つかまり立ちについて	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1人歩きについて	8	0	0	8	0	0	0	0	0
歩き方について	20	3	0	13	0	2	2	0	0
身体の使い方について	11	6	0	4	0	0	1	0	0
全体の発達	2	0	0	2	0	0	0	0	0
疾病に伴う発達	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(足底をつきたがらない、変化が嫌いなど)	1	0	0	1	0	0	0	0	0

(8) なかよし教室

ア 目 的

親子がいろいろな遊びを経験し、人とのかかわりを持つ中で、親が我が子の成長・発達に気付いたり、確認したり、親子のかかわりの楽しさを共感したりすることで、親子関係の大切さを知り、豊かな生活を送ることができる。

(ア) 親が子どもの姿（個性）を客観的に見つめ捉えることができる。

(イ) 親が子どもの姿（個性）に合わせたかかわり方ができる。

(ウ) 親が自己肯定感を高めて子育てに生かすことができる。

イ 対 象

発達に関して援助が必要な子どもの親

付き合いにくさ、かかわりづらさを持つ子どもの親

子どもとの付き合い方を学びたい親

ウ スタッフ及び助言者

スタッフ：保健師、保育士、看護師

助 言 者：あさひ学園指導員

(療育的視点) (1クールに1回助言者として参加)

発達相談：心理相談員が担当 (1クールにつき1回)

エ 援助方法

アー(ア)に対して

- ① 親が子どものありのままの姿（行動）を見つめる事ができるように、子どもと一緒に行動することを伝える。
- ② 行動の中で子どもの表情、働きかけに対しての反応、どんな行動、どんな声、言葉が聞かれたか等、親が子どもの行動を振り返ることができるようにする。
- ③ スタッフが子どもにかかわった時の子どもの姿（反応）を親に伝える（子どもの個性を伝える）。
- ④ 親と子どもが楽しくかかわることができる様子が見られる場面やその姿を共有する。
- ⑤ 客観的意見等を聞いて、親が子どもの個性に気づけるように子どもの姿を親と共に考える。

アー(イ)に対して

- ① 子どもの行動に親が合わせていけるように、子どもと一緒に行動することを伝える。
- ② 子どもと親が楽しくかかわることができる場面の設定をする。また親が主体であると意識できるような設定をする。
- ③ 親が子どもの表情や態度を見て子どもの気持ちを感じ取り、共感・対

応ができる親になれるように子どもの様子やかかわり方を助言する。

- ④ 親がかかわりづらいと思っていることを具体化し、かかわり方のノウハウを提供し、また今後参加できる場（療育、おひさまサロン、児童館等）の情報提供をする。

アー(ウ)に対して

- ① 教室の中で子どもとの関係において、子どもの受け止め方やかかわり方など、場面を通して親を認めそのことを伝える。
- ② 親が主体であることを親とスタッフ間の共通認識とする。（必要以外は手出し、口出しをしない。）
- ③ 親に対して自信を持って子育てできるように、親自身の自己肯定感が高まるように働きかける。また子育ての不安の緩和を図る。
- I うまくいった体験・対応を繰り返す。
- II できていることを認める。
- III 居心地の良い教室を運営する。

オ 実施内容

自由遊び、親子遊び、飲水、助言者による個別相談（必要に応じて）、カンファレンスでのケース検討会

カ 実施状況

42回／年（1コース6回、年7クール実施）

実施月	回数(回)	参加児(人)	延参加児(人)
4・5月	6	14	67
6・7月	6	17	70
7・8月	6	11	45
9・10月	6	13	67
10・11月	6	13	61
12・1月	6	13	67
2・3月	6	13	59
計	42	94	436

(9) おひさまサロン

ア 目的

親がなかよし教室で感じ取った体験（親子で楽しい体験、子どもの表情が変わった、どんなことが好きか等）をもとに、より具体的にその子に応じた働きかけやかかわり方を学び、毎日の生活に生かしていくことができるよう支援する場となる。

また親には、子どもに本来備わっている「育つ力」が十分発揮できるようなかかわりができていることを伝え、子育てに自信が持てるよう支援する。自己肯定感を高める。

イ 対 象

なかよし教室終了後、より具体的な子どもとの付き合い方、働きかけ方（例えば、日常生活面や他児とのかかわり方等）を学びたい親。

ウ スタッフ及び助言者

スタッフ：保育士、保健師

助 言 者：保健師（親支援やカンファレンスの必要時）

エ 援助方法

(ア) なかよし教室の様子をもとに、地区担当保健師が親と話し合い（親が具体的に知りたいことや子どもが獲得するとよい力、親が獲得する育児姿勢等）、参加目的を明確化する。

(イ) 参加目的に沿った支援をする。また、親に対して自信をもって子育てできるように親自身の自己肯定感が高まるように働きかける。また、子育ての不安の緩和をはかる。

① うまくいった体験を繰り返す。

② できていることをほめる。

③ 安心して参加できる場を提供する。

④ 他の親子が成功している場面・かかわり方を紹介する。

(ウ) 子ども自身が、付き合いにくさ、かかわりづらさという個性をもつので、子どもが楽しい遊びを展開できるように援助する。また、親に助言をしていく。

(エ) 参加目的を評価する機会を（継続は4か月まで）設ける。

(オ) 保育士、地区担当保健師の役割

保育士：・親子の参加目的を知り、親のかかわり（親の姿勢）に焦点をあてたアドバイスをする。

・親の育児の頑張りを認め、親の自己肯定感を育てる。

保健師：・なかよし教室での評価をもとに、おひさまサロンに参加する目的を一緒に考える。

・親の育児の頑張りを認め、親の自己肯定感を育てる。

オ 実施内容

自由遊び、親子遊び、課題を持った遊び、基本的な生活習慣への働きかけ、カンファレンスでのケース検討会

カ 実施状況

実施回数	30 回
実参加児数	29 人
延参加児数	158 人

(10) すくすく広場

ア 目 的

ふれあい遊びを経験することで、こころを通わす喜びを感じ、日常生活に生かす。子育ての不安が緩和され、おだやかな気持ちで育児に取り組める。

イ 対 象

子どもとのかかわり方を知りたい親
子育てに不安を持つ親
(4か月児健診以降1歳前後まで)

ウ スタッフ

保育士

エ 援助方法

安心して参加できる場を提供する。
親の頑張りを認める。
子どもに合ったかかわり方を親と共に考える。
子どもが喜ぶ遊びを親と共有する。

オ 実施内容

自由遊び、親子遊び、スタッフとの個別相談

カ 実施状況

実施回数	12 回
実参加児数	23 人
延参加児数	26 人

7 訪問事業

(1) 保健センター保健師による妊婦・産婦・乳幼児訪問

ア 目 的

- (ア) 親子の健やかな成長を支援する。
- (イ) 出産前後の妊婦・産婦の時期からかわりを持つことにより、信頼関係を築き、出生後の母子の健康の見守り、育児の支援につなげる。
- (ウ) 育児に悩んでいるもしくは適切な養育が困難な状況で、保健センターや他の地域資源を利用できない家族へ支援する。

イ 対 象

家族の希望や、乳幼児健康診査（健康診査未受診者含む）、電話相談等で必要が感じられた親子

ウ 訪問件数

(ア) 乳 児	274件
(イ) 幼 児	224件
(ウ) 妊 婦	36件
(エ) 産 婦	66件
(オ) 精神保健福祉	106件
(カ) 難 病	2件
(キ) その他	125件
合 計	833件

エ 把握動機及び支援内容

(件)

事例把握動機	ケース連絡	病院から	67
		児童相談所から	4
		保健所から	0
		保育園等・こども政策課から	18
		他市から	146
	妊娠届出時		290
	低体重児届出時		1
	未熟児訪問		1
	新生児訪問		10
	連絡員から		4
	4か月児健診		45
	10か月児アンケート		0
	1歳6か月児健診		48
	2歳3か月児健診		20
	3歳児健診		23
	事後健診		0
育児相談・発達相談・電話		41	
その他		115	
計			833

(件)

支 援 内 容		児の成長確認	467
		育児状況	467
		身体計測	259
	援 助	受け止め	290
		ことば	79
		あそび	162
		食事	116
		排泄	14
		清潔	23
		生活リズム	69
		授乳について	186
		その他	63
	情 報 提 供	育児に関すること	331
		社会資源・医療機関・児童館	336
		予防接種	143
		センター事業勸奨	191
その他		108	
虐待予防		40	
計			3,344

※重複記載あり

(2) 助産師による妊婦・産婦・新生児・乳児訪問

ア 目 的

相談支援が必要な者に対して、妊娠・出産、産後の不安の強い時期よりかわりを持つことにより信頼関係を築き、今後育児を進めていく上で、1人で悩まず、相談機関の活用等問題解決に向けて行動のできる親となるよう支援する。

イ 対 象

- (ア) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時の面接で不安の強そうな母
 - (イ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時アンケートより
 - ①既往歴により精神的な疾患等問題を持つ母
 - ②母乳育児の意思をもった母
 - ③相談者、協力者のいない母
 - (ウ) 妊婦健康診査受診票より妊娠高血圧症候群、尿糖などがみられる母
 - (エ) 若年、高齢出産の母
 - (オ) 多胎児や低体重児を出産した母
 - (カ) 関係機関より継続支援依頼があった母
 - (キ) 「連絡員赤ちゃん訪問」を実施後、保健連絡員・OBを通して訪問依頼のあった母
 - (ク) その他母親からの訪問依頼のあった時
- 上記の(ア)～(カ)の対象に対しては、電話等にて母子の生活や育児状況等を確認し、必要に応じて訪問につなげる。

ウ スタッフ

助産師 9人

エ 周知方法

- (ア) 広報
- (イ) 市内産婦人科にポスターを設置
- (ウ) 親子健康手帳（母子健康手帳）交付時に案内文を配布
- (エ) 出生届受理時にチラシの配布

オ 実績

- (ア) イ対象のうち、(ア)～(カ)の対象者への助産師電話相談実績 (人)

相談対象者数	電話相談数	つながらない等
355	355	0

- (イ) 電話相談内容内訳 (重複あり) (件)

育児	母乳	兄弟関係	その他	情報提供	計
0	0	0	0	10	10

※小牧市すくすく応援事業の伴走型支援の開始に伴い育児相談は訪問で対応

(ウ) 電話相談方向性内訳

(人)

助産師訪問へ	母乳相談へ	継続支援へ	電話相談で終了	計
285	0	60	10	355

カ 低体重児把握数

(人)

把握総数	500g 未満	500g～ 999g	1,000g～ 1,299g	1,300g～ 1,499g	1,500g～ 1,799g	1,800g～ 1,999g	2,000g～ 2,299g	2,300g～ 2,499g
88	3	1	3	0	6	5	26	44

キ 妊婦・産婦・新生児・乳児訪問実績

(人)

	新生児	乳児	産婦	妊婦
実人数	70 (17)	772 (75)	823	0
延人数	82 (22)	1,008 (212)	1,050	0

* () 内は実施件数内の低体重児の人数

ク 把握動機

(人)

把握動機	人数
低体重届出書より	72
母より申し込み（電話・来所含む）	496
保健師からの電話	30
助産師からの電話	219
赤ちゃん訪問	0
病院からの連絡	12
他の保健機関からの連絡	20
前回の訪問から	238
その他	3
計	1,090

ケ 相談内容

	内 容	件数		内 容	件数
哺乳について	母乳が出ているか・足りているか	636	育児について	泣き・ぐずりについて	394
	授乳方法(抱き方・含ませ方・授乳間隔など)	540		抱き癖について	47
	乳頭の形状による授乳困難など	144		指しゃぶり・おしゃぶりについて	130
	排気・溢乳・吐乳について	447		部屋の養育環境について	119
	ミルクについて(足し方・ミルク量など)	672		衣服・オムツについて	124
	乳房トラブルについて	176		沐浴・お風呂・スキンケアについて	252
	乳汁分泌・促進方法について	153		児の生活リズムについて	177
	授乳中の食事について	102		外出・外気浴について	161
	その他	22		旅行について	24
児の体について	発育(体重増加)について	1,041	育児について	遊び方・関わり方(赤ちゃん体操含む)	139
	スキントラブル(湿疹・オムツかぶれなど)	297		上の子との関わりについて	303
	黄疸について	32		離乳食について	69
	頭の形・向き癖について	457		その他	38
	視点・目つきなどについて	16	母について	母の疾患について	87
	眼脂について	20		母の体調について	213
	鼻汁・鼻閉・くしゃみ・咳・いびき・うなりなど	250		食事・睡眠について	147
	舌小帯について	3		育児不安・大変さについて	198
	血管腫・あざについて	59		育児協力者・相談者がいない	63
	臍について(ヘルニアを含む)	115		家族の生活リズムについて	88
	便・尿について	435		家族との関係(夫・母など)について	87
	包茎・陰嚢水腫について	104		仕事と育児について	245
	股関節脱臼・開排制限について	483		飲酒について	5
	アレルギーについて	29		喫煙(本人・周り)について	16
	児の疾病について	19		家族計画・避妊について	13
	その他	57		その他	10
情報提供	保健事業・社会資源について	912	計		11,972
	かかりつけ医・病院について	751			
	予防接種について	842			
	その他	9			

(3) 管理栄養士による訪問

ア 目 的

実際の家庭状況や食事状況を把握することにより、親が食生活への意識を築き上げ、児の成長につなげることができるよう支援する。

イ 対 象

家庭の事情により、保健センターに来所できない親子。また、児の食生活支援のために、実際の食事状況を確認する必要が感じられた親子

ウ 訪問件数 25件

8 小牧市中学生ピロリ菌検査事業

(1) 目 的

慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍及び胃がんの原因であるピロリ菌を早期に発見し、将来の慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍及び胃がん予防に役立てる。また、中学校で「がん予防」を学習する機会に合わせてピロリ菌検査を行う事で、生徒が健康に興味関心を持ち、その後の健康の保持・増進につなげることを目的とする。

(2) 対 象

ピロリ菌検査を受ける日時点において市内に住所を有する中学2年生で、本人及びその保護者が検査を受けることに同意し、所定の申込書(同意書)により申し込みをした者。

(3) 内 容

検査内容・希望について市内中学校(チラシ配布・テトル配信)、広報、ホームページ、SNS、デジタルサイネージ等を通じて周知・募集を行った。令和5年度より申請書(同意書)との併用でLogoフォーム受付を開始した。検査希望者に対し、下記検査を行った(一次・二次検査は無料)。

ア 一次検査…市内中学校・もしくは保健センターにて回収【令和5年11月】

尿検査：尿中抗体検査

尿採取した検査キットを委託業者にて検査し、検査結果用紙を郵送

検査結果：陰性(今回の検査では特に感染を認めません)

陽性(ピロリ菌感染の可能性があります)

検査結果の陽性者に対し結果説明チラシと二次検査受診勧奨を行った

イ 二次検査…市内医療機関に予約し受診【令和5年12月～令和6年3月】

便検査：便中ヘリコバクターピロリ抗原検査

市内検査実施医療機関に受診し(1)医師による問診(2)便中抗原検査を実施

検査結果：陰性、陽性

検査結果は医療機関・保健センターより説明の上返却。

検査結果の陽性者に対しては、今後消化器症状があった際は速やかに受診する事、胃がん検診を積極的に受診する事等を伝えた。

※積極的治療を希望された場合：自由診療(実費)となる旨、胃内視鏡検査等が必要となる等の説明・相談対応を行った。

(4) 実 績

区分	対象者(人)	受検者(人)	受検率(%)	陽性者(人)	陽性率(%)
1次検査	1,459	872	59.8	28	3.2
2次検査	28	21	75.0	7	33.3

9 外国人通訳の配置

(1) 目 的

外国人の方々に各種健康診査、健康相談・育児相談、予防接種など通訳を通じて十分かつ、正確な情報を得てもらい、心配や不安の軽減をはかる。

(2) 対 象

日本語がわからない外国人

(3) 通訳人数

2人

(4) 通訳の対応言語

ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語

(5) 通訳来所日

ポルトガル語・スペイン語：火～金（9時～16時30分）

ベトナム語：火・水・金（13時～16時30分）

(6) 各種健康診査外国人対象者及び受診者数通訳対応状況 (人)

健 診 内 容	対 象 者			受 診 者				
	外国人	(再掲)	(再掲)	外国人	(再掲)	(再掲)	(再掲)	(再掲)
		ポルトガル語 スペイン語	ベトナム語		ポルトガル語 スペイン語	通訳対応 ポルトガル語	ベトナム語	通訳対応 ベトナム語
4 か月児健康診査	91	37	23	85	30	28	23	23
1 歳 6 か月児健康診査	96	42	23	91	36	34	19	19
3 歳児健康診査	95	47	21	102	49	45	24	19
2 歳 3 か月児歯科健康診査	94	41	29	70	35	33	21	0
合計	376	167	96	348	150	140	87	61

(7) その他 通訳対応状況 (人)

	通訳対応	(再掲) ポルトガル語 スペイン語	(再掲) ベトナム語
来所者対応	454	343	111
電話対応	327	255	72

10 産後ケア事業

(1) 目 的

産後に心身の不調又は育児不安があり家族から支援が得られない産婦とその児を対象に、心身のケアや育児サポートを行い、安心して子育てができるよう支援することを目的とする。

(2) 対 象

市内に住所を有する産後4か月未満の母親及び生後4か月未満の乳児（アウトリーチは12か月未満）で、下記のいずれにも該当する者。

- ① 母親が体調不良や育児不安がある者
 - ② 家族等から育児にかかる十分な援助が受けられない者
 - ③ 感染症疾患（麻疹、風疹、インフルエンザ等）に罹患していない者
 - ④ 母親に心身の不調があり、医療行為が必要でない者
- （ただし、医師が事業において対応が可能であると判断した者は除く）

(3) 内 容

利用日数はショートステイ、デイケア、アウトリーチを合算して7日を上限とする。

ア ショートステイ（10時～翌16時：1泊2日4食（一泊延泊ごとに3食追加））

対象者を宿泊させ、休養の機会を提供するとともに、心身のケア、育児サポート等のきめ細かい支援を実施する。

イ デイケア（10時～16時：1食付）

対象者に日帰りで施設を利用させ、休養の機会を提供するとともに、心身のケア、育児サポート等のきめ細かい支援を実施する。

ウ アウトリーチ（9時～17時のうち3時間程度）

対象者の自宅等に助産師が訪問し、休養の機会を提供するとともに、心身のケア、育児サポート等のきめ細かい支援を実施する。

(4) 実 績

ア 内容別

ショートステイ利用日数		デイケア利用日数		アウトリーチ利用日数	
実人数	延日数	実人数	延日数	実人数	延日数
45 組	148 日	12 組	19 日	77 組	190 日

イ 利用日数別

(人)

ショートステイ						デイケア	アウト リーチ	計 (延人数)
1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日	6泊7日			
31	16	3	0	2	2	19	190	263

※1人で複数回利用した人は、それぞれでカウント

(5) 契約機関 (10機関)

小牧市民病院	愛助産院
エンゼルレディースクリニック	ほのぼの助産院
ミナミクリニック	助産院マザーリーフ
かすがいマタニティクリニック	山中助産院
森永産婦人科	澤野助産院

(6) 産後ケア事業 利用者アンケートのまとめ (回答 160人)

ア 利用してよかった点 (複数回答)

休息が取れた	105人
相談ができた	118人
母乳ケアや授乳の仕方に関する指導	103人
沐浴の仕方に関する指導	10人
その他	

- ・授乳の仕方や沐浴の仕方など母子同室が出来なかったため不安なことが多くあったが、産後ケアを利用して不安なことを相談することができたことや休息が取れたことが良かった。
- ・疲れて子どもがかわいいと思えなくなっていたが、預かってもらっている間、離れることができたのでまたかわいいと思えるようになった。
- ・疲れて育児に行き詰まっていた。1泊だけではあったが、娘と離れることができ、気持ちもリフレッシュすることが出来た。
- ・近くに頼れる親族がいない状況なので、ショートステイの制度は本当にありがたい。
- ・産後子どもを長時間預けることがなかったので、久しぶりにゆっくり自分の自由な時間が取れて嬉しかった。
- ・ゆっくりお昼を食べることができたし、体を休めることもできたのでとても良かった。
- ・声の掛け方、遊び方の見本を見せてくれた。
- ・助産師さんと会話ができたこと。
- ・自分のリフレッシュにもなり、明るい気分になれた。

- ・2人目出産後、思うように出かけられないので訪問での相談、指導が大変ありがたかった。
- ・母乳外来に息子連れて行くのは大変なので、自宅で母乳ケアを実施してもらえるのはありがたかった。
- ・いつでも相談できる助産師さんが近くにいてくれることがこんなに心強いとは思わなかった。いつも悩んだらネット検索して、あまり解決せず不安になっての繰り返しだったので、すごくありがたかった。
- ・明るい助産師さんで、子どもとの関わりについても大変勉強になった。見て学んだことを生かそうと、産後ケアのあとはいつも新しい気持ちで子どもと向き合えたと思う。
- ・話を聞いてもらえることで、リフレッシュできた。
- ・ゆっくり休むことができてよかった。
- ・心身ともに疲れていたのもとても助かりました。

イ 事業を利用前よりも、ゆったりとした気分でお子さんとすごせるか。

はい	143人
いいえ	2人
なんとも言えない	15人

ウ 今後、困ったことがあれば相談しようと思えるか。

はい	159人
いいえ	0人
なんとも言えない	1人

11 1stアニバーサリー事業

(1) 目 的

1歳のお誕生日に絵本などをプレゼントし、お子さんの成長をお祝いし、その機会に育児相談や情報提供を行うことで保護者の育児不安を取り除くことを目的とする。また、子育て世代包括支援センターや児童館を利用したことのない親子が、当事業をきっかけに今後も施設を利用し、継続的な支援につながることを期待している。

1stアニバーサリー事業をセカンドブック事業としても位置付け、読み聞かせを通して、愛着形成を促し親と子の自己肯定感を育む。

(2) 対 象

市内に住所を有する1歳児とその保護者

(3) 内 容

ア 絵本

イ エプロンタオル

ウ バースデーカード兼図書館員からのメッセージカード

エ 1歳のサポートプラン

(4) 実施結果

ア 通知者数

令和4年6月生まれ～令和5年5月生まれ 953人

イ 利用者数 (令和5年4月1日～令和6年3月31日) (人)

	子育て世代包括支援センター	小牧児童館	小牧南児童館	味噌児童館	北里児童館	西部児童館	篠岡児童館	大城児童館	合計
計	592	27	46	58	19	20	16	29	807
外国人（再掲）	44	1	2	1	0	2	1	0	51
初回利用者（再掲）	136	4	11	4	6	6	6	9	182

(5) 主な相談内容 (件)

相談なし	相談あり									処遇		
	基本的 生活習慣	育児 方法	環境	発育・ 発達	医学	情報 提供	支援・ 保護	その他	計	助言・ 指導	見守り・継続	
											各児童館で 見守り ・継続	地区担当保 健師や子育て 世代包括 支援センタ ーで継続 (再掲)
192	339	82	22	76	20	45	0	31	615	449	166	99

12 利用者支援事業（母子保健型）

(1) 目 的

妊娠・出産・育児期にわたる様々な悩みに対して切れ目ない支援体制を整備することを目的として、相談支援を行い、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を作ることを目的とする。

(2) 対 象

相談希望者（面接・電話・訪問・メール・オンライン・手紙）

(3) 内 容

妊娠・出産・育児にわたる相談全般

(4) 実 績

ア 相談方法別 (件)

面接	電話	訪問	メール	手紙	オンライン	計
329	892	31	12	6	1	1,271

イ 相談内容別 (件)

相談あり										処遇	
基本的生活習慣	育児方法	環境	発育・発達	医学	情報提供	支援・保護	妊娠SOS	流産・死産	その他	助言・指導	見守り・継続
188	59	169	97	70	554	19	84	2	29	344	694

ウ こまき妊娠SOS関係の相談（再掲）

実人数 18人、延相談件数 84件

エ 流産・死産等に関する相談（再掲）

実人数 2人、延相談件数 2件

13 小牧市すくすく子育て応援事業

(1) 目 的

核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で、孤立感や不安感を抱く妊婦・子育て家庭も少なくない。全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境を整えるために、伴走型相談支援の充実と経済的支援を一体型で実施する。

(2) 対 象

全ての妊婦及び子育て家庭

(3) 実施内容

ア 伴走型相談支援（面談）

- ・妊娠届出時（転入者含む） 1,070名
 - ・妊娠8か月時（アンケートを実施し希望者に面談を行う）
アンケート回答数：561名　うち相談希望者：63名
 - ・出生届出から乳児家庭全戸訪問までの間
出産後アンケート回答数：785名　うち相談希望者：166名
- ※随時の相談受付等を継続的に実施。

イ 経済的支援：令和5年2月1日以降に妊娠届出をし、出生した子を養育する者 ただし、令和4年4月1日から令和5年1月31日までに出生した子及び令和4年4月1日から令和5年1月31日に妊娠届出をし、令和5年2月1日以降に出生した子に遡及対応する。

- ・妊娠届出面談後（出産応援給付金（たまごギフト））
50,000円支給　1,655名（うち、654名は遡及対象者）
- ・出産後助産師訪問等の面談後（子育て応援給付金（ひよこギフト））
50,000円支給　951名（うち、665名は遡及対象者）

(4) スタッフ

保健師、助産師

(5) 周知方法

- ア 妊娠届出時に事業の説明を行い、案内文を配布
- イ 小牧市妊産婦・乳児健康診査受診票に事業内容を掲載
- ウ 出生届出時配布チラシに相談申込フォームを掲載
- エ 小牧市ホームページに事業内容を掲載

14 こまき巡回バス「こまくる」マタニティフリーパス配布事業

(1) 目 的

妊産婦の「こまき巡回バス」の利用料を無料とすることで、妊産婦健診や乳児健診をはじめ様々な外出時の移動手段として活用してもらい、移動手段を持たない妊産婦だけでなく、すべての妊産婦の外出支援及び巡回バスの利用促進につなげる。

(2) 対 象

妊産婦

(3) 利用期限

妊娠届出時から出産予定日の1年後の月末まで（約22か月間）

(4) 配布方法

妊娠届出時及び転入時に子育て世代包括支援センターにて配布。

(5) 利用方法

マタニティフリーパスを乗車（初乗り）時に提示して乗車する。

1日のうちで2回目以降に乗車する時は、こまくる利用券を提示して乗車する。

(6) 実 績

4,248回（200円/回）

第8 齒科保健事業

第 8 歯科保健事業

1 歯科保健事業一覧

	事業名	対象	内容	回数
1	妊婦個別歯科健診	妊 婦	歯科健診、個別歯科保健指導	随 時
2	4か月児 ・歯科指導 ・母親歯科健診	4か月児 と その保護者	集団指導(乳幼児のむし歯予防及び口腔機能の発達について) 保護者の歯科健診、個別歯科保健指導	年44回
3	1歳6か月児健診	1歳6か月児	歯科健診、フッ化物塗布、個別歯科保健指導	年36回
4	2歳3か月児健診	2歳3か月児	歯科健診、フッ化物塗布、個別歯科保健指導	年24回
5	3歳児健診	3歳児	歯科健診、フッ化物塗布、個別歯科保健指導	年36回
6	離乳食後期教室 かみかみ教室	9か月以降の親子	集団指導(乳幼児のむし歯予防及び口腔機能の発達について)	年12回
7	にこにこむし歯予防相談	乳幼児とその保護者	歯みがき、歯並び等、お子さんの歯科に関する個別相談	年12回
8	保育園歯みがき教室	保育園児	健康教育(むし歯予防及び口腔機能の発達について、食事について) 歯みがき指導	各保育園年1回
9	8020歯っぴースマイル! 歯みがき教室	小学4年生	歯科健康教育、個別歯科保健指導	随 時
10	小学校での 歯科健診	小学生	歯科健診 (『令和4年度 小牧市保健統計』より)	各小学校年1回
	中学校での 歯科健診	中学生	歯科健診 (『令和4年度 小牧市保健統計』より)	各中学校年1回
11	歯周病予防個別健診	今年度20・25・30・35歳に達する市民	歯周疾患健診、個別歯科保健指導	受診期間 R5年6月1日～R7年2月14日
12	いきいき世代個別歯科健診	基準日において40・45・50・55・60・65・70・ 75・80歳の市民	歯周疾患健診、個別歯科保健指導	受診期間 R5年6月1日～R6年2月14日
13	ヤング健診及び結果説明会	35～39歳の市民	個別歯科保健指導	健診 年4回 結果説明会 年16回
14	知って得するフレイル予防講座(おうち編)	60歳以上の市民	口腔機能向上に関する歯科健康教育(介護予防事業)	年24回
15	～笑う門には福来る～ 楽しく歯あわせ講座	おおむね60歳以上で構成される団体	口腔機能向上に関する歯科健康教育(介護予防事業)	随 時
16	フレイル改善個別相談	専門職よりフレイル改善に向けた個別相談 が必要と判断された60歳以上の市民 (介護保険の介護認定非該当者)	口腔機能向上に関する個別歯科保健指導(介護予防事業)	年21回
17	歯の健康相談	市民	歯科に関する相談(面接)	毎週月曜日
18	歯科電話相談	市民	歯科に関する相談(電話)	随 時
19	歯科健康教育	市民	歯科に関する健康教育	随 時
20	訪問口腔衛生指導	訪問指導が必要と 認められる者	口腔ケア等に関する指導	随 時
21	8020表彰	80歳以上で自身の歯が20本以上ある市民	8020達成者への表彰事業	随 時
22	歯の健康センター (歯ピカピック2023)	～小6までのお子さん	歯科健診、フッ化物塗布、石膏模型の色塗り ほか	年1回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止 のためR5は未実施
23	口腔がん検診	50歳以上の市民	問診、口腔がん検診、結果説明	年3回

2 各事業の内容

(1) 妊婦個別歯科健診

ア 目 的

妊娠による食事の好みや飲食回数の変化、ホルモンバランスの変化等により、う蝕や歯周疾患に罹患しやすい妊婦に対し、近隣の歯科医院において歯科健診を受診する機会を提供し、妊婦やその家族のかかりつけ歯科医の定着を推奨すると共に、妊娠を機に産まれてくる子どもも含め、家族ぐるみで歯や歯肉を健康に保つことができるよう、意識の向上を図ることを目的とする。

イ 内 容

- (ア) 歯科健診（う蝕・歯周疾患の有無、補綴歯・欠損歯・現在歯の数等）
- (イ) 清掃状態、歯列咬合、顎関節、粘膜の異常の有無等
- (ウ) 歯科保健指導

ウ 対 象 妊娠中の方

エ 実施回数 対象者 1 人につき 1 回

オ 周知方法

- (ア) 広報
- (イ) 親子（母子）健康手帳発行時に PR
- (ウ) チラシの配布及びポスター提示

カ 契約医療機関数 55 歯科医療機関

キ 健診結果

項目 年度	受診者数	未処置歯		歯牙の状況（1人平均歯牙本数）				
		なし	あり	現在歯	健全歯	未処置歯	処置歯	要補綴歯
令和5年度	339人	213人(62.8%)	126人(37.2%)	28.4本	21.9本	1.0本	5.5本	0.03本

項目 年度	歯周ポケット				歯肉出血		
	健全	浅いポケット	深いポケット	その他	なし	あり	その他
令和5年度	135人(39.8%)	165人(48.7%)	39人(11.5%)	0人(0%)	108人(31.9%)	231人(68.1%)	0人(0%)

項目 年度	総 合 判 定		
	異常なし	要指導	要精検
令和5年度	23人(6.8%)	64人(18.9%)	252人(74.3%)

※対象者数 983 人（受診率 34.5%）

(2) 4 か月児歯科指導及び母親歯科健診

ア 目 的

乳歯が萌出する前のこの時期に、子どものう蝕予防について学習する場を設け、早期からの仕上げみがきの定着を図る。また、母親の口腔環境が子どもにも影響及ぼすと考えられていることから、この健診で母親が自分の口腔内の状態について知り、歯科疾患の早期発見・早期予防ができるよう支援する。

イ 内 容

(ア)保護者対象歯科健診（う蝕・歯周疾患の有無、補綴歯・欠損歯・現在歯の数等）・相談

(イ)集団指導（子どものむし歯予防、口腔機能の発達について）

ウ 対 象 4 か月児とその保護者

エ 実施回数 年 44 回

オ 周知方法

(ア)広報

(イ)親子健康手帳（母子健康手帳）発行時に PR

(ウ)個別通知

カ 参加者数 863 人

※対象者数 924 人（受診率 93.4%）

キ 健診結果

項目 年度	受診者数	未処置歯	
		なし	あり
令和5年度	863人	563人（65.2%）	300人（34.8%）

項目 年度	歯周ポケット				歯肉出血		
	なし	浅いポケット	深いポケット	その他	なし	あり	その他
令和5年度	592人（68.6%）	259人（30.0%）	12人（1.4%）	0人（0%）	400人（46.3%）	463人（53.7%）	0人（0%）

項目 年度	歯牙の状況（値はすべて1人平均歯牙本数）					
	現在歯	健全歯	未処置歯	処置歯	要補綴歯	欠損補綴歯
令和5年度	28.3本	22.0本	0.9本	5.4本	0.1本	0.1本

項目 年度	総 合 判 定		
	健 康	要指導	要治療
令和5年度	168人（19.5%）	224人（26.0%）	471人（54.6%）

(3) 1歳6か月児歯科健康診査

ア 目 的

乳前歯が萌出し、子供の歯の健康に関心が高まるこの時期に、歯科疾患の予防と早期発見・早期治療につとめ、家庭で子供の歯科疾患の予防ができるよう、更なる知識の普及をはかる。

イ 内 容

(ア) 歯科健診・相談

(イ) フッ化物塗布

(ウ) 集団・個別指導

ウ 対 象 市内在住の1歳6か月児（992人）

エ 実施回数 年36回

オ 周知方法

(ア) 個別通知

(イ) 広 報

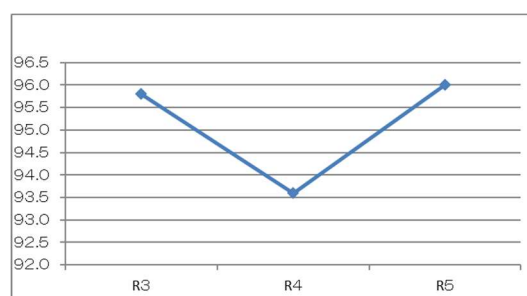
カ 健診結果

区分 年度	対象数 (人)	受診数 (人)	受診率 (%)	う蝕本数（本）			う蝕なし（人）		
				総本数	処置歯数	1人平均本数	Ｏ１型	Ｏ２・要指導	Ｏ２・要観察
3	1073	1028	95.8	46	0	0.04	499	48	467
4	1049	982	93.6	37	0	0.04	490	30	453
5	992	952	96	8	0	0.01	454	48	448

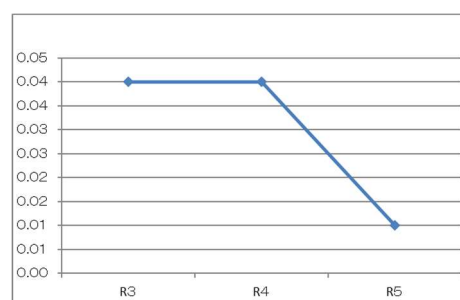
区分 年度	う蝕あり（人）					指しゃぶりの ある者（人）	歯列・咬合異常 のある者（人）	軟組織異常 のある者（人）
	A型	B型	C型	合 計	う蝕罹患率			
3	12	1	1	14	1.40%	29	99	87
4	7	1	1	9	0.90%	24	114	95
5	1	1	0	2	0.20%	23	89	110

区分 年度	その他の異常 のある者（人）	フッ化物塗布 実施数（人）	飲み込めない・丸飲み			食事時、足裏が床についている		水分を飲む時に使用するもの		
			ない	時々	いつもある	はい	いいえ	コップ	ストローマグ	その他
3	19	936	518	445	65	628	400	446	561	21
4	19	879	518	420	44	666	316	414	532	36
5	20	850	489	409	54	681	271	456	458	38

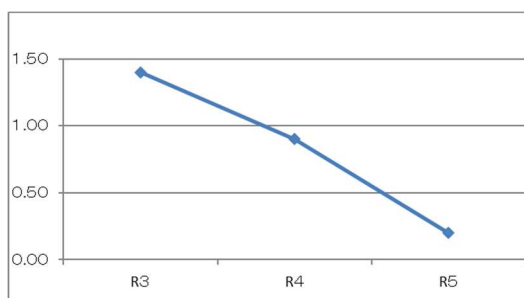
グラフ 1 受診率の推移



グラフ 2 1人平均のう蝕本数の推移



グラフ 3 う蝕罹患率の推移



(4) 2歳3か月児歯科健康診査

ア 目 的

乳臼歯が萌出しはじめ、う蝕が増加するこの時期に、歯科疾患予防のための正しい生活習慣を身につけ、歯科疾患予防に関する意識の向上を図る。

イ 内 容

(ア) 歯科健診・相談

(イ) フッ化物塗布

(ウ) 個別歯科保健指導

ウ 対 象 市内在住の2歳3か月児(995人)

エ 実施回数 年24回

オ 周知方法

(ア) 個別通知

(イ) 広 報

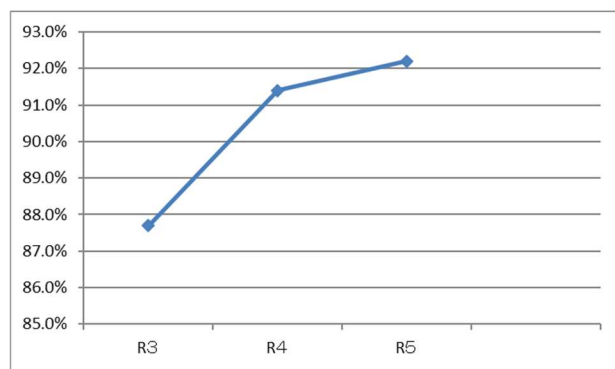
カ 健診結果

区分 年度	対象数 (人)	受診数 (人)	受診率 (%)	う蝕本数(本)			う蝕なし(人) O型
				総本数	処置歯数	1人平均本数	
3	1099	964	87.7	75	3	0.08	937
4	1009	922	91.4	77	0	0.08	902
5	995	917	92.2	84	2	0.09	893

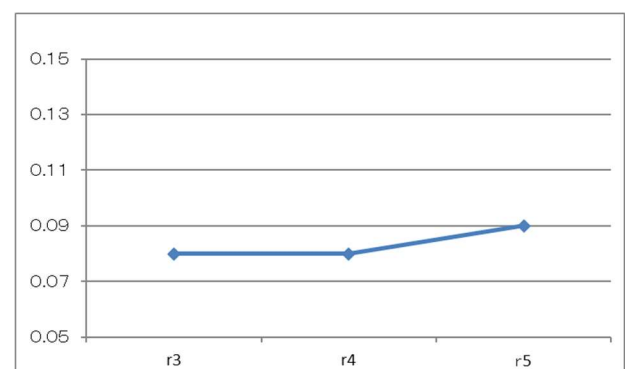
区分 年度	う蝕あり(人)						指しゃぶりの ある者(人)	歯列・咬合異常 のある者(人)
	A型	B型	C1型	C2型	合 計	う蝕罹患率		
3	23	4	0	0	27	2.80%	54	185
4	12	7	0	1	20	2.00%	46	131
5	16	5	0	3	24	2.60%	54	165

区分 年度	軟組織異常 のある者(人)	その他の異常 のある者(人)	フッ化物塗布 実施数(人)
3	60	24	854
4	64	30	791
5	64	29	774

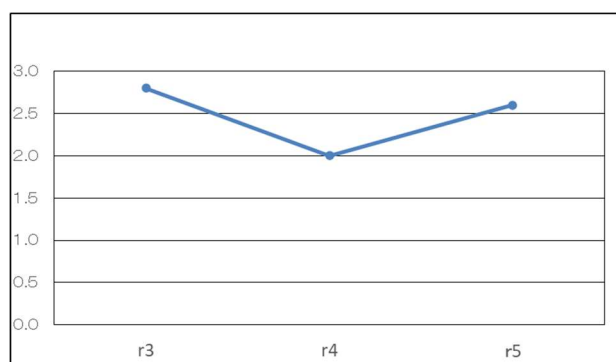
グラフ 1 受診率の推移



グラフ 2 1人平均のう蝕本数



グラフ 3 う蝕罹患率の推移



(5) 3 歳児歯科健康診査

ア 目 的

乳歯列完成期にあたるこの時期に、歯科疾患を予防するための生活習慣の定着状況について確認し、今後萌出してくるであろう永久歯も含めて歯科疾患の予防が家庭ぐるみでできるよう支援する。

イ 内 容

(ア) 歯科健診・相談

(イ) フッ化物塗布

(ウ) 個別指導

ウ 対 象 市内在住の 3 歳児 (1,028 人)

エ 実施回数 年 36 回

オ 周知方法

(ア) 個別通知

(イ) 広 報

カ 健診結果

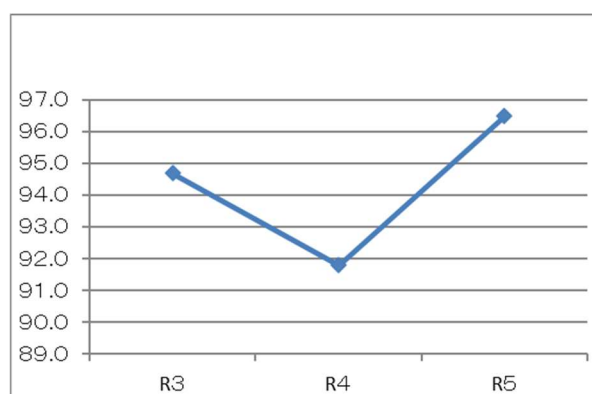
区分 年度	対象数 (人)	受診数 (人)	受診率 (%)	う蝕本数 (本)			う蝕なし (人) O 型
				総本数	処置歯数	1 人平均本数	
3	1,157	1,096	95	340	29	0	1,011
4	1,142	1,048	92	209	18	0	985
5	1,028	992	97	258	18	0	930

区分 年度	う蝕あり (人)						指しゃぶりの ある者 (人)	歯列・咬合異常 のある者 (人)
	A 型	B 型	C 1 型	C 2 型	合 計	う蝕罹患率		
3	52	28	0	5	85	7.8%	63	188
4	45	16	0	2	63	6.0%	66	184
5	34	20	4	4	62	6.3%	55	179

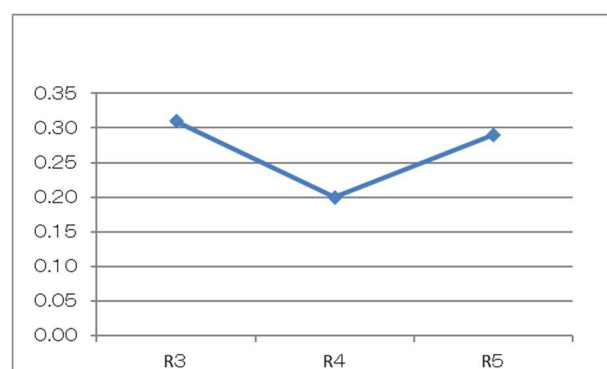
区分 年度	軟組織異常の ある者 (人)	その他の異常 のある者 (人)	フッ化物塗布 実施数 (人)	飲み込めない・丸飲み			食事時、足裏が床についている	
				ない	時々	いつもある	はい	いいえ
3	55	15	908	771	311	14	812	284
4	47	32	869	773	264	11	839	209
5	60	22	816	726	245	21	800	192

区分 年度	口を閉じて食べる	
	はい	いいえ
3	967	129
4	920	128
5	885	107

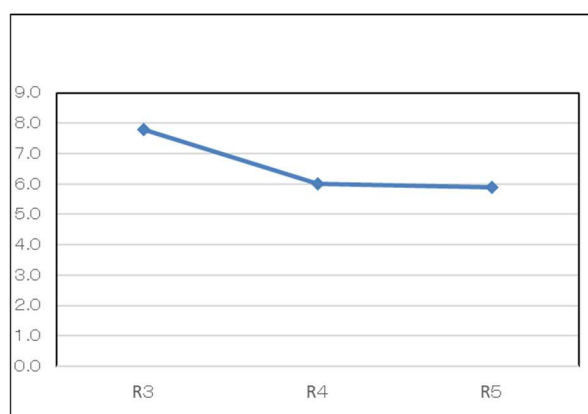
グラフ 1 受診率の推移



グラフ 2 1人平均のう蝕本数



グラフ 3 う蝕罹患率の推移



(6) 離乳食教室：後期かみかみ教室

ア 目 的

乳歯が萌出しはじめ、食事の内容が変化する時期にあたる児とその保護者に対し、口腔内に関心が高い時期を捉え、むし歯予防や口腔機能の発達に関する知識の普及を図り、歯・口腔の健康に向けた意識の向上及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 内 容

離乳食教室内での歯科講話

ウ 対 象

市内住民登録のある 9 か月以降の児とその保護者

エ スタッフ

歯科衛生士(1 名)

オ 参加状況 (人)

4月21日	5月26日	6月23日	7月21日	8月25日	9月22日	10月20日	11月17日	12月22日	1月26日	2月16日	3月15日
4	4	6	1	4	7	3	5	5	4	3	6

合計 52 人 (年 12 回)

(7) にこにこむし歯予防教室

ア 目 的

1歳前後は、乳歯が萌出し、食事の内容が変化する時期であるため、母子ともに生涯にわたる健康の基礎となる理想的な生活習慣づくりのため非常に重要な時期である。育児相談を利用されるお子さんとその保護者に対し、乳前歯が萌出し、口腔内に関心が高まる時期に、生活習慣・歯口清掃等のむし歯予防のポイントを助言するとともに、口腔機能に関する知識の啓発を図り、歯や歯肉の健康等に対する意識の向上及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 内 容

個別相談

ウ 対 象

市内住民登録のある乳幼児とその保護者

エ スタッフ

歯科衛生士(2名)

オ 参加状況 (年12回開催)

実施日	参加者数 (実人数)	相 談 項 目								合計
		歯みがき	歯並び	母乳	ミルク (哺乳ビン)	飲み物	フッ化物の 応用	おやつ	その他	
4月24日	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
5月30日	5	5	1	0	2	1	1	0	1	11
6月19日	8	6	1	0	0	1	0	0	5	13
7月7日	2	1	2	1	0	0	1	1	2	8
8月7日	12	10	6	1	2	3	2	0	1	25
9月1日	6	4	4	2	0	1	1	0	2	14
10月31日	5	5	2	1	1	0	4	3	2	18
11月13日	3	3	2	1	0	0	2	0	2	10
12月21日	5	5	2	0	0	0	0	1	2	10
1月22日	5	4	1	0	0	0	2	0	8	15
2月15日	6	5	0	1	1	3	2	1	0	13
3月1日	7	6	3	0	1	1	1	1	1	14
計(人)	65	54	24	7	7	10	16	7	27	152

カ 相談内容及び相談延べ件数

相談内容	述べ件数
歯みがき	54
歯並び	24
母乳	7
ミルク(哺乳ビン)	7
飲み物	10
フッ化物の応用	16
おやつ	7
その他	27
計	152

(8) 保育園歯みがき教室

ア 目 的

第一大臼歯が萌出しはじめる時期の子供たちに、自分で歯を健康に保つ為の習慣や知識を身に付けさせるとともに、保護者に歯科疾患予防に関して学習する機会を作り、8020を達成する為に必要とされる『第一大臼歯』を親子で保護育成できるように支援する。

イ 内 容

(ア) 園児への健康教育（むし歯予防のお話、食事のお話）

(イ) ブラッシング指導

(ウ) 保護者への健康教育

(エ) 質疑応答

ウ 対 象 市内保育園に通園している園児とその保護者

エ スタッフ 歯科衛生士、栄養士

(保健センター、幼児教育保育課)

オ 実施状況

実施日	園 名	園児数(人)
5月16日(火)	岩崎	76
6月1日(木)	北里	48
6月7日(水)	さくら	26
6月8日(木)	篠岡	67
6月9日(金)	村中	49
6月13日(火)	第二	72
6月14日(水)	小木	54
6月15日(木)	大山	81
6月16日(金)	古雅	42
6月19日(月)	本庄	29
6月20日(火)	三ツ淵	39
6月21日(水)	味岡	131
6月23日(金)	みなみ	43
6月27日(火)	レイモンド小牧	44
6月28日(水)	じょうぶし	87
6月29日(水)	一色	56
7月4日(火)	藤島	28
7月6日(木)	大城	40
7月11日(火)	山北	112
7月12日(水)	三ツ淵北	42
7月13日(木)	陶	31
計	21保育園	1197

(9) 8020 歯っぴースマイル！歯みがき教室

ア 目 的

学校歯科保健活動を支援し、小牧の子どもたちが健康な歯でいつまでも健やかに過ごすことができるよう歯科健康教育等を実施し、知識の普及及び行動変容を促すことを目的とする。

イ 内 容

(ア) 歯科健康教育

(イ) 歯みがき指導

ウ 対 象 本事業を希望する市内小学校の児童
(小学4年生)

エ 実施状況

	実 施 日	学校名	児童数(人)
1	6月6日	光ヶ丘小学校	55
2	6月7日	大城小学校	52
3	6月9日	桃ヶ丘小学校	64
4	6月15日	三ツ渕小学校	53
5	6月16日	一色小学校	82
6	6月20日	味岡小学校	153
7	6月23日	本庄小学校	91
8	7月12日	陶小学校	28
9	9月11日	村中小学校	51
10	9月28日	篠岡小学校	45
11	9月29日	小牧原小学校	112
12	12月11日	小牧小学校	125
13	12月20日	北里小学校	94
14	2月6日	米野小学校	131
15	3月4日	小牧南小学校	165
計	計	15校	1301

(10) 学校歯科健診

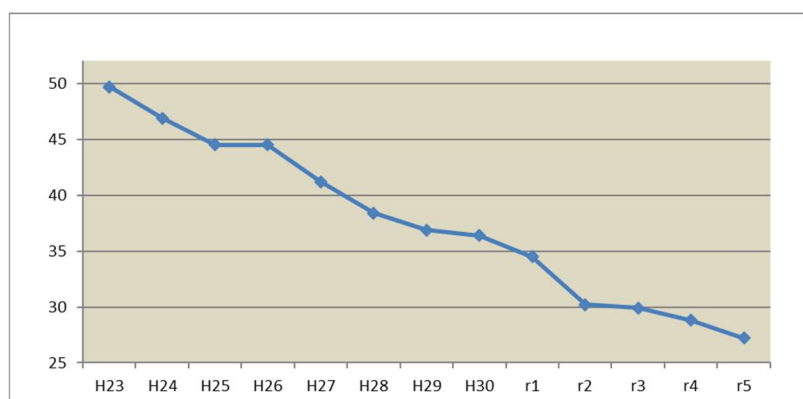
ア 小学校

年度	区分	受診数 (人)	う歯なし (人)	う蝕のあるもの			う蝕罹患率 (%)
				未置歯あり (人)	処置完了者 (人)	計	
1		8,466	5,547	1,420	1,499	2,919	34.5
2		8,317	5,803	1,230	1,284	2,514	30.2
3		8,244	5,777	1,293	1,174	2,467	29.9
4		7,951	5,659	1,116	1,176	2,292	28.8
5		7,646	5,564	1,093	989	2,082	27.2

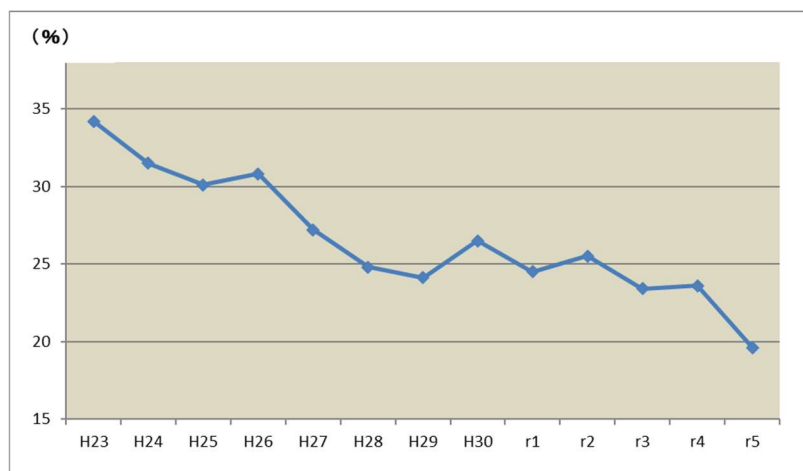
イ 中学校

年度	区分	受診数 (人)	う歯なし (人)	う蝕のあるもの			う蝕罹患率 (%)
				未置歯あり (人)	処置完了者 (人)	計	
1		4,105	3,098	375	632	1,007	24.5
2		4,084	3,097	362	625	987	24.2
3		4,160	3,186	364	610	974	23.4
4		4,023	3,073	342	608	950	23.6
5		4,018	3,232	303	483	786	19.6

グラフ 1 う蝕罹患率の推移【小学校】



グラフ 2 う蝕罹患率の推移【中学校】



(11) 歯周病予防個別健診

ア 目 的

青年期の歯科疾患、特に歯周疾患を早期に発見することはもとより、有益な歯科保健情報を提供することで市民の歯科保健行動の向上を促すとともに、かかりつけ歯科医による系統的な歯科保健医療との連携を推進することにより、市民の口腔機能の保持推進を図り、生涯にわたり自分の歯で豊かな食生活の実現を図る。

イ 内 容

(ア) 歯科健診

(イ) 個別歯科保健指導

ウ 対 象 当該年度に 20・25・30・35 歳の誕生日を迎える市民(6,793 人)

エ 実施回数 対象者 1 人につき 1 回
(受診期間 令和 5 年 6 月 1 日～令和 6 年 2 月 14 日)

オ 周知方法

(ア) 広 報

(イ) 個別通知

カ 健診結果

	受診数 (人)	対象者数 (人)	歯牙の状況(本)					
			1 健全歯	2 処置歯	3 未処置歯	現在歯(1+2+3)	欠損歯	欠損補綴歯
20歳	81	1,598	2,088	153	74	2,315	0	0
25歳	79	1,861	1,915	254	113	2,282	0	0
30歳	90	1,675	1,974	456	145	2,575	5	1
35歳	106	1,659	2,306	616	88	3,010	2	3

	歯周ポケット(人)				歯肉出血(人)		
	健全	浅いポケット	深いポケット	その他	なし	あり	その他
20歳	43	33	5	0	28	53	0
25歳	43	32	4	0	29	50	0
30歳	43	37	10	0	30	60	0
35歳	43	53	10	0	37	69	0

	清掃状態(人)			むし歯(人)		要補綴歯(人)	
	良好	ふつう	不良	なし	あり	なし	あり
20歳	17	49	15	59	22	79	2
25歳	16	53	10	52	27	79	0
30歳	20	58	12	54	36	88	2
35歳	19	76	11	71	35	103	3

	総合判定（人）		
	異常なし	要指導	要精検
20歳	8	23	50
25歳	7	23	49
30歳	6	13	61
35歳	10	22	74

(12) いきいき世代個別歯科健診

ア 目 的

歯周疾患と全身疾患との関係に着目し、節目の年齢に該当する市民に対し、近隣の歯科医院に受診しやすい環境を作り、歯周疾患の予防と早期発見・早期治療を促すとともに、日ごろの生活習慣を振り返る機会を設け、有益な歯科保健情報を提供することで市民の歯科保健行動の向上を図る。また、かかりつけ歯科医による系統的な歯科保健医療との連携を推進することにより、市民の口腔機能の保持・増進を図り、生涯にわたり自分の歯で豊かな食生活を送ることができるよう支援する。

イ 内 容

(ア) 歯科健診

(イ) 個別歯科保健指導

ウ 対 象 40・45・50・55・60・65・70・75・80歳の市民
(17,692人)

エ 実施回数 対象者1人につき1回
(受診期間 令和5年6月1日～令和6年2月14日)

オ 周知方法

(ア) 広 報

(イ) 個別通知

カ 健診結果

受診数(人)		対象者数	歯牙の状況(本)					
			1健全歯	2処置歯	3未処置歯	現在歯(1+2+3)	欠損歯	欠損補綴歯
40歳	104	1,880	1,905	947	83	2,935	6	5
45歳	132	2,178	2,180	1,488	58	3,726	7	23
50歳	164	2,691	2,485	1,999	109	4,593	20	38
55歳	155	2,226	2,308	1,883	80	4,271	35	76
60歳	153	1,749	1,932	2,108	80	4,120	39	148
65歳	159	1,470	1,935	2,141	83	4,159	42	232
70歳	153	1,711	1,589	2,014	109	3,712	157	368
75歳	199	2,241	1,906	2,737	148	4,791	120	647
80歳	117	1,546	1,163	1,482	68	2,713	106	424
計	1,336	17,692	17,403	16,799	818	35,020	532	1,961

	歯周ポケット				歯肉出血		
	健全	浅いポケット	深いポケット	その他	なし	あり	その他
40歳	42	45	17	0	37	67	0
45歳	51	61	20	0	46	86	0
50歳	57	77	30	0	46	118	0
55歳	57	58	40	0	55	100	0
60歳	52	69	32	0	56	97	0
65歳	44	71	43	1	54	104	1
70歳	45	62	45	1	50	102	1
75歳	50	68	79	2	65	132	2
80歳	29	49	34	5	37	75	5
計	427	560	340	9	446	881	9

	清掃状態(人)			むし歯		保健指導	
	良好	ふつう	不良	なし	あり	未実施	実施
40歳	20	73	11	71	33	0	104
45歳	33	80	19	100	32	0	132
50歳	27	121	16	120	44	0	164
55歳	22	114	19	122	33	0	154
60歳	32	106	15	116	37	1	152
65歳	30	114	15	118	41	1	158
70歳	25	107	21	109	44	1	153
75歳	41	140	18	147	52	0	199
80歳	22	77	18	90	27	0	114
計	252	932	152	993	343	3	1,330

健診結果			
	異常なし	要指導	要精検
40歳	9	26	69
45歳	6	33	93
50歳	6	29	129
55歳	8	35	112
60歳	6	36	111
65歳	7	26	126
70歳	8	17	128
75歳	15	25	159
80歳	16	20	91
計	81	247	1,018

(13) ヤング健診・結果説明会

ア 目 的

- ・健康と毎日の生活習慣を振り返るきっかけとして若い世代を対象に実施するヤング健診開催時にこの世代に急増する歯周病についての正しい知識を学び、歯・口腔の健康に保持、増進に寄与することを目的とする。
- ・後日開催される結果説明会において、その後の行動変容を確認するとともに、改善点などを確認し、歯・口腔の健康づくりに向けた支援を行うことを目的とする。

イ 内 容

歯科衛生士による個別歯科指導

ウ 対 象

小牧市に住民登録のある 35 歳から 39 歳までの方で、事業所等で健診を受ける機会のない方

エ スタッフ

- ・ヤング健診開催時：歯科衛生士(4名)
- ・ヤング健診結果説明会開催時：各日 1 名(16 日開催)

オ 実施状況

- ・ヤング健診 (人)

実施日	受診者数	歯の健康づくり得点			気になる症状		お口の健康のための心がけ		定期健診の有無	
		0～10点	11～15点	16点以上	ある	ない	ある	ない	受けている	受けていない
8月21日	53	8	24	21	27	26	51	2	32	21
9月19日	53	5	23	25	21	32	45	8	31	22
11月2日	50	6	24	20	23	27	45	5	25	25
12月16日	29	5	15	9	19	10	27	2	13	16
計(人)	185	24	86	75	90	95	168	17	101	84

- ・ヤング健診結果説明会 (人)

		男	女	計
参加者数		36	104	140
歯科健診 受診の有無	あり	21	75	96
	なし	15	29	44
行動変容	あり	21	51	72
	なし	15	53	68

(14) 知って得するフレイル予防講座～おくち編～(介護予防事業)

ア 目 的

口腔機能向上や口腔ケアに関する知識の普及啓発を、高齢者にとって身近な場所で行うことにより、高齢者自身が口腔の健康の保持・増進に向けた健康づくりに取り組み、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

イ 対 象

- ・小牧市在住の60歳以上の方
- ・施設を利用する老人クラブの団体及び個人で施設を利用している方

ウ スタッフ 歯科衛生士1名

エ 内 容 ①講話：口腔機能について等
②実技：自宅で実施できる口腔機能向上トレーニング、健口体操

開催日	会場	参加者数(人)
4月7日	ラピオ5階	19
5月19日	ラピオ5階	17
6月2日	ラピオ5階	8
6月13日	東部市民センター	11
7月7日	ラピオ5階	17
7月25日	サンビレッジ	5
8月4日	ラピオ5階	15
9月1日	ラピオ5階	11
10月6日	ラピオ5階	13
10月24日	田島の郷	8
11月21日	田島の郷	7
11月24日	ワクティブこまき	7
12月1日	ラピオ5階	15
12月12日	サンビレッジ	5
1月5日	ラピオ5階	10
1月23日	田島の郷	10
2月2日	ラピオ5階	8
2月20日	田島の郷	7
2月27日	東部市民センター	4
3月1日	ラピオ5階	12
計	市内3会場	209

(15) アクティブシニア応援セミナー

ア 目 的

口腔が健康な状態と口腔機能が低下した状態の狭間にある「オーラルフレイル」にならないよう、元気なうちから予防に向けた正しい知識を普及啓発し、その人らしい健康づくりを応援し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

イ 対 象

概ね 50 歳以上の市民

ウ スタッフ

歯科衛生士 1 名

エ 内 容

①講話：口腔機能について等

②実技：自宅で実施できる口腔機能向上トレーニング、健口体操

オ 会場

ラピオ 2 階 ワクティブこまき

カ 実施状況 参加人数（延べ）

開催日	参加人数（人）
6月27日	7
11月28日	3

(16) 健康づくり応援隊☆認定講座

ア 目 的

口腔が健康な状態と口腔機能が低下した状態の狭間にある「オーラルフレイル」にならないよう、元気なうちから予防に向けた正しい知識を普及啓発し、その人らしい健康づくりを応援し、元気で生き生きとした潤いのある暮らしを続けていくことができるよう支援することを目的に実施する。

イ 対 象

市民活動団体の代表者

ウ スタッフ

歯科衛生士 1 名

エ 内 容

①講話：口腔機能について等

②実技：自宅で実施できる口腔機能向上トレーニング、健口体操

オ 会 場

ラピオ 2 階 ワクティブこまき

カ 実施状況 参加者数（延べ）

開催日	参加人数（人）
8月29日	17
1月30日	10

(17) 防ごう誤嚥性肺炎！これであなたも歯（し）あわせ講座（出前講座）

ア 目 的

歯周疾患と全身疾患との関係に着目し、歯科疾患の予防や口腔機能の向上に関する知識の普及啓発を行い、個々に応じた取組みを促し、生涯にわたり口腔の健康の保持・増進を図るとともに、健康寿命の延伸に寄与することを目的とする。

イ 対 象

小牧市内の老人クラブの会員、保健連絡員活動、地域3あい事業の出前講座等、市内各地区のおおむね60歳以上で構成される団体

ウ スタッフ

歯科衛生士1名

エ 実施内容

いつまでも自分の歯で美味しく元気に食べるため、口腔ケアの方法や摂食嚥下、食事内容等についての健康教育を行い、家庭で気軽に実践できる健口体操を行う。

オ 参加者数

309人（年12回）

(18) フレイル改善個別相談

ア 目 的

年齢が増すごとに生じる認知症や心身の虚弱化(フレイル)の重症化を防ぎ、市民がいくつになっても健康で生き生きとした毎日を過ごすことができるよう、個々の口腔内の状態に応じた個別指導を行い、心身の健康状態の維持・増進に寄与することを目的とする。

イ 対 象

- ・小牧市在住の60歳以上の方
- ・専門職より、フレイル改善に向けた個別相談が必要と判断された方（介護認定非該当者）

ウ スタッフ 歯科衛生士1名

エ 内 容 問診を行い、状態に応じた個別歯科保健指導を実施

開催日	会場	参加者数（人）
7月20日	小針の郷	2
7月27日	野口の郷	4
8月23日	小針の郷	0
8月31日	野口の郷	0
9月14日	小針の郷	4
9月29日	野口の郷	2
10月12日	小針の郷	4
10月23日	野口の郷	2
11月8日	野口の郷	2
11月20日	小針の郷	3
12月7日	田島の郷	3
12月18日	小針の郷	3
12月18日	野口の郷	2
1月11日	野口の郷	3
1月29日	田島の郷	3
1月31日	小針の郷	4
2月16日	小針の郷	2
2月19日	野口の郷	2
2月29日	田島の郷	2
3月11日	田島の郷	2
計		49

(19) 歯の健康相談

実施日時	場 所	内 容	相談者数（件）		
			乳幼児	成人	計
毎週月曜日 午前9時～12時 午後1時～4時	保健センター	歯の健康相談	11	3	14

（相談内容）

【乳幼児】

- ・仕上げみがきについて
- ・歯並びについて
- ・むし歯が多い
- ・歯みがき剤について
- ・歯科医院でのフッ化物塗布について

【成人】

- ・親知らずの痛みについて
- ・歯科受診について

(20) 歯科電話相談

ア 年代別相談件数

（人）

	乳児	幼児	学童	妊婦	成人	その他	計
R2	22	19	2	0	25	—	68
R3	34	24	2	0	6	1	67
R4	23	17	0	0	4	0	44
R5	9	21	0	0	2	0	32

イ 相談内容内訳

（件）

	歯科治療	歯みがき	歯科受診について	母乳	食生活	指しゃぶり おしゃぶり	歯の 生え方	フッ化物利用について	歯並び	その他
R1	13	55	5	2	1	1	10	20	5	4
R2	20	40	5	2	2	2	2	9	3	14
R3	5	47	5	2	1	1	10	17	5	0
R4	5	34	0	3	0	3	3	15	9	1
R5	1	29	0	0	1	0	4	10	1	1

(21) 歯科健康教育

ア 成人対象健康教育

実施日時		対 象	内 容	参加者数(人)
R 5	5月12日	小牧市介護認定調査員	口腔ケア、オーラルフレイルについて	76
	5月26日	北里ゆうゆうつつじ合同学級	口腔ケア、オーラルフレイルについて	28
	7月28日	小牧市民文化財団	口腔ケア、歯周病について	20
	8月2日	R 5 新規採用職員	歯科保健事業で行っている協働事業について	30
	8月21日	北里地区保健連絡員	口腔ケア、歯周病、オーラルフレイルについて	25
	9月22日	桜井いきいきサロン	オーラルフレイルについて	30
	11月17日	市内在住・在勤者	口腔ケア、オーラルフレイルについて	30
	12月1日	食生活改善協議会	口腔ケア、オーラルフレイルについて	8
合 計				247

イ 母子対象健康教育

実施日時		対 象	内 容	参加者数(人)
R 5	5月17日	第一幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	81
	5月29日	篠岡中学校1年生	歯みがき指導、むし歯予防、歯周病について	52
	5月31日	小牧市立保育園保育士等	口腔機能の発達、フッ化物洗口について	37
	6月2日	あおぞら幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	53
	6月6日	旭ヶ丘第二こども園	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	56
	6月12日	とやまこども園	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	84
	6月19日	市之久田幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	89
	6月21日	小牧西中学校1年生	歯みがき指導、むし歯予防、歯周病について	80
	7月4日	北里中学校学校保健委員会	歯みがき指導、むし歯予防、歯周病について	35
	7月27日	岩崎中学校学校保健委員会	歯みがき指導、むし歯予防、歯周病について	27
	8月3日	口腔機能発達支援研修会 (幼稚園・保育園・児童館・学校関係職員)	子どもの口腔機能発達について	63
R 6	1月12日	名北ゼンヌ幼稚園	歯みがき指導、むし歯予防、口腔機能の発達について	126
	1月18日	母子保健関係職員研修 (子育て支援センター 及び児童館支援員対象)	子どもの歯科疾患 (う蝕、歯周病、口腔機能発達支援)と その予防について	10
	1月30日	応時中学校1年生	歯みがき指導、むし歯予防、歯周病について	219
合 計				1,012

ウ 花王グループ協働事業

実施日時		実施施設	講座	講座回数	参加者数(人)
R5	5月29日	本庄小学校 1～3年生	小学生対象歯みがき教室	3	267
	6月22日	光ヶ丘小学校	小学生対象歯みがき教室	4	221
	9月12日	大城小学校	小学生対象歯みがき教室	3	206
	11月2日	口腔がん検診	口腔ケアについて	1	34
	11月16日	一色小学校	小学生対象歯みがき教室	1	180
	11月30日	口腔がん検診	口腔ケアについて	1	31
	12月7日	小牧原小学校	小学生対象歯みがき教室	1	232
	12月7日	口腔がん検診	口腔ケアについて	1	36
合 計				15	1,207

(22) 訪問口腔衛生指導

ア 訪問日数及び件数

(ア) 訪問日数 0 日

(イ) 述べ件数 0 件

(ウ) 実人数 0 人

イ 往診手配実施件数 1 件

ウ 訪問指導内容内訳 (人)

被訪問者数	原因疾患		指 導 内 容				
	脳血管疾患	その他	歯 み が き に つ い て				洗口指導
			口腔内 チェック	歯の磨き方	歯をみがく 回数・時間	補助具の 使用方法	
0 (実人数0)	0 (実人数0)	0 (実人数0)	0	0	0	0	0

(人)

指 導 内 容						
義 歯 に つ い て				受 診 に つ い て		その他
清掃方法	保存方法	着脱方法	安定剤の使用 について	受診勧奨	往診手配	
0	0	0	0	0	0	0

エ 年齢別被訪問者数の内訳(延べ数) (人)

項 目	～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～79歳	80歳～	計
被訪問者数	0	0	0	0	0	0	0

オ 往診手配状況 (人)

件数	依頼元		主訴(重複あり)				
	本人・家族	ケアマネジャー	口腔内チェック	歯石除去	歯周病疑い	義歯不適合	う蝕疑い
1	1	0	1	0	0	0	0

(23) 8020表彰

ア 目 的

8020達成者に対し、その健康をたたえ、8020表彰事業を行い、本人のみならずその家族、友人、来場者の口腔内の健康に関する意識の向上を図る。

また、肺炎や糖尿病、心疾患などといった全身疾患と歯周病との関係について着目し、歯科に関する意識の向上を図り、ひいては全身疾患の予防を図ることで健康寿命の延伸に寄与する。

イ 対象者

- 1) 昭和 19 年 3 月 31 日以前の生まれの方
(市内住民登録のある方)
- 2) 歯が 20 本以上ある方
※上記 1)、2)に該当される方

ウ 表彰者数

244 名

(24) 歯の健康センター（～歯ピカピック2023～）

ア 目 的

- 1) 「6歳臼歯」が萌出し始める子ども達を対象に、「6歳臼歯」に興味を持たせ、歯の大切さを楽しみながら学ぶ機会とする。また、その家族に対して「6歳臼歯」の重要性を啓発し、親子で8020達成に向け「6歳臼歯」の保護育成に取り組むことができるよう支援する。
- 2) 保護者に対し、成人期の歯科疾患、特に歯周疾患の早期発見・早期予防につなげるべく普及啓発を行い、保護者自身の意識の向上を促すとともに親子で8020を達成することができるよう支援する。
- 3) 健康な歯で、食べ物をよく噛んで味わい、素材そのものの美味しさを感じ、家族で楽しく食事を大切さについて普及啓発を行い、親子で食生活習慣について振り返ることができるよう支援する。

イ 対 象

小学6年生までの子ども（小牧市に住民登録のある方）

ウ 開催日及び参加者数

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止

(25) 口腔がん検診

ア 目 的

口腔がんの早期発見・早期治療につなげるとともに市民の口腔がんに対する意識の向上を図ることを目的とする。

イ 内 容

(ア) 問診

(イ) 口腔がん検診

(ウ) 結果説明

ウ 対 象

50歳以上の市民（1回の定員は30名）

エ スタッフ

1回につき歯科医師8名（3日間開催）

オ 周知方法

(ア) 広報

(イ) HP

(ウ) 公式 LINE、Twitter、Facebook

カ 募集方法

インターネット、電話

キ 実施状況

（人）

実施日	開催時間	実施場所	応募者数	参加者数	再精検該当者数
11月2日	13：00～16：00	保健センター	151	101	10
11月30日	13：00～16：00	保健センター			
12月2日	13：00～16：00	保健センター			

第9 地区組織活動

第 9 地 区 組 織 活 動

1 保健連絡員活動

保健連絡員は、地域と保健行政のパイプ役であり、自分や家族、地域の健康に関心を持ち、少子高齢化社会において健康に関する様々な問題に対応できる地域づくりの担い手として、地域の状況に応じた健康づくりにつとめることを目的に設置されている。

保健連絡員は、20歳以上の市内在住者で各区の世帯数に基づく設置基準に沿って区長推薦にて選出されている。地区の状況に応じ、個人での活動から健康づくりに関する行事の企画や、学習などに取り組んでいる。

(1) 保健連絡員設置数

129行政区中122区設置 245名

年度	設置区	人数	設置率
令和5年度	122区	245人	94.6%
令和4年度	121区	244人	93.8%
令和3年度	121区	241人	93.8%

(2) 保健連絡員会議

月日	行事名	内容	参加者数 (人)
令和5年 4月27日(木)	保健連絡員 総会	1議題 ① 令和4年度保健連絡員活動報告について ② 令和5年度保健連絡員活動計画について 2新役員紹介	179

(3) 個人活動

ア 目 的

地域住民が健康で生き生きと、安心して生活できるよう、地域で見守りや声かけを行ったり、健康づくり、介護予防、健診・検診、子育てなどのサービスの利用が望ましいと思われる地域住民に事業内容を紹介したり、必要に応じて保健センターへつなげる。（介護予防、家族・育児支援など）

イ 内 容

(ア) 地域での個人活動

(人)

活動内容	実施報告人数
近所の方への声かけや見守り	91
近所の方の話を聞く、相談を受ける	45
近所の方や赤ちゃん訪問した親子の相談や様子を保健センターへ報告する	58
保健連絡員活動や学習したことを家族や近所の方、友達へ伝える	119
赤ちゃん訪問の実施	111
地域活動(3あい事業、地区の行事等)への参加	105

(イ) 健康づくりに関する事業の案内・参加勧奨

(人)

活動内容	実施報告人数
がん検診の受診を勧める	79
健康診査の受診を勧める(特定健診や歯科健診)	81
ヤング健診の受診を勧める	20
保健センター事業の紹介や参加を勧める	63
ウォーキングアプリalkoの紹介	53
保健センター事業に関するチラシの回覧や配布	108

(ウ) グループ活動や区での活動に関すること

活動内容	実施報告人数
グループで開催した健康展や講座等のPR	117
グループで学習したことを地域の方へ伝える	54
保健連絡員活動について区長へ挨拶、報告に行く	101
区で講座等を開催するために区長や地区の方へ相談する	47
保健連絡員活動や学習したことを区の集まりなどで報告する	57

(4) 地区活動

ア 目 的

健康に関する講話などを各地で企画し、地域住民の健康意識を高める。

イ 対 象

地域住民

ウ 講 師

保健師、栄養士、歯科衛生士、看護師、運動指導士等

エ 実施内容・参加者数(グループ別)

【Aグループ・小牧南地区】

区	時期	企画内容	参加者
南外山	11月5日	三世代交流 健康測定会：体組成、握力、骨密度	55人
桜井	5月25日	ヤクルト健康教室「転倒予防で毎日いきいき」	36人
	10月20日	にこにこ赤ちゃんとママ友交流会	25人
	11月18日	楽しく歩こう会(3あい事業)	20人
	2月19日	骨盤底筋エクササイズ	20人
北外山県住	毎月	やすらぎカフェまごころにて 「牧連体操ズンドコ」の実施	20人
大山	毎月	大山神社カフェ レクリエーション担当	参加者カウントなし
	10月28日	ミニ健康まつり	50人
米野	4月19日	3あい事業 防災の話 棒体操	44人
	5月17日	3あい事業 認知症予防の話 牧連体操ズンドコ お口の体操 トランプ	43人
	6月21日	3あい事業 ゴミの話 棒体操	46人
	7月19日	3あい事業 ゲーム おたのしみ 牧連体操ズンドコ	42人
	8月23日	3あい事業 救命救急の話 ラジオ体操	45人
	9月20日	3あい事業 じいちゃんばあちゃんの会 リトミック等	48人
	10月25日	3あい事業 健康チェック	51人
	11月15日	3あい事業 介護保険について 棒体操	48人
二重堀	11月1日	3あい事業 ミニ健康展 出前講座「骨盤エクササイズ」 測定（体組成・握力） がん検診の案内配布	50人

【Bグループ・小牧地区】

区	時期	企画内容	参加者
朝日	9月16日	認知症について	7人
上新町	9月24日	ミニ健康展	14人
小牧原中	9月22日	ミニ健康展(身長、体重、体組成、握力、骨密度、血圧測定) 講話「いつまでも健康でいられるには」	27人
小牧原西	毎月隔週月曜日	こまき山体操	20人
小牧原北	毎月第2金曜日	子育て広場	3～6人
	6月19日	身体測定	10人(5組)
	6月21日	ミニ健康まつり	25人
小牧原南	11月14日	ミニ健康展	27人
東野	11月15日	第1回ウォーキング	22人
	12月20日	第2回ウォーキング	15人
西町	2月11日	ミニ健康展	30人
安田	6月18日	赤ちゃん交流会	3組
間々原	6月25日	ミニ健康展	35人

【Cグループ・巾下地区】

区	時期	企画内容	参加者
舟津	毎月第3火曜日 (8月除く)	おひまちサロン	約40人
三ツ渕原団地	10月27日	いきいきサロン絆の会 健康講座「口腔の健康について」	約30人
西之島	7月29日	盆踊り 牧連体操ズンドコ	300～400人
	10月7日	3あい事業 健康教室	60人
村中	毎月第2木曜日	サロン 牧連体操ズンドコ、口腔体操を実施	約34人
	11月11日	ウォーキング	32人
間々	6月20日	子育てサロン	10人
	12月13日		11人
	2月21日		参加者カウントなし

【Dグループ・味岡地区】

区	時期	企画内容	参加者
東田中	9月14日	3あい事業「ひまわり学級」出前講座 「防ごう誤嚥性肺炎！これであなたも歯	24人

		(し)あわせ講座」	
小松寺	11月15日	子育て広場「親子ふれあい広場」実施 「笑いヨガ」講座、身体測定、育児相談	19人
小松寺団地	12月13日	ヘルシー教室	32人
本庄	9月10日	3あい事業「ミニ健康展」 (ストレス測定、足裏フォトチェック、血管推定年齢、フレイル予防)	28人
	10月15日	本庄区民まつり「あつまれ！本庄」 (保健連絡員の一年のまとめ、歩歩よせての掲示)	171世帯
タウン本庄	11月16日	出前講座「転ばぬ先の転倒予防教室」	4人
岩崎東	11月6日	だるまの会「タオルを使って楽しい体操」 骨粗鬆症の予防講話	30人
	1月8日	だるまの会「豚汁で幸福な一杯を」調理実習 「簡単フレイル予防講座」の説明、チラシ配布	30人
南岩崎台	毎週火曜日	ふれあいサロン華陽会 ラジオ体操第1、牧連体操ズンドコ	15～20人
	6月20日	ヤクルト健康教室「おなか元気教室」	約20人
	7月22日 ～29日	夏休みラジオ体操	延342人
	7月27日	夏祭り盆踊りの練習	30人
	11月3日	三世代交流会 グランドゴルフ	48人
	2月17日	南岩崎台ミニ健康展	47人
岩崎原	12月19日	3あい事業 講話「めざせ健康長寿～今からできること～」	20人
久保一色本田	7月5日	3あい事業 健康教室 認知症への理解と認知症予防、転倒予防体操等	20人
久保	7月21日 ～27日	ラジオ体操	63人
	9月12日	ミニ健康展 骨密度測定	24人
	9月22日	健康講座(フレイルの予防と対策、運動の実施)	12人
	11月5日	歩け歩け大会	29人

【Eグループ・東部地区】

区	時期	企画内容	参加者
野口大山	2月8日	「いつまでも元気でいたい人のため～人生100年イキイキ生きる」(体力測定、健康体操)	13人
野口	毎月	いきいきサロン ラジオ体操の実施	約35人
	10月6日	いきいきサロン 出前講座「骨の健康」	約35人
	2月2日	3あい事業 健康講座 「フレイルチェックで自分の体を知ろう」	35人
池之内	毎月1回	百笑会(ふれあいいきいきサロン)	30人
	7月、8月	盆踊り指導	50人
大草西・東	毎月	大草だより「今月のちょっとひとこと」 健康に関する内容を掲載	参加者カウントなし
	毎月 第3日曜日	ふれあいいきいきサロン陽だまりサロン 大草 ゲーム、体操等	30人程度
	毎月 第1火曜日	オレンジカフェおおくさ 折り紙、ゲーム、体操等	30人程度
	7月17, 25日	3あい事業 盆踊り練習	延47人
	8月12, 13日	盆踊り	多数
	8月20日 ～27日	3あい事業 ラジオ体操	215人
	11月23日	3あい事業 ふれあいウォーク 準備体操	76人
	2月16日	3あい事業 保健連絡員健康講座 出前講座「めざせ健康長寿」	32人
桃ヶ丘	6月19日	ゲートキーパー養成講座について 講座の内容紹介	参加者カウントなし
光ヶ丘第3	10月8日	3あい事業 小牧ワイナリーまでウォーキング	参加者カウントなし
光ヶ丘第6	7月24日、25日	光ヶ丘第四公園にてラジオ体操の実施	56人
城山第5	毎月 第1, 3月曜日	たまり場城山 ウォーキングの実施(30～60分程度)	2～4人
	8月7日、21日	たまり場城山 顔面体操、リンパ体操の実施	約7人 9人
	9月4日	たまり場城山 軽いウォーキング(散歩)の実施(3km)	参加者カウントなし

	11月6日	たまり場城山 血液サラサラと柔らかくする食事の話	参加者カウントなし
城山2丁目県住	12月12日	健康診断の大切さを伝える	10人

【Fグループ・北里地区】

区	時期	企画内容	参加者
常普請	8月22日	3あい事業 早朝ラジオ体操	275人
	10月15日	3あい事業 小牧山歴史散歩	39人
御屋敷	10月18日	ようてい病院リハビリ担当者による介護、 リハビリについての講話	21人
池新田	8月25日	お家で出来る口腔ケアについて紹介	24人
小針	6月25日	3あい事業 ふれあい健康教室 測定(身長、体重、血圧、握力、骨密度、 体組成)講話「測定結果とフレイル予防に ついて」	22人
	11月26日	3あい事業 ふれあいウォーキング大会 ラジオ体操、牧連体操ズンドコ、ウォーキ ング 餅つき体験	大人114人 子ども21人
多気上	6月18日	ペットボトルでつくる簡易トイレと非常食 作り	42人
多気下	6月18日	ペットボトルでつくる簡易トイレと非常食 作り	30人
小木中・下	12月5日	老人会 健康教室 フレイル予防	35人
とみづか	11月	3あい事業 健康教室「フレイルをもっと深 く」	23人

(5) グループ活動

ア グループ活動

(ア) 目的

健康に関する事を企画し、地区住民の健康意識を高める。

(イ) 対象

地区住民

(ウ) 実施内容

・健康展、ウォーキング大会の開催

地区	イベント	日程	会場	参加人数
小牧南地区	健康展	11月26日	ふらっとみなみ	152名
小牧地区	健康展	10月12日	小牧市公民館	198名

巾下地区	楽しく健康フェア	11 月 23 日	ゆうゆうせいぶ他	127 名
味岡地区	健康展	11 月 11 日	味岡市民センター	200 名
東部地区	がん予防講演会	10 月 3 日	東部市民センター	127 名
	いきいきウォーキング	11 月 11 日	桃花台中央公園	286 名
	健康フェスティバル	12 月 3 日	東部市民センター	278 名
北里地区	健康展	10 月 31 日	北里市民センター	124 名
	健康展 (小木小学校地域協議会とのタイアップ事業)	12 月 10 日	小木小学校	125 名

・イベント出展

巾下地区	三ツ渚学区コミュニティ推進協議会 健康フェア 体組成・骨密度・握力測定・ 姿勢チェック・ゲーム	7 月 2 日	三ツ渚小学校	120 名
	小牧西部ボランティア連絡会 ふれあいのつどい 災害時に役立つ健康づくり 新聞棒体操他	9 月 9 日	ゆうゆうせいぶ	92 名

イ グループ会議・学習会

(ア) 目 的

グループごとに健康に関する問題をテーマとし、学習や活動を通し、知識を高め、地区住民に広める。

《Aグループ・小牧南地区》

活動テーマ：【★ふれあい★つながりあい★楽しく元気なカラダづくり★】

開催月	内容	参加者数
6月	＜地区懇談会＞対象：春日寺、南外山、北外山、桜井	5人
	＜地区懇談会＞対象：竹林、北外山県住、みどり台、大山、米野、二重堀	11人
7月	・今年度のグループ活動について	20人
8月	・今年度の活動について 健康展についてコンセプトを検討	15人
9月	・健康展について 催事内容・方法について検討	20人
10月	・健康展について 当日の役割ごとに打ち合わせ	20人
11月	・健康展について 各区の情報交換	20人
令和6年 1月	・健康展の振り返り ・学習会「あしの学校」講師：フットケアサークルてくてく	19人
2月	・今年度の活動のまとめについて	18人
3月	1年間の活動の振り返り	16人

《Bグループ・小牧地区》

活動テーマ：【とり戻そう 自分の生活 ～コロナを経て～】

開催月	内容	参加者数
5月	＜地区懇談会＞対象：朝日、上新町、懐、片町、中町、西町、上之町、大新田	11人
	＜地区懇談会＞対象：東町、東新町、寺浦、門前町、向町、堀の内、大輪、大井、安田、間々原	10人
	＜地区懇談会＞対象：小牧原中、小牧原西、小牧原北、小牧原駅東、小牧原源川、小牧原南、小牧原街道	7人
6月	・今年度の活動について	23人
7月	・小牧地区健康展について	28人
8月	・小牧地区健康展について ・今年度の学習の進め方について	21人
9月	・小牧地区健康展について ・学習会「自分自身の身体を知ろう」 体力測定の実施	26人
11月	・小牧地区健康展について振り返り ・学習会「自分自身の身体を知ろう」 体力測定の結果振り返り	19人

12 月	・活動のまとめについて	23 人
令和 6 年 1 月	・活動のまとめについて	18 人
2 月	・活動のまとめについて	18 人
3 月	・今年度の振り返り 次年度に向けて	19 人

《C グループ・巾下地区》

活動テーマ：【運動をして健康寿命を高めよう】

開催月	内容	参加者数
5 月	<地区懇談会>対象：元町、スペクトル舟津、舟津、三ツ 渚、三ツ渚原団地	8 人
	<地区懇談会>対象：西之島、村中、入鹿、河内屋、横内、 間々	11 人
6 月	・今年度の活動についての意見交換 三ツ渚学区コミュニティ推進協議会主催「健康フェア」の 内容について	19 人
7 月	・「まちかど運動教室」で得た学びの共有 ・健康フェアのテーマについて検討	20 人
8 月	・健康フェアの内容について検討	15 人
9 月	・健康フェアについて ウォーキングルート、展示内容について検討	20 人
10 月	・健康フェアについて 役割分担について検討	21 人
11 月	・健康フェアについて 健康フェアの予行練習	19 人
12 月	・健康フェアの振り返り	17 人
令和 6 年 1 月	・今年度の活動のまとめの作成	21 人
2 月	・今年度の活動のまとめの作成 ・来年度に向けて	18 人
3 月	・今年度の活動の振り返り ・来年度に向けて	19 人

《Dグループ・味岡地区》

活動テーマ：【人生を安心して楽しく過ごすために～わたしらしく生きること～】

開催月	内容	参加者数
6月	＜地区懇談会＞対象：岩崎東・中・西、南岩崎台、岩崎団地第2・第3、岩崎原、ガーデン岩崎、たがた苑、久保一色寺前・中南・中北・新田・本田・久保、田県西、久保山団地	23人
	＜地区懇談会＞対象：東田中、東田中県住、文津、小松寺、小松寺団地、本庄、タウン本庄、本庄台、ガーデンヒルズ本庄	8人
7月	・今年度の活動について	28人
8月	・味岡地区健康展について	28人
9月	・味岡地区健康展について ・学習会「認知症サポーター養成講座」 講師：味岡地域包括支援センター	30人
10月	・味岡地区健康展について ・学習会「わた史ノート 人生会議について」 講師：味岡地域包括支援センター 小牧市在宅医療・介護連携サポートセンター	33人
12月	・味岡地区健康展について振り返り ・活動のまとめについて	30人
令和6年 1月	・活動のまとめについて	31人
2月	・活動のまとめについて	32人
3月	・今年度の振り返り、次年度に向けて	30人
随時	味岡児童館・田県の郷（第3老人福祉センター）見学	希望者

《Eグループ・東部地区》

活動テーマ：【がんの予防について】

開催月	内容	参加者数
5・6月	＜地区懇談会＞・東部篠岡 ・古雅・桃ヶ丘・篠岡 ・光ヶ丘・城山	15人 15人 11人
7月	・今年度の東部地区の保健連絡員活動について （がん予防講演会・いきいきウォーキング・健康展）	37人
8月	・学習会「がん・がん検診について」 ・今年度の東部地区の保健連絡員活動について （がん予防講演会・いきいきウォーキング・健康展）	37人
9月	・今年度の東部地区の保健連絡員活動について （がん予防講演会・いきいきウォーキング・健康展）	37人
10月	・がん予防講演会振り返り ・いきいきウォーキング	36人

	・健康フェスティバルについて	
11 月	・健康フェスティバルについて ・いきいきウォーキングについて（コースの最終確認・下見）	33 人
令和 6 年 1 月	・いきいきウォーキング・健康フェスティバルの振り返り ・活動のまとめについて ・学習会「やさいを食べよう！減塩しよう！」	31 人
3 月	・今年度の振り返り ・来年度の活動について	37 人

《F グループ・北里地区》

活動テーマ：【①がんになりにくい体づくり ②お口の健康～日常でできること～】

開催月	内容	参加者数
5 月	<地区懇談会>対象：小木上、小木下、藤島団地、とみづか、常普請	9 人
	<地区懇談会>対象：御屋敷、郷中、市之久田、池新田、藤島、梵天藤栄、小針入鹿新田、小針、下小針、多気上、多気下、小木中	18 人
6 月	・今年度の取組みについて テーマの検討	26 人
7 月	・今年度の取組みについて ・学習会 演題「がんの超早期診断超早期予防」	29 人
8 月	・学習会 演題「歯周病と体の健康について」 学びの共有 ・健康展について内容の検討	26 人
9 月	・健康展について内容の検討	32 人
10 月	・健康展について 役割分担の検討	34 人
11 月	・健康展（10 月 31 日）の振り返り	30 人
12 月	・健康展（12 月 10 日）の振り返り	30 人
令和 6 年 1 月	・今年度の活動のまとめの作成	30 人
2 月	・今年度の活動のまとめの作成 ・学習会「パークアリーナ小牧の施設見学」 ・今年度の振り返り	29 人

(6) がん死亡撲滅モデル地区活動

ア 目的

モデル地区住民に対してがん予防についての知識の啓発を実施することにより、がん検診の受診率を高め、がんの早期発見・早期治療を図る。

イ 対象地区

- (ア) 東部地区（E グループ）
- (イ) 北里地区（F グループ）

ウ 内 容

(ア) 東部地区（E グループ）

活動テーマ：【がんの予防について】

活動内容： がんとは何か、がんを予防するためにどうするとよいのか、また市のがん検診について学習し、市民の方にもがん検診の必要性や予防について伝えたいと下記のとおり講演会を開催した。

講演会後は、内容を掲示物にまとめ、東部地区健康フェスティバルで展示したほか、健康フェスティバルにおいて、参加者へ市の検診についてチラシを配布した。

がん予防の観点から、野菜摂取や減塩についても学習し、生活の中へ取り入れる工夫についてグループワークを行った。健康フェスティバルでは、ヘルスメイトの協力のもと、野菜の手ばかりや汁物の塩分測定に関するコーナーを設けた。

●講演会の開催●

「『がん』から考える私たちの生活—予防を中心に—」

講師：愛知県がんセンター研究所

松尾 恵太郎 医師

日時：令和5年10月3日（火）

13時30分から15時15分

場所：東部市民センター 講堂

参加者数：127名

(イ) 北里地区（F グループ）

活動テーマ：【がんになりにくい体づくり】

活動内容：公開講座「がんの超早期診断と超早期予防」（講師：牛島俊和 国立がん研究センター）の動画を視聴し、検診の大切さ、ワクチン接種や日頃からの生活習慣が予防につながる等、がんについて基礎的な知識を習得した。

この学びを基に、「科学的根拠に基づくがん予防」「野菜をとれるアイデアレシピ」「減塩につながるレシピ」について、地域の方に見てもらえるよう掲示物を作成し、健康展で展示した。

また、健康展では、ヘルスメイトの協力を得て、市民の方々に野菜の摂取量の目安を体験できるようにした。

(7) 保健連絡員・保健連絡員OBによる赤ちゃん訪問【令和5年度・令和4年度実績】

ア 目 的

育児をスタートしたばかりの不安の大きい時期に訪問することにより、地域に自分のことを知っている「近所の頼れる人」がいることを親子に知ってもらう。また、将来に向かってみんなで地域の子どもを支え、子育てを支えていける地域づくりをおこなう。

専門的支援・継続的支援の必要な母親に対し保健センター事業につなげていく。

イ 対 象

(ア) 市内在住の1～3か月ぐらいの全乳児とその親

(イ) 4か月未満で市内に転入した乳児とその親

ウ 実施者

保健連絡員・保健連絡員OB

エ 実施者数

令和5年度 173人（保健連絡員 142人 保健連絡員OB 31人）

令和4年度 192人（保健連絡員 158人 保健連絡員OB 34人）

オ 赤ちゃん訪問対象者数【年度毎打ち出し分】

（令和5年度：R5年3月～R6年2月生まれ、令和4年度：R4年3月～R5年2月生まれ）（人）

地区	小牧南(小牧南 小学校区)		小牧南(米野 小学校区)		小牧 (北)		小牧 (南)		巾下		味岡 (東)		味岡 (西)		東部		北里		合計	
年度	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
打出人数	98	125	79	104	119	110	85	110	76	76	103	116	122	111	113	106	118	120	913	978
(双子)組	3	3	0	2	1	3	1	3	0	1	1	0	1	2	1	1	0	1	8	16
(外国人)	2	1	7	19	13	9	8	7	6	2	18	11	11	14	22	21	2	5	89	89

カ 赤ちゃん訪問実施件数【年度毎実施分】

（令和5年度：R5年4月～R6年3月報告、令和4年度：R4年4月～R5年3月報告）（件）

地区	小牧南(小牧南 小学校区)		小牧南(米野 小学校区)		小牧 (北)		小牧 (南)		巾下		味岡 (東)		味岡 (西)		東部		北里		合計	
年度	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
実施件数	73	78	66	83	92	98	61	87	72	57	89	92	101	76	96	84	77	114	727	769
(双子)組	2	3	0	2	0	2	1	3	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	5	15
(外国人)	1	1	5	13	10	6	2	5	6	1	7	7	3	5	12	7	1	4	47	49

＜方向性＞令和5年度 ・保健師、助産師へ…24件 ・4か月児健診等へ…4件

令和4年度 ・保健師、助産師へ…52件 ・4か月児健診等へ…4件

キ 赤ちゃん訪問不在訪問件数【年度毎実施分】

（令和5年度：R5年4月～R6年3月報告、令和4年度：R4年4月～R5年3月報告）（件）

地区	小牧南(小牧南 小学校区)		小牧南(米野 小学校区)		小牧 (北)		小牧 (南)		巾下		味岡 (東)		味岡 (西)		東部		北里		合計	
年度	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
実施件数	1	1	0	6	1	5	1	1	0	4	0	7	4	0	0	3	3	1	10	28
(双子)組	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(外国人)	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4

＜方向性＞令和5年度 ・4か月児健診等へ…7件 ・保健師へ…3件 ・転出…0件

令和4年度 ・4か月児健診等へ…24件 ・保健師へ…2件 ・転出…2件

ク 赤ちゃん訪問未実施件数【年度毎何らかの理由で訪問未実施分】

(令和5年度:R5年4月～R6年3月報告、令和4年度:R4年4月～R5年3月報告)

(件)

地区	小牧南(小牧南小学校区)		小牧南(米野小学校区)		小牧(北)		小牧(南)		巾下		味岡(東)		味岡(西)		東部		北里		合計	
年 度	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4	5	4
件 数	25	33	18	17	21	6	24	19	5	11	13	11	15	32	13	43	29	8	163	180
(転 出)	0	1	2	2	2	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	6	7
(里帰り)	4	7	3	6	2	1	2	6	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	13	21
(保健師・助産師対応)	3	4	3	2	4	3	3	2	0	1	2	4	3	10	2	12	3	1	23	39
(連絡つかず)	8	20	2	4	3	0	6	1	0	2	0	1	0	6	0	0	0	6	19	40
(その他)	10	1	8	3	10	1	12	10	3	7	11	6	12	14	10	31	26	0	102	73
【再掲】 (双 子)	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	2
【再掲】 (外国人)	0	0	3	1	2	2	6	4	0	1	7	5	7	13	10	16	1	1	36	43

＜方向性＞令和5年度 ・4か月児健診等へ…107件 ・保健師、助産師訪問…49件 ・転出…6件
・その他…1件

令和4年度 ・4か月児健診等へ…127件 ・保健師、助産師訪問…46件 ・転出…7件

※地区詳細

小牧南(南小学校区):春日寺、南外山、北外山、桜井本町、若草町、掛割町

小牧南(米野小学校区):中央(4～6丁目)、二重堀、応時、東

小牧(北):小牧原、小牧原新田、新町、山北町、安田町、間々原新田

小牧(南):東新町、中央(1～3丁目)、小牧、堀の内、曙町、緑町、川西

巾下:河内屋新田、横内、入鹿出新田、西島町、村中、間々、間々本町、弥生町、西之島、舟津、三ツ渕、元町

味岡(東):小松寺、本庄、文津、東田中

味岡(西):岩崎、岩崎原、久保一色、久保一色南、久保新町、久保本町、久保一色東、田県町

東部:下末、上末、池之内、高根、林、大草、大字大山、野口大山、古雅、篠岡、城山、桃ヶ丘、光ヶ丘

北里:常普請、郷中、市之久田、小針、下小針天神、下小針中島、外堀、多気中町、多気北町、多気南町、小木東、小木南、藤島、藤島町梵天、藤島町中島

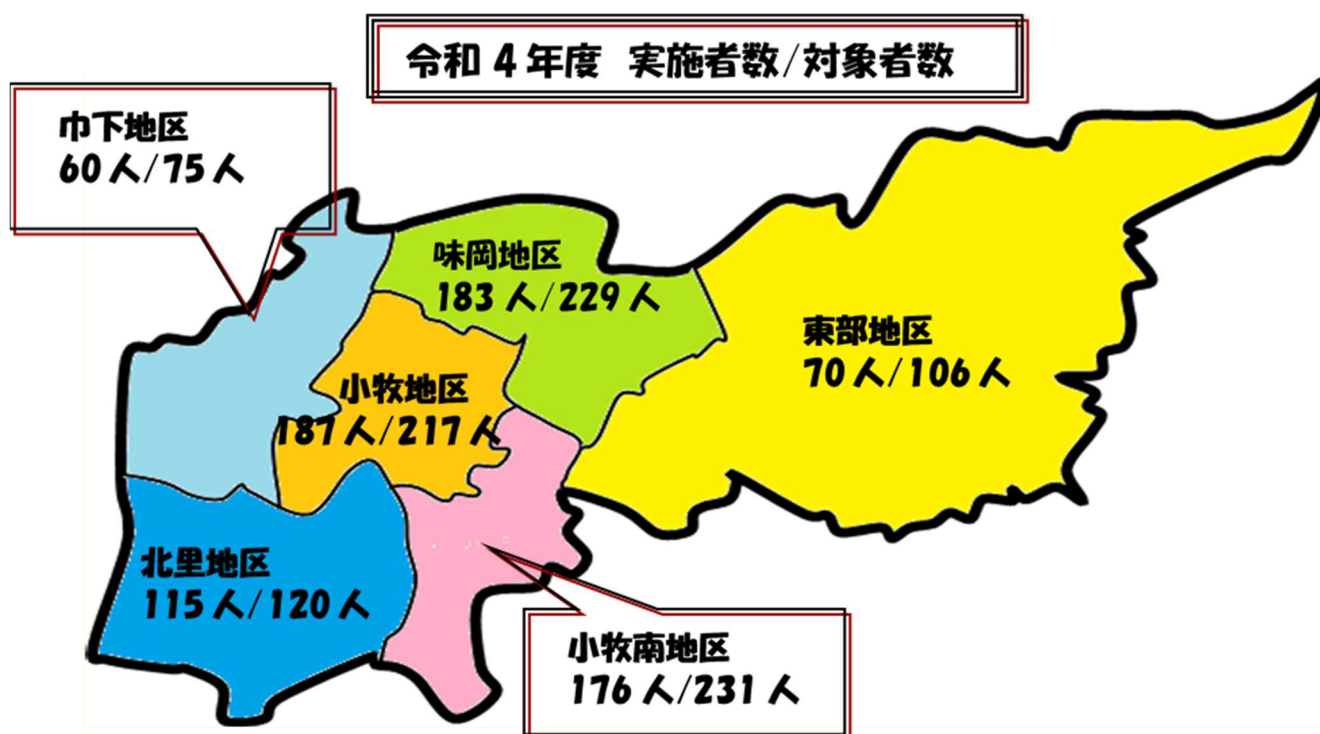
ケ 赤ちゃん訪問における保健連絡員と保健センターの連携

内 容
・母の表情が暗く心配だったため、地区の担当保健師を紹介した。 →後日、保健師とつながることができ、母の不安を傾聴した。 ・体重の増えについて母より相談があり、保健センターへ連絡した。 →助産師が自宅へ訪問し、ミルクの飲みや体重を一緒に確認した。 ・町内の行事で赤ちゃん訪問を実施した親子を見かけた。 →町内の方に親子を紹介し、新しい住人と昔から住んでいる住人の顔つなぎをすることができた。 ・赤ちゃん訪問で訪問した親子を地区のサロンへ招待した。 →その後も定期的に参加し、成長を地域で見守ることができている。

【令和4年度 実績】

赤ちゃん訪問地区別対象者数と実績(令和4年度:R4年3月～R5年2月生まれ) (人)

地区	小牧南	小牧	巾下	味岡	東部	北里	合計
打出人数 (対象者数)	231	217	75	229	106	120	978
実施者数	176	187	60	183	70	115	791
実施率	76.2%	86.2%	80.0%	79.9%	66.0%	95.8%	80.9%



(8) 保健連絡員・保健連絡員ＯＢによる赤ちゃん訪問説明会および学習会

ア 目 的

母子保健の現状を知り赤ちゃん訪問の主旨を理解することにより、地域の親子に対する保健連絡員活動に役立てる。

イ 対 象

保健連絡員・保健連絡員ＯＢ

ウ 実施内容・参加者数

回	月 日	場 所	内 容 ・ 講 師	参加人数 (人)
1	令和 5 年 5 月 15 日(月)	保健センター	赤ちゃん訪問説明会 (母子保健の現状、主旨の説明) (赤ちゃん訪問の流れや方法の説明)	21
	5 月 16 日(火)	東部市民センター		15
	5 月 18 日(木)	味岡市民センター		16
	5 月 19 日(金)	保健センター		19
	5 月 26 日(金)	保健センター		8
2	令和 6 年 1 月 31 日(水) 午前・午後	保健センター	赤ちゃん訪問学習会 (「小牧あおぞらキャラバン隊」 公演：発達障がいの特性や関わり 方について説明・体験を実施)	午前：24 午後：29

(9) 地区懇談会

ア 目 的

グループの中でさらに小地区にわかれて、その地域の健康に関する状況や問題等について意見交換を行うことで、保健連絡員活動についての理解を深め、保健連絡員としての自覚を高め今後の活動につなげる。

イ 対 象

保健連絡員

ウ スタッフ

地区担当保健師

エ 実施内容

- ・自分たちの住む地区について健康に関する意見交換
- ・保健連絡員活動について
- ・保健センターの事業紹介
- ・質疑応答

オ 参加者数

地区（グループ）名	回数	延べ参加者数（人）
小牧南（A）	2	16
小 牧（B）	3	28
巾 下（C）	2	19
味 岡（D）	2	31
東 部（E）	3	41
北 里（F）	4	27
延べ回数	16	174

(10) 1 年目・終了者交流会

	内 容
地区グループ会議内で実施	1 年目交流会、保健連絡員終了者交流会 ・保健連絡員活動を通して学んだこと ・今後やってみたい活動 ・今地域で必要だと感じること 等

(11) 保健連絡員学習会

ア 目 的

学習することにより、自己の健康意識を高め、健康増進を図るとともに地区の保健連絡員活動に役立てる。

イ 対 象

保健連絡員 245人

ウ 実施内容

行事名	月 日	内 容	参加者数
第1回学習会	令和5年 4月27日(木) 総会后	講演 「オーラルフレイルにつて」 講師 小牧市歯科医師会 歯科医師 西田泰大 先生	179人
屋外実習 ウォーキン グ	5月30日(火) 6月1日(木)	・小牧山ウォーキング ・ウォーキング指導 講師 小牧市体操連盟健康体操部 体操指導員 門内弘子 氏 佐藤真由美 氏	75人
グループ学 習	—	各グループの活動テーマにあわせて 学習会を実施した。	—

(12) 保健連絡員養成講座

ア 目 的

活動開始にあたり、地区における保健連絡員の役割を理解する。

イ 対 象

新規保健連絡員及び過去の養成講座未受講者、受講希望者

ウ スタッフ

保健連絡員、保健師、臨床心理士、介護予防推進リーダー 他

エ 実施内容・参加者数

回	月 日	内 容	参加者数 (人)
1	令和5年 4月12日 (水) 4月13日 (木) 4月17日 (月) 4月21日 (金)	講話 「保健連絡員活動について」	80
2	6月19日 (月) 6月26日 (月)	ゲートキーパー養成講座【初めて編】 「やさしい社会は生き心地がいい」 講師：心理相談室 ころろ 臨床心理士 定森露子 氏	59
3	8月30日 (水) 午前・午後	ゲートキーパー養成講座【ステップアップ編】 「～あなたが大切な人にできること～」 講師：株式会社ありがトン 代表 澤登和夫 氏	50
4	9月3日 (日) 9月4日 (月) 9月5日 (火) 9月9日 (土)	「普通救命講習」 講師：小牧市消防署 職員	40
5	令和6年 3月18日 (月) 午前・午後	「介護予防講座」 講話および体操：保健センター保健師	25
6	随時	乳がん検診	60※
7	随時	大腸がん検診	22※

(※養成講座として申込みし、受診した者)

(13) 保健連絡員役員会

小牧南地区、小牧地区、巾下地区、味岡地区、東部地区、北里地区のそれぞれのグループから選出された役員 9 名にて運営。役員は、役員会を実施するほか、各地区のグループの意見を保健連絡員活動に反映することや保健連絡員の会議や学習会の企画を行う。

日	時	内 容
令和 5 年 4 月 6 日 (木)	午前 10 時～11 時 20 分	・ 令和 4、5 年度役員挨拶・紹介 ・ 今年度の保健連絡員活動について
5 月 16 日 (火)	午前 10 時～11 時 30 分	・ 総会及び第 1 回学習会について ・ 第 2 回学習会 (健康づくりウォーキング) について
6 月 7 日 (水)	午前 10 時～11 時 30 分	・ 第 2 回学習会 (健康づくりウォーキング) について ・ 今年度の活動について
8 月 2 日 (水)	午前 10 時～11 時 40 分	・ 今年度の活動について (活動展示について、歩歩よせてについて) ・ 赤ちゃん訪問について
9 月 6 日 (水)	午前 10 時～11 時 40 分	・ 今年度の活動について ・ 来年度の活動に向けて
10 月 4 日 (水)	午前 10 時～11 時 30 分	・ 活動報告について ・ 来年度の活動について
12 月 6 日 (水)	午前 10 時～11 時 30 分	・ 歩歩よせてについて ・ 今後の保健連絡員活動について ・ 今年度の活動のまとめについて
令和 6 年 1 月 12 日 (金)	午前 10 時～11 時 20 分	・ 歩歩よせてについて
2 月 6 日 (火)	午前 10 時～11 時	・ 保健連絡員活動についての展示について ・ 来年度の保健連絡員活動について
3 月 6 日 (水)	午前 10 時～11 時 30 分	・ 今年度の活動の振り返り ・ 来年度の活動に向けて

2 小牧市食生活改善協議会

家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）を修了したもの、又はこれと同等の講習会を修了したもので、下記の目的により、平成11年3月19日に小牧市食生活改善協議会が設立された。

(1) 目 的

協議会は、小牧市民憲章により、歴史と伝統のある健やかな発展をめざして、超高齢化社会を迎えるにあたり、若い世代から丈夫な体づくりをし、自分らしい豊かな生涯を送るため、食生活改善協議会員として、毎日の食事の中から食べ方、作り方等を地域での実践活動を推進し、会員相互の連絡を密にし、健康で生きがいのある明るい町づくりをすることを目的とする。

(2) 会員数 28名（令和5年4月1日）

(3) 会議等

月 日	事 業	内 容	活動人数	参加者数
4 月 24 日	総会	前年度の活動報告等	全員	—
5 月 9 日他	役員会	事業計画、反省等 年 11 回	6 人	—

(4) 小牧市事業への参加

月 日	事 業	内 容	活動人数	参加者数
	小牧市広報掲載 「ヘルスマイトおすすめ レシピ」	広報こまき 5、7、9、11、1、3 月号に掲載（年 6 回）	全員	—
5 月 25 日他	小牧市健康づくり推進審議会	栄養・食生活部会（4 回） （5/25、10/19、1/10、2/9）	1 人	—
10 月 6 日他	自分・家族の健康を考える食生活講座（ヘルスマイト養成講座）	6 回（10/6、11/10、12/1、1/12、2/2、3/1）	10 人	8 人
10 月 21 日 他	市民まつり福祉展	2 回（10/21、10/22）	8 人	—
10 月 31 日	北里地区健康展	野菜の手ばかり栄養法	3 人	—
11 月 18 日 他	いきいきこまき	2 回（11/18、11/19）	8 人	—
12 月 3 日	東部地区健康フェスティバル	家庭の汁物の塩分濃度測定と野菜の手ばかり栄養法	4 人	—
12 月 7 日	小牧市社会福祉大会	小牧市社会福祉協議会会長表彰授与式	1 人	—
12 月 10 日	小木小学校区 健康まつり	野菜の手ばかり栄養法	3 人	—

(5) 地域活動

月 日	事業	内 容	活動人数	参加者数
7 月 26 日	おやこの食育教室	親子で行う調理実習	8 人	27 人
10 月 25 日	シニアカフェ	楽しく食べて低栄養を予防することを目的とした講義と調理実習	5 人	11 人
11 月 29 日	生涯骨太クッキング教室	骨の健康についての講義と調理実習	5 人	10 人
3 月 26 日	陶地区カフェ	楽しく食べて低栄養を予防することを目的とした講義と調理実習	5 人	17 人

(6) 愛知県食生活改善推進協議会事業への参加

月 日	内 容	活動人数
4 月 11 日他	理事会 計 (14) 回	1 人
5 月 22 日	総会	3 人
6 月 12 日	いいともあいち運動推進協議会	1 人
8 月 29 日	食生活改善推進員指導者養成研修会	4 人
9 月 25 日	地区組織育成・強化推進会議	3 人

(7) 他機関・団体主催事業への参加

月 日	内 容 (参加者数)	活動人数
	小牧豊山くらしのニュース掲載「健康レシピ！」 6、7、8、9、10、11、12、3 月号に掲載 (年 8 回)	全員
5 月 25 日	ボランティア勉強会「がんばりすぎるあなたのために」～巻きコミュニケーションのススメ～	2 人
9 月 26 日	ボランティア勉強会「みんなで体腸管理 ～腸ハッピーになろう～」	4 人
10 月 6 日	岩崎ふれあいサロン料理教室 (22 人)	1 人
11 月 26 日	味岡児童館 地産地消料理 鬼饅頭作り (20 人)	1 人
2 月 16 日	ももの会 (高齢者との調理実習) (15 人)	1 人
3 月 3 日	味岡児童館 伝承料理 おこしもの作り (24 人)	1 人

(8) 各グループ学習会

●栄養士対応健康教育（ヘルスメイト育成） 合計6回

月 日	学 習 内 容	対 象	参加者
5月17、18日	手ばかり栄養法	食生活改善協議会員	21人
6月15、21日	食物繊維	食生活改善協議会員	22人
7月13、19日	減塩①	食生活改善協議会員	20人
9月14、20日	減塩②	食生活改善協議会員	20人
10月12、18日	炭水化物とGI値	食生活改善協議会員	19人
11月2、15日	糖分比較とペットボトル症候群	食生活改善協議会員	17人

※R4年度より地区組織活動で計上

●水曜グループ テーマ：「朝たん＋野菜1皿70g」 合計8回

月 日	学 習 内 容	場 所	参加者
5月17日	朝たんぱく質プラス野菜一皿	保健センター	13人
6月21日	酸味でおいしく、夏バテ予防	保健センター	12人
7月19日	食材を選ぶ楽しさを味わう	保健センター	11人
9月20日	おいしく食べてフレイル予防	保健センター	12人
10月18日	定例会	保健センター	12人
11月15日	減塩しながらフレイル予防	保健センター	10人
12月21日	栄養と彩りバランスを考えて、取り分けお料理の組み合わせを楽しむ	ふれあいセンター	10人
2月21日	朝たんぱく質プラス野菜一皿	ふれあいセンター	12人

●木曜グループ テーマ：「しっかり食べて健康寿命をのばそう！」 合計9回

月 日	学 習 内 容	場 所	参加者
5月18日	しっかり食べて健康寿命をのばそう	保健センター	8人
6月15日	しっかり食べて健康寿命をのばそう	保健センター	10人
7月13日	しっかり食べて健康寿命をのばそう	保健センター	9人
9月14日	しっかり食べて健康寿命をのばそう	保健センター	8人
10月12日	減塩しながらフレイル予防	保健センター	7人
11月2日	生涯骨太を目標にして骨粗しょう症予防	保健センター	7人
12月7日	小牧の郷土食	ふれあいセンター	7人
2月15日	広報掲載レシピ	保健センター	7人
3月28日	お花見	小牧山史跡公園	5人

3 牧連体操クラブ

(1) 目的：子どもから高齢者の方まで誰でもでき、簡単に親しみやすく健康に役立つ体操「牧連体操ズンドコ」を広く地域に広め、自分たちの健康、ひいては地域の健康につなげていく。

(2) 会員：13人

(3) 活動方法

- ・原則として毎月第2水曜日、第4木曜日を定例練習日とし、会員の技術向上の場とすること、また体操を学びたい方への場の提供を目的として実施
- ・講師派遣依頼に応じる
- ・体操を広めるための活動（PRや媒体づくり等）を考え実践していく

(4) 活動状況

ア 定例練習会参加状況（練習会20回実施）（人）

月	ボランティア	参加者
4月	9	7
5月	9	16
6月	6	11
7月	8	12
8月	7	5
9月	10	8
10月	11	10
11月	6	8
12月	7	8
1月	10	9
2月	9	15
3月	10	11
計（延べ）	102	120

イ 地域での活動状況

- ・小牧市民まつり、いきいきこまきへの参加
- ・地域団体（いきいきサロン、老人クラブ、地域協議会など） 13回
- ・保健連絡員の集まり 6回
- ・小牧市YouTube「健康チャンネル」にて配信。

ウ 打ち合わせ実施状況

- ・総会1回、定例練習会と併せて実施。

4 楽育相談

(1) 経緯

子どもの成長発達に関する支援が必要な親に対してのアプローチ方法を学ぶため、発達障がいの子どもの持つ母親（2名）を講師として招いて、平成23年度に保健センターで勉強会を実施した。

勉強会では、健診や相談などで保健師等から子どもの発達に関して支援が必要であることを告げられたときの気持ちや心配であるにも関わらず今は指摘されたくない気持ち等が出された。同時に「これまでの経験から後輩の保護者の方に役に立ちたい」との発言があり、平成26年3月「発達障がいを持つ子どもの親が行う子育てサロン」として子育てに悩む保護者を対象とした楽育相談の開催に至った。

名称：「楽育相談」

楽＝楽しく 育＝育児を進めていく ことが出来るようお願いをこめて命名

(2) 目的

育てにくい子どもの保護者や子育てに自信のない保護者に対し、相談支援者が自分の経験を生かし気持ちの共有、日常生活や就園、就学に向けての情報交換をすることで孤独感や困難感が軽減され、気軽に相談ができ前向きに子育て出来るよう支援する。

(3) 支援内容

- ・日常生活での困難感や子育てについての不安の傾聴
- ・日常生活での対応についての助言
- ・就園、就学についての不安の傾聴と助言
- ・保護者の頑張りを認め、前向きに子育てできるよう支援

(4) 実施回数

毎月1回（不定期）午前10時～11時30分

(5) 会員

発達障がいを持つ子どもの保護者2名

(6) 相談者数

実施年月	相談者数(人)	実施年月	相談者数(人)
令和5年4月	1	10月	3
5月	2	11月	1
6月	0	12月	2
7月	0	令和6年1月	0
8月	0	2月	0
9月	1	3月	0
		計	10

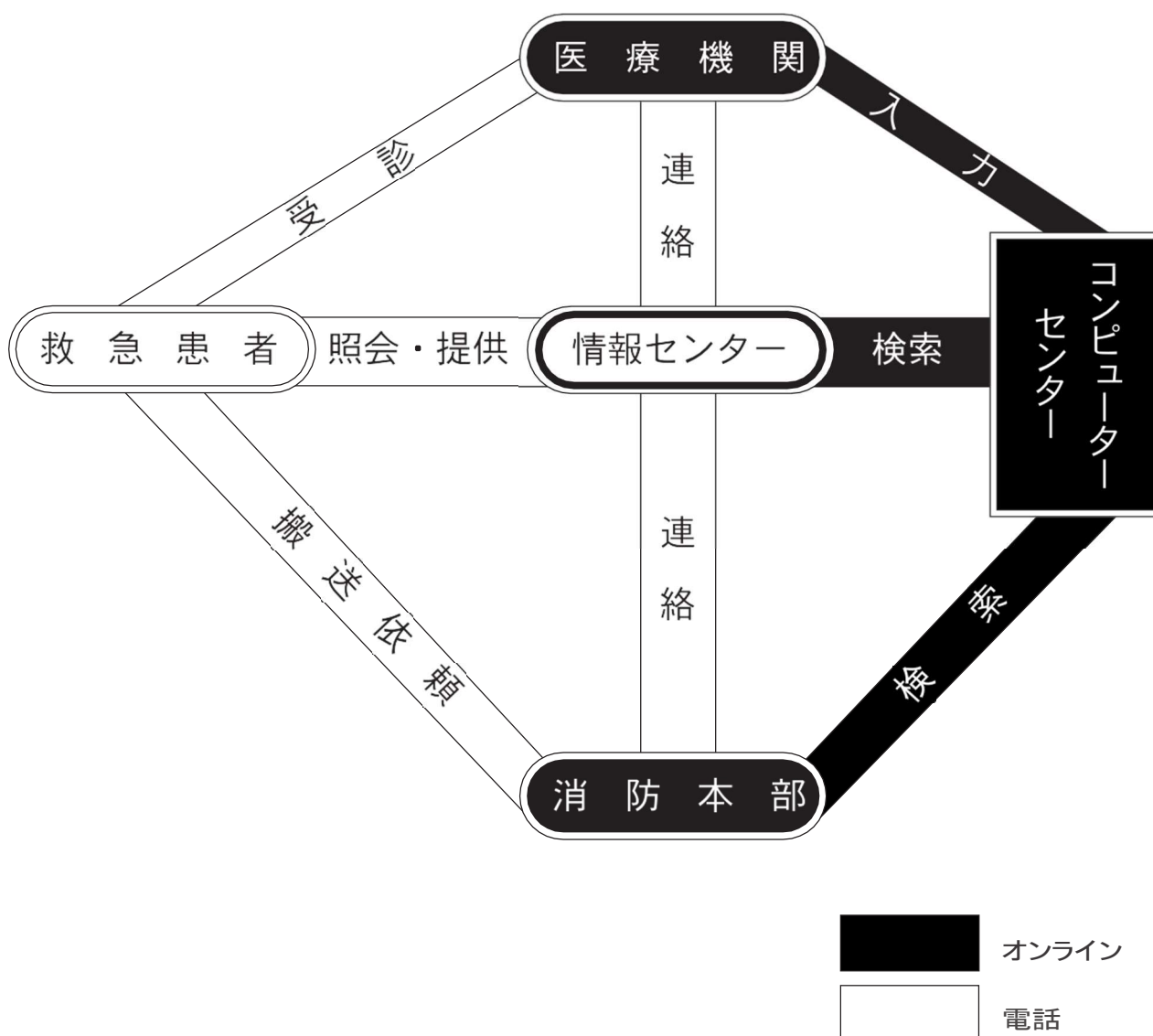
第10 救 急 医 療 活 動

第10 救 急 医 療 活 動

1 救急医療活動

(1) 救急医療情報システム

休日や夜間などかかりつけの医者がない時でも、素早く、適切な治療が受けられる医療機関を24時間いつでも症状に応じて案内している。(TEL：81-1133)



(2) 救急医療情報センター利用状況

(人)

	市民	医療機関	消防署	警察署	計
令和4年度	2,200	0	0	0	2,200
令和5年度	1,611	2	1	0	1,614

(3) 小牧市休日急病診療所

小牧市では休日における急病患者に適正な医療を提供し、もって市民の生命と健康維持に寄与するため小牧市休日急病診療所を設置している。

- ・ 開設 昭和53年4月1日
- ・ 場所 小牧市常普請一丁目318番地(平成16年4月1日に移転)
- ・ 電話 (0568) 75-2070
- ・ 診療科目 内科、小児科、外科、歯科
- ・ 診療日 日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日並びに12月31日、1月2日及び1月3日
- ・ 診療時間 午前9時～正午、午後1時～午後5時(内科、小児科、外科)
午前9時～正午(歯科)

令和5年度小牧市休日急病診療所利用者数

月 区別	診療 日数	科目別							男女別		地区別		時間別		救急車利用数					二次転送別				
		内科	小児科	外科	歯科	計	平均	再診	男	女	市内	市外	午前	午後	内科	小児科	外科	歯科	計	内科	小児科	外科	歯科	計
4月	6	86	78	32	9	205	34.2	0	98	107	177	28	138	67	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
5月	7	113	132	36	12	293	41.9	6	167	126	225	68	189	104	0	0	0	0	0	2	1	2	0	5
6月	4	77	81	19	1	178	44.5	0	96	82	153	25	106	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	6	179	127	24	9	339	56.5	1	190	149	279	60	194	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	5	158	70	18	3	249	49.8	0	138	111	225	24	154	95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	6	237	138	32	5	412	68.7	5	194	218	357	55	240	172	0	0	0	0	0	2	3	2	0	7
10月	6	142	182	23	10	357	59.5	3	186	171	308	49	217	140	0	0	0	0	0	0	4	2	0	6
11月	6	191	232	18	0	441	73.5	0	221	220	381	60	243	198	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
12月	5	277	161	16	10	464	92.8	0	248	216	419	45	289	175	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
1月	8	533	196	31	23	783	97.9	13	420	363	669	114	479	304	2	0	0	0	2	1	0	2	0	3
2月	6	207	180	17	2	406	67.7	4	230	176	339	67	243	163	0	0	0	0	0	6	0	1	0	7
3月	6	125	114	20	4	263	43.8	0	136	127	221	42	169	94	0	0	0	0	0	1	2	2	0	5
計	71	2,325	1,691	286	88	4,390		32	2,324	2,066	3,753	637	2,661	1,729	2	0	0	0	2	14	12	12	1	39
比率(%)		53.0	38.5	6.5	2.0	100.0			52.9	47.1	85.5	14.5	60.6	39.4										
1日当たり 人数		32.7	23.8	4.0	1.2	61.8			32.7	29.1	52.9	9.0	37.5	24.4										

第11 その他

第 1 1 その他

1 各種協議会等開催状況

(1) 小牧市健康づくり推進審議会(所管：健康生きがい推進課)

区 分	月 日	議 題
第 1 回	令和 5 年 5 月 31 日	(1) 会議の公開について (2) 小牧市健康づくりに関するアンケート調査の結果について (3) 小牧市健康づくり推進プランの骨子案について
第 2 回	令和 5 年 11 月 1 日	(1) 小牧市健康づくり推進プランの素案について
第 3 回	令和 5 年 12 月 6 日	(1) 小牧市健康づくり推進プランの素案について
第 4 回	令和 6 年 2 月 21 日	(1) パブリックコメントの実施結果について (2) 小牧市健康づくり推進プラン(案)について (3) 令和 5 年度本市の取組みについて

小牧市健康づくり推進審議会推進部会(所管：保健センター)

部会名	議題・検討内容
合同推進部会	・令和5年度小牧市健康づくり推進審議会及び推進部会について ・各部会における令和4年度の実施状況及び令和5年度の実施について ・健康づくりに関連する事業について
栄養・食生活部会 (4回開催)	①学童期における望ましい体格を知るリーフレット「食育だより」についてデジタル化の検討 ②小冊子「簡単お食事ガイド」の内容の充実と、デジタル化の検討 ③クックパッド小牧市公式キッチンの運用について ④ヘルシーメニューの周知のための検討
身体活動・運動部会 (4回開催)	①「親子で楽しめる遊び場マップ」について、幅広く周知するための工夫についての検討と実施 ②日常生活における身体活動の増加に向けた取り組みについて、年代別に検討 ③ナッジ理論を活用した「プラス10」の普及啓発について検討
休養・こころの健康部会 (4回開催)	①より多くの市民にゲートキーパーについて知ってもらうための方法の検討と実施 ②自殺予防週間や自殺対策強化月間に合わせた普及啓発の検討 ③ワーク・ライフ・バランスに向けた支援策として、大学生対象のアンケートについて検討
たばこ・アルコール部会 (4回開催)	①受動喫煙対策についての検討 ②COPDの普及啓発についての検討 ③適正飲酒量の周知啓発についての検討
歯の健康部会 (3回開催)	①コロナ禍における園児のう蝕対策に関する取り組みの検討 ②給食後の歯みがきやフッ化物洗口など、学童期の歯科疾患対策に関する具体的な取り組みの検討 ③青年期、壮年期の歯周病、オーラルフレイルなどの歯科疾患予防に関する具体的な取り組みの検討を行い、次年度よりいきいき世代個別歯科健診オーラルフレイルの健診項目を追加して実施する予定 ④乳幼児期及び学童期の口腔機能の発達支援に関する具体的な取り組みの検討並びに研修会の開催 ⑤全世代を対象に、条例の制定や口腔ケア等、お口の健康に関する普及啓発についての検討

(2)小牧市予防接種協議会

区 分	月 日	議 題
第 1 回	令和 5 年 4 月 5 日	(新型コロナウイルスワクチン接種推進室 主催)
第 2 回	令和 5 年 7 月 26 日	〃
第 3 回	令和 5 年 10 月 25 日	・令和 4 年度実績について、令和 5 年度予防接種について (新型コロナウイルスワクチン接種推進室 共催)
第 4 回	令和 5 年 12 月 20 日	(新型コロナウイルスワクチン接種推進室 主催)
第 5 回	令和 6 年 2 月 14 日	〃

(3)小牧市休日急病診療所運営協議会

区 分	月 日	議 題
第 1 回	令和 6 年 2 月 2 日	・令和 4 年度小牧市休日急病診療所事業報告について ・令和 5 年度小牧市休日急病診療所の現状について

(4)小牧市母子保健推進協議会

区 分	月 日	内 容
第 1 回	令和 5 年 6 月 30 日	報告 (1) 生と性のカリキュラム令和 4 年度実績報告 (2) 「生と性に関するアンケート」結果報告について (3) 生と性のカリキュラム＝地域版＝親子で学ぶ性教育について (4) 親子健康手帳の改訂について 協議事項 (1) 赤ちゃん訪問事業について
第 2 回	令和 5 年 9 月 29 日	報告 (1) 令和 4 年度乳幼児健康診査実績報告及び未受診者実績報告 (2) 発達障がいをもつ子どもとその親への支援のあり方部会 令和 4 年度実績報告 (3) 令和 4 年度赤ちゃん訪問事業実績報告
第 3 回	令和 5 年 11 月 24 日	協議事項 (1) 親子を取り巻く現状から考える、今後必要な支援について (2) 生と性のカリキュラム「性に関するアンケート」の実施について 報告 (1) 第 2 次健康日本 21 こまき計画 健康こまきいきプラン後期計画令和 4 年度母子保健に関する取組について
第 4 回	令和 6 年 2 月 16 日	協議事項 (1) 生と性のカリキュラム「性に関するアンケート」について 情報提供 (1) 5 歳児健康診査について (2) 生と性のカリキュラム「親子で学ぶ性教育【幼児編】講座」動画公開について

2 不妊治療等助成事業

(1) 目的

妊娠を望んでいる方々の経済的負担を軽減するために、不妊検査、不妊治療及び人工授精に要する費用を助成する。

(2) 対象者

次のいずれにも該当する方

- ・ 双方、またはいずれか一方が申請日において小牧市内に住民登録をしている方
- ・ 婚姻届を出されているご夫婦、または事実婚関係にある男女
- ・ 医療保険加入者、または被扶養者の方、若しくは生活保護法に規定する医療扶助、または中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び、永住帰国後の自立の支援に関する法律に規定する医療支援給付対象者
- ・ 市税(市県民税、固定資産税及び国民健康保険税)を滞納していない方
- ・ 産科、婦人科、産婦人科、泌尿器科または皮膚泌尿器科を標榜する医療機関において、不妊症と診断され、不妊症検査・治療等を受けられた方

(3) 補助金を受けることができる医療行為

- ・ 不妊検査
- ・ 不妊治療(特定不妊治療を除く)
- ・ 人工授精

(4) 補助期間及び補助金額

- ・ 1年度に付き1回5万円までを上限として、治療を受けられている医療機関で医師の認めた治療の自己負担分
- ・ 診療日の属する月から継続する2年間(24か月)

(5) 助成組数

85組

(6) 補助金申請時に妊娠が成立していた対象者

28組

3 不育症治療等助成事業

(1) 目的

医療機関において不育症の診断を受けた方々の経済的負担を軽減するために、不育症検査及び不育症治療に要する費用(保険適用外分のみ)を助成する。

(2) 対象者

次のいずれにも該当する方

- ・ 双方、またはいずれか一方が申請日において小牧市内に住民登録をしている方
- ・ 婚姻届を出されているご夫婦、または事実婚関係にある男女
- ・ 医療保険加入者、または被扶養者、若しくは生活保護法に規定する医療扶助、または中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び、永住帰国後の自立の支援に関する法律に規定する医療支援給付対象者
- ・ 市税(市県民税、固定資産税及び国民健康保険税)を滞納していない方
- ・ 産科、婦人科、産婦人科を標榜する医療機関において、不育症と診断され、不育症検査・治療を受けられた方

(3) 補助金を受けることができる医療行為

- ・ 不育症検査
- ・ 不育症治療

(4) 補助回数及び補助金額

- ・ 1回の治療につき15万円を上限として、治療を受けられた医療機関で医師の認めた治療の自己負担分(保険適用外)
- ・ 治療開始から治療終了までを1回の申請とし、5回まで

(5) 助成組数

1組

4 小牧市自殺対策計画の推進

(1) 目的

自殺はその多くが防ぐことのできる社会的な問題であり、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す上で、家庭、地域、学校、職場等、様々な場で、「いつもと違う」様子に気づき、必要に応じて専門機関等へつながることが重要であり、早期の段階で困っている人に気づく身近な支援者を増やし、みんなで生きることを支える地域づくりを進める。

(2) 対象

一般市民

(3) 実施内容

ア 会議

区 分	月 日	議 題
小牧市自殺対策推進協議会	令和5年11月9日	・自殺の現状、自殺対策計画の取組について
小牧市自殺対策庁内連絡会議	令和6年1月29日	・自殺の現状、自殺対策計画の取組について
小牧市うつ・自殺対策相談窓口ネットワーク会議	令和5年10月10日	・自殺対策初回アセスメントシートを活用した事例検討

イ 取組

- ・ゲートキーパー養成講座開催

ゲートキーパー養成講座	対象：職員（基礎編）	令和5年8月29日（30名）
	対象：職員（応用編）	令和5年8月29日（23名）
	対象：保健連絡員 ①はじめて編	令和5年6月19日（36名） 令和5年6月26日（23名）
	対象：保健連絡員 ②ステップアップ編	令和5年8月30日AM（31名） 令和5年8月30日PM（19名）
	対象：専門職	令和6年2月28日（20名）
	対象：一般市民	令和6年2月4日（112名）

- ・ゲートキーパーについて周知・啓発（区長会、民生委員・児童委員連絡協議会、職域関係者等）
- ・自殺再企図防止講座の開催（専門職および相談窓口対応職員対象）
- ・「自殺予防週間（9月）」および「自殺対策強化月間（3月）」に合わせた普及啓発（ポスターの掲示、啓発物品の設置、図書館との連携によるデジタルサイネージの活用や関連図書コーナーの設置等）
- ・こころの相談窓口パンフレットの作成および配布
- ・広報、市のホームページ等で「こころの健康」および相談先について周知

5 骨髄提供者等助成事業

(1) 目的

公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業において、骨髄又は末梢血幹細胞(以下「骨髄等」という。)を提供した方や提供した方が勤務する事業所に対し、提供に要する負担を経済的支援により軽減する。また、骨髄等の移植の推進及び骨髄バンクへのドナー登録者数の増加を図る。

(2) 対象者

次に該当する方

- ア 骨髄等の提供において小牧市に住所を有し、かつ居住をし、公益財団法人日本骨髄バンクを通じて骨髄を提供した方
- イ 骨髄等を提供した方が、骨髄等の提供のために要した通院又は入院した日数を通じて勤務している国内の事業所(個人事業主、官公庁、独立行政法人、地方独立行政法人及び国立大学法人を除く)

(3) 助成の対象となる経費

- ア 骨髄等の提供のための健康診断や自己血貯血に係る通院費用
 - イ 骨髄等の採取にかかる通院費用や入院費用
- ただし、骨髄等の提供が完了した日から1年以内の申請による

(4) 助成金額と期間

1回の骨髄等の提供につき、通算7日が上限

骨髄等を提供した方	(1) 通院又は入院1日につき2万円 (2) 20万円(市独自の助成金)
事業所	通院又は入院1日につき1万円

(5) 助成者数

1名

6 小牧市がん患者医療用補整具購入費助成金

(1) 目的

医療用補整具の購入に係る費用の一部を助成することにより、がん患者の方の心理的負担及び経済的負担の軽減を図り、治療・就労・社会参加等との両立の支援と療養生活の質の向上を図る。

(2) 対象者

次に該当する方

- ア 医療用補整具を購入した翌日から助成金の交付の申請をする日までの間、本市の住民基本台帳に記録されている方
- イ がんと診断され、がんの治療を受けた者又は現に受けている方
- ウ がん治療に起因する脱毛又はがんの外科的治療等による乳房の変形に対応するための医療用補整具を購入した方

(3) 助成の対象となる経費

医療用補整具の購入に係る費用

- ア ウィッグ(全頭用・部分用)
※ウィッグと同時申請の場合のみ、頭皮保護用ネットを含む
- イ 乳房補整具(補整下着、補整パッド又は人工乳房)
※乳房補整具と同時申請の場合のみ、それらを固定する下着を含む

(4) 助成金額と期間

購入費用の2分の1(上限はウィッグ・乳房補整具ともに各2万円)

※1,000円未満は切り捨て

※助成回数は1人につき各1回限り

(5) 助成件数

- ア 医療用ウィッグ 46件※
 - イ 乳房補整具 25件※
- ※内2件は両種類同時申請

7 小牧市若年がん患者在宅療養助成金

(1) 目的

若年のがん患者に対し、在宅サービスの利用等に係る費用の一部を助成することにより、若年のがん患者の経済的負担を軽減し、安心して住み慣れた自宅での生活ができるよう支援する。

(2) 対象者

次のいずれにも該当する方又は市長が特に必要と認める者

ア 在宅サービスの利用等の時点及び申請の日において本市の住民基本台帳に記録されている方

イ 在宅サービスの利用等の時点において、40歳未満の方

ウ がん患者（医師に一般に認められている医学的知見に基づき回復の見込みがない状態に至ったと判断された方に限る。）

エ 在宅生活の支援及び介護が必要な方

オ 本市の市税の滞納がない方

カ 福祉用具の借用及び福祉用具の購入に係る費用の助成については、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第19条の2第1項の規定による小児慢性特定疾病医療費の支給を受けていない方

キ 他の公的な制度又は保険による同種の助成又は給付を受けていない方

(3) 助成の対象となる経費

ア 在宅サービスの利用費用

訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護、その他若年のがん患者が自宅で生活するために必要と認められるサービスの利用費用

イ 福祉用具の借用費用

手すり・スロープ（工事を伴わないもの）、歩行器、歩行補助つえ、車いす、車いす付属品、特殊寝台、特殊寝台付属品、床ずれ防止用具、体位変換器、移動用リフト（つり具の部分を除く。）、自動排せつ処理装置、その他介護保険で認められるものの借用費用

ウ 福祉用具の購入費用

腰掛便座、自動排せつ処理装置の交換可能部品、入浴補助用具、簡易浴槽、移動用リフトのつり具の部分、排せつ予測支援機器、その他介護保険で認められるものの購入費用

(4) 助成金額

1か月ごと、対象経費の合計のうち9割（上限54,000円）

※1,000円未満は切り捨て

(5) 申請・請求期限

助成対象のサービス等を利用した年度内

(6) 助成件数

0件